特201
894

文信社編輯部編

# 帝國大學入學提要

附録・入學試驗問題集

昭和八年度新版

東京 文信社 發行

*0051465000*

0051465-000

特２０１－８９４

帝国大学入学提要

文信社編輯部・編

文信社

改訂１０版
昭和８

AHM

昭和八年度の『帝大入學出願者及入學者表』掲載の豫定でありました處右は文部當局に於て目下調査中でありますため遺憾乍ら印刷の間に合ひませんでしたが遲くも十月中には調査完了の豫定ださうです。就いては右調査完了の場合には早速印刷して御送り致しますから御手數乍ら左記引換券御持參の上本年十月より來年三月迄の間に於て本書御買求めの書店で御引換下さい。先づは右御詫旁々御願迄。

昭和八年五月

文信社

帝國大學入學提要〔附錄〕

引換券

昭和八年度帝大入學出願者及入學者表

特201
894

文信社編輯部編

# 帝國大學入學提要

〔附錄〕入學試驗問題集

昭和八年度新版

發行 文信社 東京

帝國大學

# はしがき

高等學校增設に依るその卒業生の激增は大學の入學をして近年一段と困難ならしめ此處にも悲慘なる入學地獄の嗟嘆を叫ばしむるに至つた。高校生諸君の面前には冷やかにも刻々諸君の生涯を決定する唯一の機會が迫りつゝある。大學の選擇！難關の突破！これぞ今や全高校生諸君の頭上に懸る最大關心事でなければならぬ。本書はかゝる情勢の下に於て眞に諸君の伴侶たるべく多年の經驗と最近の調査とに基いて、先に弊社發行にかゝる『帝國大學入學受驗提要』を根本的に改め、帝國大學官立大學の入學試驗問題はもとより、各大學各學科の現況からその卒業生の就職傾向に至るまで凡そ高校生諸君が眞に問はんと欲する所は悉く網羅し、大學の入學參考書として無二の指針たらん事を期したる次第である。

## はしがき

尙本書の編輯に當つては日夜高校生諸君の親しき「帝國大學新聞」に直接間接負ふ所が多い。玆に改めて同社に謝意を表する次第である。

昭和四年七月

編者しるす



## 本書の特色

一、本書は特に東京帝國大學を初め各大學各學科の現況、卒業後の就職傾向を述べ高校生諸君の進路決定に資したり。

一、本書は各大學各學科の入學、入學試驗狀況を述べ入學志願者の參考に供したり。

一、本書は東京帝國大學各學部教授諸先生の入學試驗に關する感想を述べ試驗の眞相を披瀝したり。

一、本書は各大學各學部の最近七ケ年間入學試驗問題を掲げ受驗者の準備に遺憾なからん事を期したり。

# 帝國大學入學提要 目次


第一　大學並學科の選擇……一
一、冷淡なる現行制度……一
二、學部學科の選擇……二
三、大學の選擇……三
第二　東京帝國大學の現況……六
一、法學部……六
二、經濟學部……七
三、文學部……一〇
四、醫學部……一三
五、工學部……一四
六、農學部……一六
七、理學部……一八
第三　東京帝國大學各學部入學受驗案內……一九
一、法學部……一九
二、經濟學部……二二
三、文學部……二三
四、醫學部……二四
五、工學部……二七
六、農學部……二八
七、理學部……二九
第四　入學試驗に關する東大諸教授の感想……三一
一、法學部……三一
二、經濟學部……三三

目次


三、文學部……二四
四、醫學部……三五
五、工學部……三七
六、農學部……三八
七、理學部……三八
第五　各帝國大學の現況……三九
一、京都帝國大學……四〇
二、東北帝國大學……四三
三、九州帝國大學……四六
四、臺北帝國大學……四八
五、大阪帝國大學……四九
六、北海道帝國大學……四九
第六　各單科大學の現況……四九
一、各醫科大學……四九
二、商業、商科大學……五〇
三、文理科大學……五一
四、工業大學……五二
第七　帝國大學及官立大學入學規程……五三
一、東京帝國大學入學規程抜萃……五三
二、京都帝國大學入學規程抜萃……五六
三、東北帝國大學入學規程抜萃……五八
四、九州帝國大學入學規程抜萃……六一
五、新潟醫科大學入學規程……六二
第八　選科生聽講生に關する入學規程……六三
一、東京帝國大學選科生入學規程……六三
二、東京帝國大學聽講生入學規程……六四
第九　帝國大學入學志願とその順序……六五
第十　帝大各學部入學志望者出願者入學者調……六六
第十一　東大入學率一覽表（昭和八年度）……六六




〔附　錄〕

# 帝國大學入學試驗問題集

## 昭和三年度


○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學醫學部……四
○東京帝國大學工學部……六
○東京帝國大學理學部……八
○東京帝國大學文學部……一二
○東京帝國大學農學部（第一次）……一四
○東京帝國大學農學部（第二次）……一七
○東京帝國大學經濟學部……一八
○京都帝國大學醫學部……二四
○京都帝國大學文學部……二七
○京都帝國大學理學部……三〇
○京都帝國大學農學部……三四
○九州帝國大學醫學部……三七
○東北帝國大學醫學部……四二
○東北帝國大學工學部……四四
○東北帝國大學法文學部……四五
○金澤醫科大學……四八
○千葉醫科大學……五〇
○長崎醫科大學……五二


## 昭和四年度


○大阪工業大學……一
○神戸商業大學……三
○東京文理科大學……六

○岡山醫科大學……一三
○新潟醫科大學……一五
○千葉醫科大學……一八
○京都帝國大學醫學部……二〇
○京都帝國大學文學部……二四
○京都帝國大學農學部……二八
○京都帝國大學工學部……三一
○東北帝國大學醫學部……三六
○東京帝國大學法學部……四一
○東京帝國大學經濟學部……四四
○東京帝國大學醫學部……五〇
○東京帝國大學理學部……五三
○東京帝國大學工學部……五七
○東京帝國大學文學部……六〇
○東京帝國大學農學部……六三
○九州帝國大學醫學部……六五
○九州帝國大學工學部……六七
○九州帝國大學法文學部……六八
○九州帝國大學農學部……七一
○東北帝國大學理學部……七三

## 昭和五年度

○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……四
○東京帝國大學工學部……一〇
○東京帝國大學理學部……一三
○東京帝國大學醫學部……一六
○東京帝國大學農學部……一九
○東京帝國大學文學部……二二
○東京商科大學……二六
○東京文理科大學……二八





○東京工業大學……三五
○東北帝國大學理學部……三九
○京都府立醫科大學……四九
○大阪工業大學……五三
○長崎醫科大學……五五
○大阪醫科大學……五八
○岡山醫科大學……六一
○愛知醫科大學……六三
○千葉醫科大學……六五
○金澤醫科大學……六七
○東北帝國大學醫學部……六七
○東北帝國大學法文學部……七〇
○東北帝國大學工學部……七五
○京都帝國大學工學部……七七
○京都帝國大學理學部……八〇
○京都帝國大學醫學部……八三
○京都帝國大學農學部……八五
○京都帝國大學法學部……八八
○大阪商科大學……九二
○廣島文理科大學（第一次）……九四
○廣島文理科大學（第二次）……九九
○旅順工科大學……一〇四
○九州帝國大學法文學部……一〇四
○九州帝國大學工學部……一一三
○九州帝國大學農學部……一一六
○九州帝國大學醫學部……一二〇
○新潟醫科大學……一二二

## 昭和六年度

○東京文理科大學……一
○京都府立醫科大學……九

○大阪工業大學……一〇
○大阪帝國大學醫學部……一三
○千葉醫科大學……一六
○金澤醫科大學……一八
○岡山醫科大學……二一
○長崎醫科大學……二四
○廣島文理科大學……二六
○東京帝國大學法學部……三一
○東京帝國大學經濟學部……三五
○東京帝國大學工學部……四一
○東京帝國大學理學部……四五
○東京帝國大學醫學部……四八
○東京帝國大學文學部……五一
○東京帝國大學農學部……五四
○東北帝國大學醫學部……五六
○東北帝國大學法文學部……五九





○東北帝國大學理學部(第一次)……六三
○東北帝國大學理學部(第二次)……六七
○東北帝國大學工學部……六九
○九州帝國大學法文學部……七三
○九州帝國大學醫學部……七五
○九州帝國大學農學部……七八
○九州帝國大學工學部……八〇
○京都帝國大學醫學部……八三
○京都帝國大學法學部……八五
○京都帝國大學農學部……九〇
○東京工業大學……一〇四
○神戸商業大學……一〇八
○名古屋醫科大學……一一三
○大阪商科大學……一一四
○東京商科大學……一一九


# 昭和七年度


○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……四
○東京帝國大學工學部……一二
○東京帝國大學理學部……一五
○東京帝國大學醫學部……一八
○東京帝國大學文學部……二一
○東京帝國大學農學部……二五
○京都帝國大學法學部……二八
○京都帝國大學經濟學部……二八
○京都帝國大學農學部……二八
○京都帝國大學醫學部……二八
○京都帝國大學工學部……三三
○京都帝國大學文學部……三六





○京都帝國大學理學部……四二
○東北帝國大學醫學部……四四
○東北帝國大學工學部……四八
○東北帝國大學理學部……五〇
○東北帝國大學法文學部……五二
○九州帝國大學醫學部……五三
○九州帝國大學農學部……五五
○九州帝國大學法文學部……六一
○九州帝國大學工學部……七〇
○東京文理科大學……七二
○廣島文理科大學……八〇
○東京工業大學……八五
○新潟醫科大學……八九
○岡山醫科大學……九一
○千葉醫科大學……九三
○金澤醫科大學……九四

目次


○大阪帝國大學醫學部……一〇〇
○名古屋醫科大學……一〇三
○熊本醫科大學……一〇三
○東京商科大學……一〇五
○神戸商業大學……一〇六
○旅順工科大學……一〇八
○大阪工業大學……一〇九


## 昭和八年度


○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……五
○東京帝國大學工學部……一〇
○東京帝國大學理學部……一三
○東京帝國大學醫學部……一六
○東京帝國大學文學部……一九
○東京帝國大學農學部……二二
○大阪商科大學……二三
○京都帝國大學法學部……二六
○京都帝國大學經濟學部……二六
○京都帝國大學農學部……二六
○京都帝國大學醫學部……二七
○京都帝國大學工學部……三〇
○京都帝國大學理學部……三三
○京都帝國大學文學部……三四
○京都府立醫科大學……三六
○九州帝國大學醫學部……三六
○九州帝國大學法文學部……三八
○九州帝國大學醫學部……四一
○九州帝國大學農學部（第一次）……四八
○九州帝國大學農學部（第二次）……五一





○九州帝國大學工學部（第一次）……五四
○九州帝國大學工學部（第二次）……五七
○熊本醫科大學……五九
○名古屋醫科大學……五九
○新潟醫科大學……五九
○東北帝國大學工學部……六〇
○東北帝國大學醫學部……六一
○東北帝國大學理學部……六二
○東北帝國大學法文學部……六三
○大阪帝國大學醫學部……六六
○大阪帝國大學工學部……六九


# 帝國大學入學提要目次 終

目次


○岡山醫科大學……七四
○千葉醫科大學……七六
○金澤醫科大學……七九
○長崎醫科大學……八一
○廣島文理科大學……八三
○旅順工科大學……九二
○東京商科大學……九三
○神戸商業大學……九五
○東京工業大學……一〇〇
○東京文理科大學……一〇四

# 帝國大學入學提要

文信社編輯部編

## 第一　大學並學科の選擇

### 一、冷淡なる現行制度

現在の高等學校は高等普通教育を授ける處であつて大學の豫科（勿論今でも北海道、京城、東京商科大學の如く依然たる豫科制度の大學もあるが）ではなくなつた。しかし事實は高等學校を卒へたのみでは社會が相手にしないし又學問の研究も單に糸口を與へられたに過ぎないもので、社會に職を求め、研究を續けるにはどうしても大學の門をくゞらねばならない。處が大學の豫科でないと云ふ形式上の制度は高校卒業生の大學志望と云ふ重大なる問題を稍々もすれば冷淡視勝ちの傾向を持つ、それは文部省もそうであるが大學當局もそうである。或る高校卒業生は三年も或大學を受驗して不幸落第した遂に彼は行く處がなく同僚よりも

三年も後れて辛ふじて某私立大學に入學した。こうゆう例はいくらもあることだがそうなつたからとて當局は彼に一鞠の同情も持たない、責は彼にあるからであらう。制度がこうある以上我々は悲憤の涙をこぼしても如何とも仕難い、たゞこの制度の下に於てはよく〳〵自分の能力、將來の仕事と云ふことを見極め充分熟慮した上で高校卒業後は如何なる大學、如何なる學科に向ふべきかについて態度を決せねばならぬ。

## 二、學部學科の選擇

高等學校は文科理科に分れるのみであるが、大學は愈々專門化するのであるから文科系統は法



科、經濟科、文科更に此等は又細分され專門化されてくる、理科系統では工科、醫科、理科、農科等に分れそれが更に細分されること亦同樣である。而して同じ文科系統でも分れた各部の相違は實に天地の差も甚だしいものがある、そうしてそれは又單に攻究する科目の差異のみならず卒業後のかくして一生の生活を支配する處のものである事を知るに及んで、この時この際に於ける專攻學部、學科の選擇は實に徒らでない事を知らねばならぬ。尤も人間は或程度までは物に對する適應性があるのであつて住めば都のたとへ、多少の差異は無視してもいゝ場合もあるが、これも程度問題で自分の不適當の學科を出たゝめに大學生活を棒に振つたと云ふ例も少くはない。よく世上彼の專攻の學科と似もつかぬ仕事をしてゐる人々を見受けるがかゝる人は此部類へ入る人たちであつてそうなる事は決して幸福であつたとは云へないのである。然して又高等學校の理科、文科の區別は單に豫備教育であるからそれほどではない。變則ではあるが、理科から出て文科系統に行つてゐるものもあるし、或學科に依つては却つてその道を通るが便利なる場合もあると云ふ、勿論この場合理科出身者は文科系統で既に滿員になる科には志望出來ぬし、又文科出身者は理科系統の第一次で滿員になる場合には志望しても無効であるから、必ず缺員があると見える學科のみにゆるさるべき事



でこの變則は適用の範圍は狹いと見なければならぬ。だが大學を出る時はその學科は一生を支配し、就職の先まで決定するものである事を注意せねばならぬ。學科の選擇まことに重要なりと云はざるべからず。然らば如何にして學科を選擇するか、それは勿論先輩、知人、父兄等に相談するもよからうが最もよく己を知るものは己である故先づ自ら充分研究すべきであらう。參考まで主として東大の各科の內容を別項に紹介しようと思ふ。

## 三、大學の選擇

最後に大學の選擇は最も喫緊なる關係があるから注意が肝要である。この問題は一ばん我々の頭

を腦ます問題であると思ふ。何となれば或大學（主として東京）を志望して入學出來ればよし、出來なければ次には第二次志望と云つて最後にまわらねばならぬ。第一志望の場合には無試驗で易々として入れた處へ第二次に廻つた爲猛烈なる競爭試驗を受けねばならなくなり（例へば文科系統の學科で缺員あれば理科系統の志望者を容れ更に缺員ある場合は高等師範學校、高等商業學校その他の專門學校出にして學部の檢定試驗に合格したものはその缺員に志望する資格があり　第二次となるとこれ等の人々と一しよに受驗せねばならなくなるので一層困難になつてくるわけである。）萬一そこに失敗すれば今年は大學入學を棄權しねばならないと云ふ重大なる結果になるのである。だからと云つて初めから志望者の最も少い處を選んだなら無試驗で大學へ入る事は出來ようが自分の意に反する―自分は最も設備のとゝのつた立派な地の利を得た大學を希望してゐるんだ―結果となる。誰しもやがて自分の母校となるべき大學は地の利を得た、就職にも比較的便利な、設備の整備した、古き、立流な教授先輩の多き大學を望む事は當然である。學科に依つては卒業後の活動範圍がその大學の所在地に依つて制限されると云ふ事もあるならば尚更のこと、他に比して、東大がこの點にめぐまれてゐる事は周知の事である。此處に冷靜に熟慮しなければならない問題がある。東大へ向はんかそこにはまれに見る難關が控えてゐる。年々の東大を見るに別表の如く法科では收容六五〇に對して實に千百餘名の志望。醫學部に在つては收容一六五に對して五九〇の志望（別項參照）と云ふ驚くべき數字を示してゐるのである。そこで勇敢に飽くまで戰ひ拔く氣力と能力とを持つものは、男子だ、どし〳〵難關にぶつかるべし、げに一年位よし棒に振るとも一生の長きに比すべくもあらずである。まことに然り人生は競爭であるその競爭に打勝つてこそ男子の本懷である。だが少なからざる悲劇の實例を見る事を好まざるものは、又は世利に超然たるものは又は單に資格を得ようと云ふものは（醫師、敎員等の）何を好んで競爭試驗に行かう。比較的易い京都、東北、九州へ行くがいゝのであるし、又そうあるであらう。眞に學を好むものはそんな俗氣でまよわされてはならぬからである。最後にも一度注意しておく事は此場合でも學科の選擇は先決問題であると云ふ事である。例へば醫者にならうと思ふには先づ醫科へ行く事が先決問題で然る後何處の大學の醫科を選ぶかと云ふ問題になるわけで、學科を先づ定めてさてどの大學く行くべきかを決するが順序である事は云ふまでもない。我々飽くまで冷靜に考へ決定したならば勇敢に進む事である。

# 第二　東京帝國大學の現況

## 一、法學部

法學部は更に法律學科及政治學科の二學科に分たれる。この二學科の區別はその履修科目の別に依るのであるが、將來卒業後にも出身學科に依つて幾分左右されることをまぬがれないから、入學に際して內容を知つておく必要がある。たゞし入學後に於ても一定の期間教授會の議を經て轉科を許される規程があるから、どの科をやるべきかは入學の後に決しても支障ない。

(1)　法律學科　法律學科は政治學科に比してその名の如く法律を專門に學ぶに適しておるから卒業後就職するに當つてもその方面に行くに好都合である。司法官、辯護士、官吏、外交官となるには高等文官試驗に合格しなければならないが、此等の受驗には法科、中でも法律科の出身が一番都合がいゝ。これは勿論法科(法律政治)に限つた事ではなく各自の勉强如何に依つて運命は決するのであるが、兎に角官界に於ける東大法科閥(或は語弊があるやも知れず)の根ばりはすばらしいもので殆んど絶對的と云つても過言ではない。だから志を立てゝ官界へ出よ



うとするものがあるならばすべからく東大の法科へ行くべきである。最近高等試驗令が改正されたがまだ何と云つても高等試驗は法律萬能である事を併せて注意しておく。今この法律學科にて履修すべき科目を擧げれば。

必修科目　憲法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、外國法。

選擇科目　行政法、國際公法、國際私法、ローマ法、法理學、法制史、西洋法制史、經濟學。

(2)　政治學科　政治學科は純法律よりもその名の如く政治、經濟、その他政策ものを主たる學科としてゐる。勿論卒業後は法律科と同じく官界に特に外交官に向ふものも少くないが、概して云へば、銀行、會社等の方面に多い。そして在學中も困難なる科目が割合少い事が法律科に比べて異つてゐる。

必修科目　憲法、國法學、政治學、行政法、國際公法、經濟學、財政學、政治史、外交史、民法。

選擇科目　統計學、政治學史、社會政策、社會學、商法、刑法、國際私法、法制史。

## 二、經濟學部

東大經濟學部が法科から獨立したのは大正八年、その頃は經濟學部の入學はいつも無試驗であ

つたが最近は志願者急激に增加してゐる。文科系統の就職の大部分が實業界にある以上初めから實業界を志すものは法科よりも經濟科の方をより適切であるとする。それに法科に比して人數が少く經濟、商業兩方で三百五十名、就職も樂だと云ふわけであらうか。經濟學部にあつては法科とちがつて入學後經濟、商業間の轉科はゆるされてゐないから志願者はあらかじめ態度を決めておかねばならない。そして四五年前までは商科は定員に滿たない場合があつて經濟をおちて商科へ廻された場合もあつたが今後はそんな事は考へられない。先づ兩者殆んど同じ位と見るが至當であらう。尙商科は從來割合に好まれてゐないやうであるが、それは履修科目に幾分面倒なものがある爲であらうか、だが就職は却つてこの方がよろこばれてゐると云ふことである。政策的な知識よりも銀行會社で實際に必要なテクニックを教へるのが商科であるから將來は益々世間から歡迎されるであらう。

(1) 經濟學科　經濟學科は商業學科に比し理論的、政策的のものが多い。又選擇科目には法科系統のものも相當多い。法科を出ずして文官試驗を受けるもの、多いのも之が爲めであらう。一面官界にも向き經濟界にも向く點がこの科の便宜である。今履修科目を擧げれば

必修科目　經濟原論、經濟史、貨幣論、銀行論、農業政策、工業政策、統計學、保險學、財政學、民法、商法、經濟學史、商業政策、交通政策、社會政策、殖民政策、第一外國語經濟學。

選擇科目　會計學、經濟地理、國際金融論、取引所論、政治學、社會學、哲學、憲法、行政法、刑法、國際公法、國際私法、第二外國語經濟學、演習、特別講義。

(2) 商業學科　商業學科は經濟科に比して商業の實踐的のもので而も科目が多い。從つてこれ等の科目は政策的な理論的のものより勉強にも努力を要することになる。これが一般にこの科の好まれない點であるが、一方銀行に行き會社へ行けば皆すぐ必要なことで却つて商科の方が歡迎されるのはこれが爲めである。從つて商科を出れば殆んど大部分銀行、會社へ行くやうである。

必修科目　會計學、商事經營學、商業數學、經濟地理、商業史、商業英語、經濟原論、貨幣論、銀行論、統計學、保險學、民法、商法、工場經營論、國際金融論、取引所論、貿易理論、貿易實務、商品學、商業政策、財政學。

選擇科目　工業會計、銀行會計、倉庫論、生命保險論、海上保險論、工業通論、商業學、交通政策、社會政策、憲法、行政法、國

際公法、演習、特別講義。

## 三、文學部

東大文學部には凡そ十七の學科がある。各科の相違この位千差萬別のところはない。同じ文科と云ふ名前の中に專攻によつて全然行き方がちがつて來るのである。勿論入學に當つては、入學試驗のある場合(大概あると見るべし)はその試驗の成績如何で左右されざるを得ないが從令文科に入つたとしても科に依つては自分の目的と似もつかない所に押し込まれる恐れがある。例へば英文學をやらうと思ふものが哲學へ入つたり、倫理へ入つたりしたとしたら全く志望に背反した結果になるであらう。入學試驗のことに關しては別に更に述べるとして、入學せんとするものはあらかじめ科目を定めてそれを順次に第一志望、第二、第三、と決しなければならぬ、であるから豫め充分に學科について研究をしておく必要がある。そして試驗を經て來るのであるから入つてから轉學はゆるされないわけでこの點特に注意を要する。次に卒業するにはそれ〴〵專攻について論文を提出しなければならない論文は更に口述を經て合格するがこの論文には各自大部精力をつかつてゐる、がそれだけ學科の試驗は他の學部に比して容易のやうである。

文科の卒業生は就職するとすればその大部分は敎



員となつてゐる。勿論銀行會社員、官吏、新聞記者、文士等に向ふものも相當の數に上るが過半は敎員である。而して各科とも存學中試驗科目の配列に依つて中等敎員の資格も得られるのであるから一層便利のわけである。

今十七學科の各科目を擧ければ左の如くである。

(1) 國文學科　主として國語及國文學について研究する。一ばん普通の學科で範圍が廣いだけ卒業後も働く口も多く、敎師、作家等に好都合である。

(2) 國史學科　專ら日本歷史について研究し同じく敎員に向ふを普通とする。

(3) 支那哲學支那文學科　支那哲學、支那語學、支那文學について習ふと共に漢文の敎師になるものが多いが新聞記者などもでゝゐる。

(4) 東洋史學科　は東洋史につき。

(5) 西洋史學科　は西洋史學につき習ふ。

(6) 哲學科　宇宙、人生の哲理を極めんと欲する好學の士の進むべきところ、單なる就職の方便によるよりも寧ろ科目の性質上獨自の研究に向はんとする傾向が多い。

(7) 印度哲學梵文學科　梵語梵文學の他主として佛敎の哲理について學ぶ。僧侶になる人には最も適當であらう。

(8) 心理學科　は心理學。

(9) 倫理學科　は倫理學について學ぶが倫理學はいはゆる修身の教師には持つて來いである。

(10) 宗教學宗教史科　は宗教學並に宗教史。

(11) 社會學科　は社會學を講ずる。この科は人數も多く社會的の學問であるから卒業後は色々の方面に向ふものがある。新聞記者、社會事業家、役人などその一例である。

(12) 教育學科　は教育學を、教員向き。

(13) 美學美術史科　は美學美術史を習ひ。

(14) 言語學科　は言語學を學ぶ。

(15) 英文學科　は英語並に英文學。

(16) 獨文學科　は獨逸語並に獨逸文學。

(17) 佛文學科　は佛文、佛語學を何れも收容數の多い大きい學科である。と共に一般向の語學であるだけ教師には勿論職を求むる道は他に比してはるかに有利のやうである。

以上各學科について、特色、科目を述べたが出身學科が必しもいつも常に本人の志望を束縛するものであるとは限らない。之は各學部共通の事であるがたゞ便利であると云ふに過ぎないわけであることを注意しておく。

## 四、醫學部



東大醫學部は醫學科と藥學科の二科に分れてゐる。云ふまでもなく醫學科は四年、藥學科は三年である。同じ醫學部の中にあつても醫學科と藥學科とは全然異なるものであるから豫め知つておく必要がある。第一醫者になるには醫學科を出なければ資格がない。藥學科のみでは藥學士で藥劑士にはなるが、醫學士でないのである。尤も醫者と藥とは離られぬ關係があるし藥學の研究は醫學と共に進んで初めて人間に幸福を齎すものであるがその仕事は全然別なものである。然して又志望に際して注意しておく事は如上の關係にあるのであるから藥學を三年やつて履修しても醫學科へ優先入學するの資格はない。若し藥學士にして醫學士たらんとするには高校卒業生と同樣入學試驗を受けねばならないのである。今醫學部の講座を參考の爲列記すれば

解剖學(講座數三)、生理學(二)、醫化學、病理學、病理解剖學(二)、藥物學(二)、內科學(三)、內科物理療法學、産科學、婦人科學(二)、小兒科學、外科學(三)、整形外科學、眼科學、皮膚科學、泌尿器科學、精神病學、衞生學、黴菌學、法醫學血清科學、耳鼻咽喉科學、齒科學、藥學(三)、藥品製造學。

近來の不景氣就職難の折から醫者だけは食ひはぐれがないとばかり各大學醫學科は何れもおすな〳〵の盛況であるが、それほど醫者は景氣がいゝ

ものかどうか、成程食ふ道には困らないかも知れぬが醫者の中でもいゝ醫者になり分けて博士號位とらうと云ふにはどうしても大學へ殘つて三四年位薄給の苦しい研究を續けねばならない。こゝの卒業生も各教授の下に殘るものが一番多く、就職するとすれば陸海軍、鐵道、赤十字の病院、傳研、駒込、泉橋病院、等に行くか市内一流の病院に入るかで、流石は背景が大東京を控へてゐるだけ地方へ行くものは少いと云ふ。先づ他に比べて景氣がいゝと云ふべきか不景氣知らずは事實であらう。

## 五、工學部

機械文明の樞軸を動かし、その土臺となつて之を背負つて立つものそれは工業技術者である。而もあらゆる工業技術者を養成する苟も工業に關する學科は全部こゝに網羅されてゐる。

東大の工學部は土木、機械、船舶、航空、造兵、電氣、建築、應用化學、火藥、鑛山及冶金の十學科を置く。各學科の區別は嚴然としており入學後の轉科等勿論ゆるされない。されば建築、電氣、機械、土木の如き實行の比較的いゝ學科は六學の入學試驗中最も難關とさへ云はれる程受驗者が殺倒する。そして卒業後も出身科に依つて左右されるのであるから科目の撰擇については特に豫め注意しておく必要がある。就職については最も他の學



部からうらやまれてゐるがやはり依然として（醫學部は別として）學内隨一と云つてもいゝ位、もう五月になれば卒業者三百十餘名の中八九割は何れかへ賣れて行く、而もその中役人が一番多く、次が三菱系の諸會社、滿鐵その他の順といふわけである。勿論前述の如く科別に依る優劣は爭へないが。

本學部は近年學制改革の結果現在各科の授業科目を一括して單位別としその撰擇履修を自由ならしめてゐる。卽ち例へば航空科に居ても建築の講義が聽講が出來ることである。但し專門的な實驗製圖等の設備は各學科に於て制限があるので當該所屬の學生に對して先取權を與へてゐるのみならずそれ〴〵專門的な研究に進んでゆくからには前

項の自由撰擇の趣旨が學科を超越することはあり得ない。要するに學生の修業の便宜に出でたものであつて、就職に當つては出身科の拘束を受けることは他と變りがないのである。

前述の如くこの部の就職先は大體官廳技術員、會社技術員をその大部分とし、教員等之に次ぐ。中にも土木、機械、電氣、建築、應化等が官民を通じて受けがよく、船舶、造兵、航空、火藥等は軍部方面と特殊な關係があるのでこれも失業の心配はない。應用化學、鑛山冶金は主として民間でことに前者は好景氣時代に於ては實にすばらしい勢であつた。後者は主として滿鐵民間鑛山等である。要するに工學部は一つの技術を授けるのであ

るから他に比して地味ではあるが確實なる將來を持つ事は爭はれない事實である。

## 六、農學部

農學部は農業に關する學理と實際を研究するのであるが他の學部中最も地味な學部である。土の生活即大地についた生活を送るのはこの學部である。收容する學生も多くないが卒業後の就職にアブレるやうな事は少いと云ふから落付いた呑氣な學生生活が送られるわけだ。學部は六學科に分る。

(1) 農學科　主として農業生産に關する技術と學理の研究即ち氣象學、土壤學、作物學、園藝學、畜産學、養蠶學、農業經營學等の講義の他に植物、動物に關する實驗から農業養蠶の實習も行ふ。尙この課には農業土木專修科が特別に設けられてあるがこれは耕地整理や開墾等に從ふ專門技術者を養成するが目的である。卒業後の行先は何れも農業技師、教員等が大多數である。

(2) 農藝化學科　こゝでは農業の生産物や農業上に利用される諸物質の化學的研究をする。例へば土壤や肥料の科學的性質の研究とか、食糧品の榮養、酒、ビール醬油の醸造に關する研究が行はれるつまり化學を農業方面に應用し、農産物を化學的に處理加工するなどもその仕事である。



(3) 林學科　山林に關する研究を行ふ。氣象學、地質學、土壤學、測量學等から造林學、森林保護學、同利用等と對象がすべて山林であつて、これは至るところに廣大なる面積を持つ演習林について實施に研究する。卒業後林業に關する方面に行く事勿論である。

(4) 獸醫學科　家畜の醫者になるのであるが內科學、外科學、產科學、傳染病學、細菌學、免疫學、藥物學等醫學に似た方面もあるし又馬學、蹄鐵學等もある。就職は陸軍初め割合に良好である。

(5) 水產科　水產は農業ではないが便宜上農學部におかれてゐる。云ふまでもなく水產物に關する基礎的學理の研究、漁撈、養殖、加工に關する理論實驗も行ふのである。

(6) 農業經濟學　寧ろ文科系統に屬するものであらうが、農業に關するを以て農科においたものらしい、農業經濟と農業政策に關する研究を行ふ。

農業の根本知識たる、肥料、土壤、作物、園藝、畜產等を聞く傍ら民法、憲法、農政、林政、財政、殖民政策、社會學、統計、農業經營等と門戶が廣い。いやしく農業とその經濟的研究では網羅してゐるのである。割合に便利な科で就職には技師、小作官、教員等比較的いゝとの事である。

## 七、理學部

理學部は人數の點から云へば最も少さい學部である。而も科目が十にも分れてゐるのであるから各科の收容人員は五人から八人多くて三十人位ほんとの專門教授が行はれるわけである。出身者の中最も多いのは文學部と同じく教員であり、次が官廳民間技術員であることは工科にも似てゐる。とに角理化學方面の技術家であること、、同僚卒業者の數の少い事は就職に當つて特に不景氣のこの頃でもあまり困難しない特點も持つ、俗塵を追はず靜かに自然を友とし宇宙を對象として悠々研究に耽けらんとする好學の士にはもつて來いのところと云はざるを得ない。入學に當つて注意すべき事は(理科系統の方面では何れもそうであるが)或る科を卒業すると云ふことは一つの特殊なる技術を習得することであるから就職に當つて嚴然と區別されることである。今各課について見よう。

(1) 數學科　代數、幾何、力學等すべて數字ばかり卒業後は殆んど學校の教師に行くやうである。理學部の中で就職には困つた事のない科。

(2) 天文學科　數學、物理、光學、天文學、天體觀測等を主なる科目とする。收容人員僅かに五人、行く先は氣象臺研究所方面。

(3) 物理學科　は專ら物理學。

(4) 化學科　は化學について專攻すること變りはない。

兩者とも教師、研究所の他に製造、工業會社方面に相當多くはけ口を持つ。

(5) 動物學科

(6) 植物學科

(7) 地質學科

(8) 鑛物學科　多くは學校教師であるが地質、鑛物は工學部鑛山冶金と共に鑛山、製鐵所等へも行く道がある。

(9) 地理學科　地理學は一寸理學部とは緣め遠いやうに見える科、自然地理の他に人文地理、經濟地理などもある。

(10) 地震學科　地震學科は設立新しい專ら地震について研究するが我が地震國に在つては益々重要視されるであらう。



# 第三　東京帝國大學各學部入學受驗案內

## 一、法學部

毎年の法學部受驗者は收容數六百五十名に對して一千百數十名、實に五百數十名の超過を示して

ゐる。毎年漸増の一方であるがこれ高校の増設の結果であつて見れば止むを得ないがも早この邊が頂點ではあるまいか、來年もまづこの位と思つてゐれば大差はない。或は却つて今年あたりからは高校の收容數を減じてゐるからむしろ二三年の中にはこの比率はもつと下るかも知れぬ。

法學部の入學試驗は從來單に語學即ち歐文和譯と和文歐譯とがあるだけでその他はやらなかつた慣例から當分このまゝ續く事であらう。外國語は英、獨、佛、何れでも隨意である。そして各語學の受驗者數に依つて按分比例して入學者を決めるのであるから受驗の語學に依つて損得はない事になつてゐる。毎年志願者は英語が一番多く大體六百五十、獨語三百七八十、佛語百二三十位の割合であらう。試驗問題の傾向については別項問題集について研究することをお薦めするが何と云つても特殊な文學的のものより日常の常識的な雜誌等について訓れておくが一番いゝと思はれる。

次に受驗に當つて例年の如く國漢の力も考査するとあるが字をきれいに書いて誤字脫字のないやうに、あまりまがりくねつた言葉づかひをせぬやうに注意すれば他は口語體でいゝわけだから、別に六づかしい事はないわけである。その他體格ではねられるものは殆んどない。それから高校の秀才がよく入學試驗で落ちる事があるが、それかと云つて大學の考査が特別變つてゐるとは思へない。





よく單時間の間に成績を決めるのであるから考査が杜撰ではないかなどゝ云ふ風評もあるが、その點は大學の教授を安心して信ずる事である。先づ入學準備としては語學一つをガッチリものにしておくことである。

## 二、經濟學部

毎年の經濟學部の受驗者は經濟學科は收容數二百名に對して約四百名位、商業學科は百五十名に對して二百・三百名何れも相當の超過を示してゐるが法科に比するとまだ幾分楽のやうであるから、或は増加するとも減ずる事はないかも知れない。こゝも法科と同じく收容數を増す噂もあるがそれも來年と云ふわけには行くまいから、結局一倍半か二倍近い志願があると見ねばならぬ。たゞ從來の例から見ると商科が年により増減が多かつたが、これとても無試驗を望む事は不可能である。否却つて増加するかも知れない。

經濟學部の試驗は各學部中一ばん簡單で數年來單に歐文(英、獨、佛)和譯のみを課するを例としてゐた但し學部規程には高等學校に於て履修したる科目に付之を行ふとある故他の科目もないとは云へないから注意を要する。その他受驗語學は自分の履修したるものである事法科と同じである。試驗の成績は全然發表されない事になつてゐるが、兩科を比較したら幾分商科の方がおちるやう

である。入學試驗問題の傾向は別項問題集に依つて研究すればわかるが、深い文學的なるよりも日常のプラクチカルな新聞雜誌等に親しんでおくがいゝやうだ。兎に角原書になれる事は何時になつても必要な事であるから暇のある高校時代に、受驗準備を的にかけつゝ勉強するといゝと思ふ。その他體格の點、語學別に依る受驗者は法科と同じく按分比例に依るのであるから優劣はない。試驗答案で國語の力も考査するがその點も法科と同じ意味であらう。人員が超過するとなれば理科から入學は望めないがこの科のみは學士入學を許してゐるから學士になればどの科を出ても無試驗で入學がゆるされる。

## 三、文學部

各學部は從前通りの試驗制度をとるに反しひとり文學部のみは前年度と變つた制度を作りあげた。今度改正された第一眼目は文學部は收容人員を四百名と確定した事だ。內規の第一項「文學部の收容人員は每年志望者の數と並に授業の都合とを考慮したる上にてその都度これを定む」とあるは前年度の樣に社會學は二十五名とるとか美學は三十名とるとかとその定員を定めずに、志望者の多寡によつてその收容する人員を增減するのである。例へば社會學を志望する人が本年非常に多いときはその科の授業に差支へない限り出來るだけ多數とるのである。然し根本標準は前年度の人員が大體參考となる。この樣に各科共に授業の都合のつく限り收容するとしても全學科定員の四百名はどうしても越すことは出來ないのである。まづ志望學科を第一から第十七まで記入する。これは第一志望に定めた學科が收容人員を超えない場合はフリーパス、超過して振り落された場合は第二第三と不足の科に成績に應じて割り當てられる。

試驗科目は外國語、國語、漢文の外に、哲學概論及び倫理學、心理學及び論理學、國史及び東洋史、西洋史の四つの中の一つを每年抽籤によつて定め、每年三月三日頃その年の科目を發表する。こゝに注目されるのは高校の成績をも考慮するといふことで、第二・第三志望へ振りまわされる時その參考にするのであらう。

これは殆んど豫想されないがその總數が四百人未滿の場合は更に選拔試驗の成績を標準としていまだ餘裕ある科は第二志望者を收容し尙足りない時は第三・第四・第五……志望者からとる事となる。このために志望を十七もならべる事も許されて居るのだ。萬一志望者總數が四百人に滿たなかつた場合は前年度と同じ樣に志望者の多きに過ぐ

る科のみが試驗を行ひ他は無試驗入學となるわけであるが近年は東京集中傾向であまり無試驗を期待するわけにはゆかぬ。尙從來は理科出身者にして文科へ志望して入つたものが多かつたが、志望者收容人員に超過の場合はそのまゝ無効になるから一つの冒險である。しかしまれにある定員に達しない場合は勿論ゆるされる。大體文學部は國史・國文・西洋史・英文・獨文などは相當激烈な試驗が課せられてゐる。無試驗入學の出來るのは、梵文宗教位のものであらう。



## 四、醫學部

工學部の一部と共に最難關と云はれるが醫學科の試驗である。此處を突破しようと云ふものは相當の自信がなくてはいけない。だがこの自信をもつものが高校のいわゆる秀才のみであるとは誰も云はないし又事實がすべてを示してゐるから安心すべきである。否却つて昨年の如きはボートマンにしてよく解き得るやうな物理の問題を出したあたり醫學部のねらつてゐるところは案外單なる勉強家ばかりではないかも知れぬ。

それはともかくとして醫學科の試驗課目は例年通り來年も試驗當日までは發表されず、これ又高校生諸君に恐慌を來さしめるもとであるがこゝ數年のところを見ると、語學、數學、物理、化學、生物學の五課目が出てゐる（唯大正十三年のみは生物學の代りに動植物學が出てゐる）來年もこれと同じと思はれるが、語學の外に何が課せられるかは保證出來ない。

その中語學は英佛獨の三ケ國語の中どれかについて和文歐譯、歐文和譯をする。而して獨文和譯、和文英譯と譯讀について外國語を異にしてもよい。譯讀はいづれも細かいところよりも全體をつかむ事に重きを置いてゐる樣子。これは他の學科についても同樣で、試驗勉強をせずに實力でゆけといふのが此處の方針である。

一昨年から行つてゐる口述試驗はやはり行ふであらうが、學科に關するものではなくごく簡單な平易なもので、採點にはほとんど關係しないとの事である。高校在學中の成績表および體格檢査表は昨年から提出させてゐるが、これも同高校出身で同點者あつた際、その及落を決定するのに參考する位なものでそれ以外の場合は決して問題としない。

體格檢査は非常に嚴重であるそれは他學部に比して授業時間數が多く强健の者でないと四年の勉學に耐え難いからである。不具等の先天的の疾患は全く重きをかぬ。色盲の如きも重いのでない限り許可する。體格檢査でもつとも重視するのは內臟疾患の有無およびトレーニングによつて得た體格か否か、今後尙延びる可能性ありやの二點で呼吸器病等に對しては殊に嚴重である。體格について採點はするが、工學部の如く學科の得點に加算して、及落を決定するといふ事はないと云ふ事である。

本年の如きも約四倍の志望者がおしよせて來た爲いきほい競爭は激烈ならざるを得ないが嚴重に



採點して百點の中五十點とれば入れると云ふから大體の見當はつくであらう。その他自然科學の學科であるからこの方面のテクニックなとには不覺をとらぬやう日頃親んでゐて欲しいと當局は云つてゐる。

藥學科は醫學部の中にあるが醫學部とちがつて醫者になるのではない。近年まで無試驗であつたが今年あたりは三十五人の收容に對して九十餘人も志願があつた。前にも述べておいたが轉科は全然ない上に學士入學も認めていないのだから（而も醫科の四年に對し藥學は三年で修了する）醫者にならうと思ふものは是非とも醫學科へ入らねばならぬ。

藥學は大抵歐文和譯に化學であつたが今年は物理もあつた、しかし之以上は來年もないであらうと思はれる。

## 五、工學部

工學部には有數の難關がある。わけても機械、航空の今年の如きは三倍以上と聞いては誰しも驚く、その他造兵、電氣、船舶、土木、應化の如き何れも二倍以上である。然し之れ例年のことであつて見れば來年と雖も大差はない事を知らねばならぬ。

試驗は各科は別々に行はれ缺員があれば第二志望者より選拔することになつてゐる。此處で受驗者の注意すべき點は體格のことである。體の惡い人は入學してから勞力に耐へ得ざるのみならず他人にも迷惑を及ぼすと云ふ立場から工學部では以前から體格に採點し之を學科と合せて順位を決してゐるが而も甚しき劣等な體格はそれだけで入學を拒否されるのである。尤も色盲とか近眼とか本人に苦痛でないものは差支ない筈である。前にも述べた如く入學後は受驗して合格するに非れば轉科はゆるされないから豫め志望に對して細心の研究をしておく要がある。工學部の試驗科目は每年一定してゐない、昨年は物理、數學、化學、用器畫であつたが、今年は語學が復活し、數學、物理、化學、鑛物及地質があつた。之又三月の發表まで

は未定であるが例年の傾向を見れば(問題集參照)大體想像されよう。又試驗の成績は各科に依つて著しく差異があり從つて或科には落ちてもその點數で他の科を受けておれば好成績で入れた場合もあるわけである。だが第二志望を待つても缺員がなければ駄目であるから大抵その儘無効になるが、念の爲書いておく必要はある。試驗成績は大體建築の最低點一〇〇點とすれば應化八七、八點、電氣一〇〇點以上、土木一〇〇點、鑛山六〇點位の相違は毎年あると云ふことである。尙體格の採點は三〇點が滿點として二十六、七點が最も多く、最下は五點位のものもある。之で體格が重視される程度が知れよう。



## 六、農學部

駒場農學部にも二三年この方入學試驗の荒波がおしよせてゐる。今年で見ると二百十五人の收容に對して二百三十餘人即ち二十四人の超過である。前年に比して相當減じてゐるのも世相の反影か。いつも獸醫とか林學あたりは極めて少かつたが今年は又經濟も減じてゐる。これで農學部はまづいまゝでが峠と見てよからう。

試驗科目は歐文(英獨佛)和譯の他に數學、化學、動物、植物であるが、これも三月にならねばその年の科目は分らない、が語學に動植は動かないと見ねばならぬ、而も農學部へ來るからには動植はみつちりやつておく必要がある。入學試驗にも皆相當い、點をとつてゐるやうである。しかして語學は三ケ國語の中一ケ國語を選べばい、。この外口頭試問もあつたがこれは別に入學を左右するやうなものではなからうと思はれる。

農學科の內にある農業土木專修は割合評判のよかつた爲めか、今年は約倍の志望者があつたのが目につく、その他の各科の著しい超過は來年もさうであるかは誰しも分らぬが先づ減る事はあつても今年以上には出でまいと想像出來る。ふしがある。次に志望にあたりて最も注意すべき事は文科出身者の志望である。農經の如き元來半ば經濟學部に近い科で寧ろ文科系に屬するを至當とするがそれはとも角獸醫にせよ何にせよ大學入學規程に依つて農學部は理科出身を優先させる。その結果今年も既にあつた事であるが超過の場合は文科出身の志望はそのまゝ受驗せずして入學を拒絶されるのである。こんな馬鹿らしい事はないからよく注意すべき事である。但し文學部の項でも述べたやうに定員に不足の場合は勿論ゆるされるであるから(而もその可能性も充分ある事であるから)全然不可能といふわけではない。

## 七、理學部

理學部も入學は各科別である、他の學部に比し

收容者も少いが志願者も割合少く無試驗の科一二あるやうで選擇をうまくやれば案外無試驗で入れる場合がある。然し數學、物理の如きはかなりの志望があつて相當困難の方である。さて此處では外國語の歐文和譯、和文歐譯(一國語を選ぶ)の他數學、物理、力學、化學が課せられるを例とする。この中數學、力學は數學、天文、物理、地震、(第二志望)の各科に課し、天文、地質、鑛物の三科では口頭試問を課し、化學科では實驗を課してゐる。物理科には化學も課す。點數は發表されないがそれほど激烈でないからあまり多くなくとも大丈夫だ。今年は無試驗は鑛物科だけであつたが先年あたりは地理、鑛物、地質等も不足であつた。高校



卒業生は大體絶頂となつたが東京中心主義は益々はげしくなるものと見られるので來年は各科とも超過すると見るべくたゞその中でも難緩のあることは同樣である。

次に注意すべきは工科と同じく體格の點で嚴重に見て不適當と見れば入學を拒む場合がある。たゞし色盲だとかその他の健康に關係なく、研究にさして妨げとならぬものなら問題はない。此處では工科の如く體格の採點はしないが結果に於て同じ事である。成績がいゝのに體の爲めに入學出來ない者は一年休學さして來年優先入學を許すと云ふやうな方法も考へられてゐる。何れにしても體に自信のない者は考慮すべきであらう。

## 第四　入學試驗に關する東大諸教授の感想

【註】左に掲ぐるは東大各學部の諸教授が入學試驗について直接間接に受驗者の爲めに語られた所で何れも肯綮に當つてゐる點が多いと思ふ。讀者は前項入學案内と參照して大學の入學試驗について正確に判斷を下されたい。

### 一、法學部

◇

試驗料目に外國語のみを課することはどうかと云ふ議論もあるが、高校で學習した科目につき悉く試驗を繰返すことは徒らに受驗者を苦しめてその及ぼす弊害たるや實に甚だしいものがあるのみならず、採點の基準も定めがたく種々困難な問題が起るのである。試驗の緩和としては高校時代の成績によつて生徒を各大學へ配分するのも一法であるが、これ又一面に於て更に不公平たるをまぬかれない。かやうなわけで高校の科目中最も一般的で且つ多く時間をかけてある科目について行ふのが比較的無難と思はれるから外國語に國語、漢文の試驗を含めて行はれて來たのだし、また將來もこの方針で行はれるのではないかと思はれる。

◇

外國語のみを試驗に科する事の可否と云ふ事はさておき少くとも今後の學問研究には外國語は可なり必要なものである上に、比較的公平に行はれるので外國語が試驗科目の中堅となる事だけは斷言し得る。それから高校の秀才が試驗に落第して往々番狂はせを演じその責任を採點のルーズに歸せようとする者さへあると聞くのは思はざる甚しきもので試驗官は何れも愼重な態度を以つて答案の一字一句に對するのであるから、この點は高校生及教授、一般父兄も安心していただきたい。高校ではあらゆる學科の成績が含まれてゐるが、それが外國語のみの試驗の結果と並行しない事あるは當然である。又近來試驗の成績は非常によくなつて來て合格不合格のけじめも隨分際どい、(今年の如き同點のもの十數人)處で決定するので試驗は一層綿密に採點しなければ此の僅少の差異を得る事は出來ない。であるから受驗者も一字一句も忽にせず周到なる注意を以つて答案を書き、然る後充分時間もある事であるからあまりきう屈になりすぎず自分の書いてゐる事が全體として意味が通じ矛盾してゐないかをよく氣をつけて欲しい。卽ち前後の關係を考へ支離滅裂で斷片的でないやうに文法的にもよく注意して出來上つた後は繰返し〳〵讀み返へして全體を批評的に見る事が大切ではないかと思ふ。次に國語漢文の學力を見る事



になつてゐるがこれは邦文として完全なものになつてゐればいゝので、さう六づかしい漢語などを使つてゐる人のあるのはあまりに過敏すぎて却つてよくないと思ふ。

## 二、經濟學部

◇

成績は年々向上して來るやうですが、譯についてゝ云へば逐字譯が相變らず多いやうです、が吾々の望んでゐるところは全體としてよくまとまつた答案です、と云つて誤解してはならぬ事は曖昧な所はどん〳〵拔いて知らないボカブラリーを前後の關係で賢明に(?)に判斷したりすぎる事は更に悪い事は當然である。答案では國語の力をも試すやうになつてからはさすがに誤字あて字は少くなつたやうですが、文章についても少し工夫があつて欲しいと思ふのも少からずあるやうです。經濟學部の試驗の如きは別に常識以上に出でてはゐないから受驗準備と云ふやうな事は望まないが、日常特にどういふ點を注意していたらいゝかと問はれれば語學の練習に於てはテクニカルなものは必要ではないが、社會、經濟方面の常識的單語位は覺えておいて載きたい。特に文學的な例へばシエークスピヤの戯曲と云ふやうなものはこの場合緣は遠いでしよう。云はゞ時事問題などを注意して新聞などを讀むのが一番よくはないでしよう

か。

◇

受驗科目については方々から色々の注文もあるが答案の審査期間が僅か三四日であるし、それに最も受驗勉強をせずに實力を見る方法としてはやはり語學が一番好都合である事は法科と同樣である。又世間では大學の入學試驗は當にならぬと云ふやうな風評が往々あるが、こんな風評は困つた事で、大學としては試驗をやるからには最も愼重にやつてゐるのである。各教授の採點された答案を參照するとその結果は大體一致してゐるところを見てもその人の學力は正當に評價されてゐる譯である。こんな風評に耳をかさずに實力の養成に努める事が第一である。

## 三、文學部

◇

毎年のことであるが答案をしらべて見て第一の感想は大變いゝのと、悪いのとある事だ、同じ高等學校を出てこうもちがふかと思ふ程一方は滿點をとつてゐるのに片方は殆んど零點、私どもから見ると中學もあやしい位なのがある。和文英譯の答案の中には中々振つたのがあるがむしろなさけなくなる。和文英譯上一般に注意しなければならぬのはもつと文法の力をつけ文の構造に注意し當に書きならしておく事である。今年は詩を二行ばかり出したが案外成績がわるかつたのも氣のついた點である。

◇

相變らず文章全體をつかむ力の足らない事だ、これは獨文に限らない事であるが、文章の思想をつかみ聯絡に注意し、結局何の事かわからぬやうな當てつけを書いてあるのが閉口する。作文の場合も同じで全體の意味をよくのみ込んでおいてから手をつけるやうにしたいと思ふ。それから單語の力はまだ〳〵不足に思ふ。

◇

漢文の成績は割合よろしい、漢文が輕視せられ勝ちの今日高等學校でつとめておられるのは敬服に値する、入學試驗たるからにはやはり一般的なものを出さねばならぬ故何からかと云へば四書が先になる、四書は高校でもやれなくやつて貰きたい。

## 四、醫學部

◇

醫學部ではすべて學科の大綱を要領よくつかんでゐる人を望む、だから試驗勉強や、偶然の山かけで試驗がパス出來るやうな問題は出さない積りである、試驗科目も當日まで發表しないのも高等學校で教へる學科は凡て試驗に出さうとするのもすべて試驗勉強を强制したくない爲である。語學

にしたところで辭書を持たせらどうかと云ふ說も多數ある位で六づかしい單語だけ竝べたり、いちのわるい文法の使ひ方なんかは出さない方針である。先年物理の問題にボートの事を出した事があつたが結果はボートを知らない人が却つてよかつたやうな有樣で平生眞面目に普通の勉强さへしてゐれば驚くには當らない。繰返へして云ふが醫學部ではのんびりした質力も持つた人を歡迎するのであるから試驗も自ら大綱をよくつかんで消化してゐるかどうかを試めして見る事になつてゐる。

◇

成績は概して段々良好になつて行くやうである、云ふまでもなく語學は日本文的歐文や、歐文的日本文は拙なるものであるから注意すべきである、問題の大綱をつかむと云ふ事は必要であるが、知らない事を長々と書いてごまかしたりわかつてゐても要領惡くくだ〳〵書いたりすることは下手な戰術である。又醫學部へ來る位な人は特殊なテクニックは必要ではないが普通の自然科學的な言葉位は常識として知つておかなければ困る。云ふまでもなく答案は明快に答へてほしい。

◇

醫學部ではことに身體の强健なるを必要とする、ことに多忙な學科であるから體の弱い人は中途で挫折する例がいくらもある。そんな事になれば本人の爲めのみならず他人にも迷惑を及ぼすのであるから健康に自信のない人は醫學部を志望しない事を希望する、體格だけで不合格となる者が毎年少しづゝあるのは殘念である。

## 五、工學部

◇

試驗問題の提出方針は基礎に關する理解をテストすることを以つて大體方針とし、基礎をよく呑み込みその知識を應用さへすれば諒解出來るやうな問題で專門に偏しないやうに努めてゐる筈である。從つてレギュラーなユースを通つて來たものには何れも容易に出來る問題である。然るに平生の勉强をやらず試驗勉强の詰込主義の結果基礎的な事でさへ一寸應用の知識を要するものになるともう理解出來なくなる者があるが眞に心細い氣がする。次に工學部は應募者が比較的多く受驗する人も困難であるが科に依つて著しく成績の異なることが目につく。土木、建築、電氣の如き志願者の多い學科の入學許可の最低點が他の志願者少き學科の最高點以上の場合がある事がある。志願する場合にはよほど注意する必要があると思ふ。だが學科試驗の嚴密なる審査の下にその可否を決するのであるから不合格となつてもあきらめがつかう。殘念な事は設備の關係上今以上に學生收容數を增すことは困難な事である。

◇

工學部で注意すべきは健康の事である。入學後は實習製圖等學科以外に隨分無理をしなければならないので體の弱い者は非常に困る結果になる。この點から從來から入學受驗者に健康の採點もし、甚しきは健康だけでも入學を拒絶してゐる。先年來採點を三十點とし中病氣の有無、天性の體質、鍛練に依る體格等に分ちて調べ特に重大なる疾患のあるものは點を零とするのみならず學課成績如何を問はず不合格となす方針で毎年二三名はこの憂目を見るものがあつた。健康にはよく〳〵注意し大いに運動することであるをお薦めする。

## 六、農學部

◇

科に依つては中々いゝ成績の處があつたが中には相變らず珍答案が少しは見受けた。問題は高校卒業生にとつて常識的な平易なものを出すのであるから平生基礎的に頭をつくつておけば充分である。農科には動植物は關係の深い學科であるからこれなんかにあまり不勉強を暴露する事は不得策だ。今年からは殆んど全部試驗があるやうになつたから受驗の覺悟を決めて平素の實力を養ふ事に努めて欲しい。

## 七、理學部

試驗の感想と云つても毎年殆んど同じやうで別



に特徴は見出せない。たゞ困るのは暗記をやつてゐる人である、暗記は少しも自分の知識になつてゐないのだから答案に書かれても自信のない機械的敘述的に終つてゐる。全く理解して餘裕を持つて書いたものは一見してわかるが、こうゆう答案を歡迎する事は云ふまでもない。又理學部に於ける語學は重要なもので入學後も益々必要となつてくるのでその手段として試驗にも課してゐるが將來の爲めにも實力をつけておく事が大切である。また實驗は一般學者として實物への興味を如何に持つかと云ふ事を試みる爲めでその資格を見る上に於て大いに重視してゐる。次に體格檢査の點數も考慮に入れてゐるが餘り病勢の進んでゐるものは學術にパスすれば來年の優先權を與へて一ヶ年休學させる事にしてゐるからこの點も注意ありたい。

# 第五　各帝國大學の現況

【注】帝國大學の內容については東京の項に於てその概略を記した、此處に述べんとするのは前者との重複をさけその大學、その學部の特色の



みを拾はうと思ふ。だから略されてゐるものは大體東京のそれと同樣と見れば支障ない。

## 一、京都帝國大學

**◇法學部**　京都の法學部は東京の法科と異り政治科、法律科の區別がない。全體で法律、政治、經濟等に亘り約四十科目の講義があり學生は三年間にその中より十八科目以上を選擇受驗して合格すれば學士試驗に合格したるものとしてある。科目の選擇を學生の自由に任せたるところ個性の尊重の意味に於て便益多く進歩的なりと云ひ得らる。京都の法學部は明治卅六年に第一回卒業を出してゐて相當古い歴史を持つてゐる。東京の如くではなくともやはり官界、法界、實業界には可なりの地盤を持ち卒業生の進路を



開いてゐる。高文パスの率も東京につぐ成績を示してゐる。學生の收容數は　四百名　となつてゐるが此處は大體入學試驗を行はない方針だから百人や百五十人の超過は全部無試驗で收容してゐる。今年も五百九十名出願者全部收容した。先づ例年の如く第一次ならば出願者は全部無試驗で入れるであらう。

**◇經濟學部**　此處の經濟學部が獨立したのも東京と同じく大正八年、東京の如き經濟科、商業科の區別はない。先づ原論を初め基礎的科目約十八科目（日本經濟史、東洋經濟史の如きも含まる）を正科目とし、法律哲學社會學等の十一科目を副科目とし、正科十一、副科六以上を受

驗合格したるを以つて修了者とする規程になつてゐる。注意すべき事は東京の商業學科に相當する科目の殆んどない事で經濟學部全部が東京の經濟學科の如きと見ればいゝであらう。收容數は二百五十名とあるがやはり法科と同樣多少の超過に頓着なく出願者を全部收容してゐる。毎年二百五六十名位、就職先は東京に對する大阪と云ふ對立はあらうが大阪が實業界の中心であるだけ決して悲觀することはないやうだ。

**◇文學部**　文學部は哲學科、史學科、文學科の三科に分る。哲學科の中には哲學、哲學史、印哲、支那哲、心理、倫理、教育、美學、宗教、社會學、佛教學の正科目を置き、學生は一科目

を選び專攻科目とする。專攻科目はその範圍に於て試問に依つて審査されその及第を以つて卒業とする。試問は論文及口述より成る。要するに科は三つであるがその中に東京の文科に相當する各科が含まれてゐると見ればいゝ。たゞ入學してからおもむろに選擇專攻すればいゝだけはるかに自由な制度である。史學科は國史、東洋史、西洋史、地理、考古學、史學研究法を以つて正科目とし、文學科は文學概論、國語、國文、支那語、支那文、英文、獨文、佛文、梵文、言語を以つて正科目としてゐる。同じく高校卒業生の第一次は一・二を除いて大部分は無試驗で入學を許可されるを例としてゐる。

◇醫學部　醫學部は何處も激烈なる試驗が控えてゐる。自然科學の方面は文科系統の如く教室に收容の餘地さへあれば人員を增加せしめ得られるやうに簡單にはゆかず、一人にもそれ相當の設備を要する故人員の制限は嚴重である。百二十の收容數に對して二倍乃至三倍の出願者はあると見ねばならぬ。卒業後は必然に京都大阪方面に勤務するものが大多數のやうである。

◇工學部　此處の工學部は土木、機械、電氣、採鑛冶金、工業化學、建築の六學科に分れてゐる。この中工業化學は卽ち應用化學の事を云ふ。各學科の科目は必修、隨意に分れ必修の全部隨意の若干に合格したる後學士試驗を受けるのである。工學部も一般に志望過剩なる故殆んど入學試驗を免るゝ事はなく、建築、電氣の如きことに依然難關である。人數の少い事はやはり就職條件をよくし實行は官界を初めとして殆んど東京に劣らぬ成績を示してゐるとの事である。

◇農學部　農學部に農學科、林學科、農林化學科、農林生物學科、農林工學科、農林經濟學科の六學科を置く。この中農林生物學科では植物病理、遺傳學、昆蟲學、植物生理、動物生理、生態、分類、細胞、生物化學等を研究するところであり、農林工學科とは農業水利學、地質學、測量學、土地改良學、森林改良學等農業土木について學ぶところである。各科は第一次では定



員に達すること少く大概第二次募集を行つてゐる。就職先は大體地方であるが比較的よくその點東京を出たのと大差はない。收容人員は東京の半分約百二十人である。

◇理學部　理學部では數學、物理學、宇宙物理學、地球物理學、化學、動物學、植物學、地質學、鑛物學の授業を行ひ學生の學修に關しては一定の課程を設けず各自學修すべき科目を選擇するものとしてゐる。が事實に於てはこの九科に分れてゐると見らる。收容人員約百名に對して多くは大體定員に達するが科により第二次を募集する所もある。動植、物理、化學等がほゞ定員位他は何れも少いのを例としてゐる。行き

## 二、東北帝國大學

◇法文學部　法文學部はもと「法學部の學生が動もすれば法制形式の智識に偏倚し之に反して文學部の學生は多く法制經濟の智識を缺如するが如き弊を避けん」として生れたもので法、經、文三學部を鎔解して有機的に化合した所の一大學部的なものであると云ふ。その講座も法經文に通ずる多數の講座を設けて學生をして自由に先はやはり教員を大部分とし官吏、研究所、會社等人數の少いだけ樂觀されてゐる。

各學科目を取捨配合に便ならしめ、各自の負擔力に應じ其個性と生活目的とに鑑みて最も適切と思はれる學科目を選擇學修することを得せしめ次で各自の個性を伸暢し生活目的を達成せしむるに在つて頗る時機に適した制度であるとされてゐる。だからして法學士たらんとする人の中にも行政官、外交官、政治家、司法官、辯護士等その生活目的に依り研究履修すべき科目の配合を異にするわけであり、經濟學士の中にも種々あるべく、文學士の中にも文學、哲學、倫理、美學等種々あるのである。

第一次の出願者は募集人員三百名中每年五六十名內外、大體は第一次を無試驗とし第二次二百數十名に對して約三百名志望者がある。此處と九州の法文學部とが傍系文科系入學者の唯一の進路とされてゐる所以である。卽ち通則第六條のいわゆる第一順位高校文科卒業者、第二順位高校理科卒業者の第一次志望者を先づ入學せしめ尙缺員ある場合で高師、女高師、高商、外語等の卒業者並に專門學校を卒業した本學檢定試驗合格者が第二次募集として他から來た高校卒業生（例へば東京を落ちた者）と共に選拔試驗を受けて入學を許されるわけである。

就職については創立新しきこと地方であること人數の多いことそれに學部の組織が社會に對してよく知られてゐない等の點であまりめぐまれてゐないやうであるが勿論それは相對的な話である。敎員になるものなどは東北地方と云ふ背景を持つてゐる爲相當さばけて行くらしい。敎授の顏振も揃つて來たようではあるし將來は益々よくなる事であらう。



**◇醫學部**　醫學部に關しては他の大學と異るところはない。收容數百名に對して約二倍の二百名は志願者があるやうである。試驗科目は英文、獨文兩方の和譯に、同和文の英譯、獨譯、の他物理、化學、動物、植物の範圍らしいが英作文、獨作文なんかは一寸面喰ふものが多いやうである。尙問題集について研究されたい。

**◇工學部**　工學部は機械、電氣、化學工學、金屬の四科よりなる。この中金屬工學科は附屬金屬材料研究所と共に金屬の研究では著名なものである。工學部の全般的志望超過で電氣、機械等は大概超過して入學試驗もあるが金屬の如き我國斯界の指導的地位にあるものが却つて少いやうであるが不思議である。全學部で約八十名の收容數。

**◇理學部**　理學部では講座種類に應じて六敎室（學科）に分つ。卽ち數學、物理學、化學、地質古生物學、岩石礦物礦床學、生物學である。この中地質古生物學科では地球發達史、古生物學、斷層、地質、地震等を學び、岩石礦物礦床學科では岩石學、金屬礦床、石油礦床、石炭化學、

等を教授する。各科とも東北の理學部として學界に鳴らしてゐるが第一次の入學志望者は何れも少い、地味に學問を研究しようと云ふ人には都合のいゝところ、又傍系の入學者も今尚若干ゆるされてゐるところである。卒業後は專ら教員、研究所等であるが、景氣も餘り悪い事はないやうである。

## 三、九州帝國大學

◇法文學部　法、文、經に通ずる約六十の科目をおき學生をしてその好むところを選擇配合せしめて以つて法學士、經濟學士、文學士たらしめんとすること東北のそれと全く同じい。たゞ科目の選擇に當つて單なる生活目的の判斷に依るのでなく一定の標準を定めその範圍に於て自由ならしめてゐるところが異つてゐて經濟原論を知らざる經濟學士、法學通論を學ばざる法學士のなきやうにしてゐる。

收容人員は三百名であるが第一次は東北と同じく多くて六七十名であるから、やはり傍系出身の進路を開いてゐるわけだ。第二次では專門學校出に學力檢定試驗を行ひその合格者（百點中六十點位あれば合格）と高校出身者とを合して外國語の試驗を課し選拔するが此場合三百點中



約百五六十點あれば合格出來ると云ふ。此の學部は大正十四年に創立されたばかりで未だ多くの卒業者を出してゐないがやはり教員になるものは最も多いと云ふ、他は新しいだけ幾分不利は免れぬであらう。

◇醫學部　前身を福岡醫科大學とし京都帝國大學の一分科として置かれたものであるがやがて之が工科大學の設置と共に九州帝國大學となる收容數百二十名に對して約二倍——三倍位。試驗は譯讀の外、物理、化學、動植等他大學のそれとあまり異るところはない。やはり地域の關係上入學者の數は五高が一ばん多く七高、福岡等之につぐ。



◇工學部　土木、機械、電氣、應用化學、採鑛、冶金、造船の七科を置く。やはり土木、機械、電氣等は志願者超過の傾向あるもその他は大體多くて定員一ぱい位、されども各科の收容數が少い故第二次を募集するとしてもわずかである。願書提出に當つては第二、第三志望の學科をも選んで差出すことを注意せねばならぬ。

◇農學部　農學部には農學科、農藝化學科、林學科の三學科あり。農學科四〇、農藝化學四〇、林學一五の九十五名を收容するが第一次高校出の應募者はいつも比較的すくなく從つて第二次の專門學校出に對してもそれだけの門戸を開いてゐる事になる。或は理科系統で第二次の多

い事は此處が一番かも知れない。宇都宮高農、鹿兒島高農、高鐵、水產等から入學者が多い。

## 四、臺北帝國大學

◇文政學部　文政學部に四學科を置く、卽ち哲學科、史學科、文學科、政學科である。その名の示す如く此の大學の學科內容は他と幾分性質を異にしてゐる。特に文政學部で伺はれるのは東洋、南洋方面に關する講座の多いことである。哲學科の中には東洋哲學、西洋哲學、倫理、心理、教育に分れ、史學科は國史、南洋史學に、文學科は國語、東洋文學、英文學に分れており、政學科は政治學科と略同じである。入學志願者は非常に少く高校卒業に他を加へて哲學三名、史學七名　文學一〇名、政學二三名位であつて勿論高校生は何れも難なく入つてゐる。卒業すれば、哲學、史學、文學科出は文學士、政學科は法學士となる。

◇理農學部　理農學部に生物學科、化學科、農學科、農藝化學科の四學科がある。生物學は動植につき化學科は化學、農學科、農藝化學科は他大學農學部のそれと大差ない。前二者を出れば理學士、農學關係は農學士になつてゐる。志願者之又少く合計で廿五人足らず志願すれば殆んど入れるやうである。



## 五、大阪帝國大學

府立大阪醫科大學を基礎に、それに理學部の新設を加へて大阪帝大が出來た。醫學部は百名を募集してゐる。今年は應募者百八十六名であつたが今後は增加することだらう。

## 六、北海道帝國大學

北海道は理學部だけが高校から募集する。數學、物理、化學、動物、植物、地質鑛物の六科で八十名を收容する。今までは無試驗、しかし第二次を募集することもない。今年は內部で五に振り當てた。



その他京城帝大で原則としては募集しないが、缺員ある場合は補缺をとるからその各學部を聞合せてみる必要がある。

# 第六　各單科大學の現況

## 一、各醫科大學

單科醫科大學は前醫專の昇格した五大學の他に熊本醫大と名古屋を加へて七大學となつた。

名古屋を除く六大學は組織定員殆んど同じくその內容も大同小異である。たゞ地域的に見て將來活動する場合の便不便に依つて幾分差異が生ず

ることにもなり從つてそれが又受驗者の數に現はれて來てゐる。各大學は收容數何れも八〇名であるが比較的志望の多いのが千葉、岡山で新潟之に次ぎ、金澤、長崎は割合少い。この中多いところが一六五名(今年の千葉)で倍の上はわずかであるから綜合大學の醫科に比べたら尙多少樂なわけである。けれども最もやさしいところと雖も第一次で既に二十名位の超過を示し昔の如く無試驗で入れるところは無い。だが此處へ來るものは入學試驗を嫌つて來るものが多いだけ試驗の成績も幾分落ちるであらう事は想像される。大學が地方であるだけに志願者の最も多いのはその土地の高校である。例へば新潟に於ては新潟高校、弘前、山形、松本の順であり、岡山では六高、五高、松江、廣島の順であり、金澤では四高を筆頭とし、千葉は水戸、松本、東京、靜岡等であり、長崎は七高、五高、佐賀の順であることも當然であらう。

その他慶應、日本等も毎年幾分の補缺を高校出から入れてゐるからその邊も注意しておく必要がある。

## 二、商業・商科大學

昭和四年四月昇格した五大學の一に神戸商業大學がある。言ふまでもなく前身は神戸高商である。學科目は大學の經濟學部の商科と大差は無い。高商としての古い歷史を持つだけ卒業生の行先もその方面に開けてゐるだらう。將來商業について研究し働かんとするものには格好である。未だ昇格したばかりでその他の點についてはすべて未來の問題である。學長教授は何れも高商時代の人々。

今年の入學試驗は第一類の高校の募集一〇〇に對し志望者六〇、第二類たる神戸初めその他の高等商業出身者一〇〇に對し二五四、今のところ高校生には無人境である。

東京商科大學は昭和七年から八十名の募集を始めた。これに對して高校から三名の應募があつたが、こゝには優先がないので他の志望者百六十餘名と競爭することになつた。うつかり志願も出來ぬ。





## 三、文理科大學

文理科大學は高等師範學校の昇格したもので今年東京と廣島とに新に生れた。科は文科的のものに教育學、哲學、史學、文學とし、理科的のものに數學、物理學、化學、生物學、地理學をおく事になつてゐる。學長教授も新に任命されたが大部分は前師範のそれである事は內容に於て餘り大差ない事を示してゐるわけ。大學に昇格したからとてこゝを出ればやはり中等學校の教員になるのが目的でたゞその資質の向上がこの昇格の目的であつた。收容人員は一年百名、資格は高師、女高師の卒業生と言ふことになつてゐるが高校出も同資

格に於て收容することになつてゐる。」

### 四、工業大學

東京、大阪兩高工の昇格したものに兩工業大學がある、之と同時に從來の高工は廢止された。工業大學の入學者は未だ高校と高工と兩方からとつてゐるが行く〳〵は全部高校出をとる筈であるからそうなれば大學の工科の入學難も幾分緩和されよう。收容人員各約百五十名と言ふから優に大學の工科に匹敵する。今年の志願者は初めに何れも二百三十餘名であつたが棄權したものも相當あつて實際の受驗者は百六七十名餘り、中合格者百三十餘名、この中で高校は二十名位の受驗者であつたが相當振り落されてゐる。學科は東京に染料化學、紡織、窯業、應用化學、電氣、機械、電氣工學、建築とあり、大阪に機械、應化、醸造、冶金造船、電氣工學となつてゐる。

## 第七　帝國大學及官立大學入學規程

### 一、東京帝國大學入學規程拔萃

第四條　學生ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ初ヨリ三十日以内トス但シ學年開始前ニ入學ヲ許可スルコトヲ妨ケス

第五條　入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

一、高等學校高等科及學習院高等科ヲ卒ヘタル者

二、學部ニ於テ試驗ヲ行ヒ高等學校高等科ヲ卒ヘタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

前項第二號ノ試驗ハ之ヲ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第六條　法學部文學部及經濟學部ニ在リテハ高等學校及學習院高等科文科ヲ卒ヘタル者、醫學部工學部理學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院高等科理科ヲ卒ヘタル者ハ他ノ志願者ニ先チ入學ヲ許可ス

第七條　前條ニ揭クル入學志願者ノ數各學部又ハ各學科ノ收容豫定人員ニ超過スルトキハ學部ニ於テ選拔試驗ヲ行ヒ入學ヲ許可スヘキ者ヲ定ム

前條ニ揭クル者ヲ入學セシメタル後尙ホ闕員アル場合ニ於テ其ノ以外ノ入學志願者ノ數闕員ヲ超過スルトキ亦前項ニ同シ

選拔試驗ニ關スル規則ハ各學部ニ於テ之ヲ定ム

第八條　左ニ揭クル者ハ前二條ノ規定ニ拘ラス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、一ノ學部ヲ卒ヘタル者ニシテ更ニ他ノ學部又ハ同一學部ノ他ノ學科ニ入學ヲ志願スル者

二、學生ノ退學シタル者ニシテ更ニ同一學部ニ入學ヲ志願スル者

三、他ノ帝國大學ノ學部ヲ卒ヘタル者

第九條　一ノ部ノ學生ニシテ他ノ學部ニ轉學ヲ志願シ又ハ他ノ帝國大學ノ學生ニシテ本學ニ轉學ヲ志願スル者

ハ前ニ入學ヲ志願スル者ノ例ニ依ル但シ學部規則ニ依リ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ志願スル者ハ其ノ現ニ在學スル學部長ノ許可證ヲ願書ニ添附スヘシ

第十條　前二條ノ規定ニ依リ入學ヲ許可セラレタル者ニシテ既ニ一學年以上其ノ學部ノ學科目ヲ學修シタル者ト同等以上ノ學力アリト認定セラレタル者ハ在學年數ノ計算ニ付テハ既ニ一學年以上其ノ學部ニ在學シタル者ト看做スルコト得

前項ノ認定ヲ爲スニ當リ必要アルトキハ學部規則ノ定ムル所ニ依リ學部ニ於テ試驗ヲ行フ

第十一條　入學志願者ハ第五條第二項第二號ニ該當スル者ハ一月二十日其ノ他ノ者ハ二月十五日迄ニ入學願書ヲ學部ニ差出スヘシ但第二項ニ依リ試驗ヲ行フヘキ者ニ付テハ學部規則ニ依リ別ニ其ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ志願者ヲ入學セシメタル後尚ホ闕員アルトキハ四月五日迄入學願書ヲ受理ス右期日後尚ホ闕員アルトキハ四月二十日マテ入學願書ヲ受理ス

第十二條　入學志願者ニ對シテハ入學ノ許可ニ先チ身體檢査ヲ行フ

第十三條　入學ヲ許可セラレタル者ハ左ノ期日迄ニ所定ノ在學證書ヲ學部長ニ差出スヘシ

三月三十一日前ニ許可セラレタル者ハ四月二十日迄、四月三十日前ニ許可セラレタル者ハ五月十五日迄

前項ノ期日迄ニ在學證書ヲ差出ササルトキハ入學許可ハ其效力ヲ失フ

【注】右は通則で入學に關しては各學部に細則を設けてゐる。第八條無試驗入學に關する規程は學部に依つて異なつてゐるが經、文以外は適用されてゐないから注意を要する。尙文、醫、理の各學部には別段表向の規程なく、法、經、工の規程で通則とちがつてゐる點を左にあげる。

(1)　法學部規程抜萃

第十八條　高等學校高等科及學習院高等科ヲ卒業シタル入學志願者ノ數本學部收容豫定人員ニ超過スル場合ニ於テハ選拔試驗ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

選拔試驗ヲ行フトキハ豫メ之ヲ各高等學校及學習院ニ通知ス

第十九條　選拔試驗ハ高等學校ニ於テ履修シタル科目ニ付之ヲ行フ

【注】・左記二十三條は昭和七年よりその適用を停止せり

第二十三條　左ニ揭クル者ハ選拔試驗ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、法科大學又ハ本學部ノ卒業生ニシテ更ニ本學科ノ他ノ學科ニ入學ヲ必要スル者

二、法科大學法律學科若クハ政治學科又ハ本學部學生ノ退學セシ者

三、他ノ分科大學又ハ學部ノ卒業生

四、二學年以上法科大學經濟學科又ハ經濟學部ニ在學シタル者

五、他ノ帝國大學ノ卒業生

六、二學年以上他ノ帝國大學法科大學又ハ法學部ニ在學シタル者

(2)　工學部規程抜萃

第十六條　本學部入學志願者ハ入學願書ニ第一、第二、第三志望學科ヲ記入シ毎年二月十五日迄ニ出身學校ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十七條　選拔試驗ノ結果第一志望學科ニ入學シ得サリシ者ハ第二、第三志望學科ニ順次入學セシムルコトアルヘシ

(3)　經濟部規程拔萃

第二十條　選拔試驗ハ高等學校ニ於テ履修シタル科目ニ就キ之ヲ行フ

試驗科目及其ノ日割ハ豫メ本學部内ニ掲示シ且ツ官報ヲ以テ公告ス

第二十四條　左ニ掲クル者ハ選拔試驗ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、法科大學又ハ本學部ノ卒業生ニシテ更ニ本學部ノ他ノ學科ニ入學ヲ志望スル者

二、法科大學經濟學科若ハ商業學科又ハ本學部學生ノ退學セシ者

三、他ノ分科大學又ハ他ノ學部ノ卒業生

四、他ノ帝國大學ノ卒業生

第二十六條　經濟學科ニ入學ヲ志望スル者ハ履修スヘキ第一外國語經濟學(英、佛、獨)ヲ入學願書ニ記載スルコトヲ要ス

## 二、京都帝國大學入學規程拔萃

【注】帝國大學入學規程については前項東京帝國大學に於て一通り知つておるから以下掲げるのはその重複をさけ特に異つた規程と思はれるもののみを擧げる事とする、故に別段の規程なきものは東京帝國大學のそれと同樣と見ればさしつかへないわけである。

第四條　高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者ハ法・文・經濟部ニ理科ヲ卒業シタル者ハ醫・工・理・農學部ニ入學スルコトヲ得

前項ニ依ル入學志望者ノ人員學部各學科ニ於テ收容シ得ヘキ數ヲ超過スルトキハ高等學校高等科中ノ科目ニ就キ選拔試驗ヲ施行シ入學者ヲ定ム

第一項ノ志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アルトキハ高等學校及學習院高等科文科卒業者ハ醫・工・理・農學部ニ理科卒業者ハ法・文・經濟學部ニ入學スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二項ノ規程ヲ準用ス

第五條　左ニ記載スル者ハ第四條ノ入學志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アル場合ニ限リ記載ノ順位ニ依リ入學セシムルコトアルヘシ

一、帝國大學學部所定ノ試驗ニ合格シタル學士

二、一學部ヨリ他學部ニ轉學ヲ望ム者

三、他ノ帝國大學生ニシテ轉學ヲ望ム者

四、本學ニ於テ臨時執行スル入學試驗ノ合格者但此試驗ハ場合ニ依リ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第六條　入學志望者ハ二月十五日(第五條第四號ニ該當スル者ハ一月二十日)迄ニ願書ヲ差出スヘシ但シ缺員アル學科ニ限リ三月末日迄願書ヲ受理ス

前項ノ願書ニハ學校醫若クハ官公立病院ノ證明書ヲ添附スルヲ要ス

第七條　第四條ニ依ル入學志望者ハ其ノ出身學校ヲ經由シテ願書ヲ差出スヘシ第五條第四號ニ依ル入學志望者ハ入學願書ニ受驗料金拾圓ヲ添ヘ出願スヘシ

受理シタル受驗料ハ之ヲ返附セス

【注】京都帝國大學に於ては學部別の規程は別段設けてない。

## 三、東北帝國大學入學規程拔萃

第五條　學部ニ入學スルコトヲ得ル者竝ニ入學ノ順位左ノ如シ但シ入學志望者ノ數學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第一、高等學校及學習院ノ高等科文科卒業者ニシテ法文學部ニ、理科卒業者ニシテ理學部、醫學部又ハ工學部ニ入學ヲ志望スル者

第二、高等學校及學習院ノ高等科文科卒業者ニシテ理學部、醫學部又ハ工業部ニ、理科卒業者ニシテ法文學部ニ入學ヲ志望スル者

舊高等學校令ニ依ル大學豫科第一部卒業者ハ文科卒業者ニ、第二部及第三部卒業者ハ理科卒業者ニ準ス

第六條　前條ニ依ル入學志望者ヲ收容シ尙闕員アル場合ニ限リ學部ニ於ケル學力檢定ニ合格シタル者ヲ入學セシムルコトアルヘシ

第七條　第五條ニ依ル入學志望者ハ出身學校ヲ經由シ二月十五日限リ願書ヲ差出スヘシ

前項ニ依ル入學志望者ノ數收容豫定數ニ充タサルトキハ四月五日マテ願書ヲ受理シ其ノ入學ニ關シテハ第六條ニ依ル入學志望者ト同樣ニ取扱フ但シ願書ハ出身學校ヲ經由スヘシ

第八條　第六條ニ依ル入學志望者ヲ募集スル場合ニハ二月十六日以後ノ官報ニ之ヲ公告ス

前項ニ依ル入學志望者ハ四月五日限リ願書ヲ差出スヘシ

一、高等師範學校女子高等師範學校ノ本科、理科、理學ニ關スル專門學校及之ト同程度以上ノ專門學校ヲ卒業シタル者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認メタル者

二、專門學校卒業者中本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ檢定試驗ニ合格シタル者、中等學校敎員免狀所有者ニシテ本學部ニ於テ考査ノ上更ニ檢定試驗ニ合格シタル者ニ就キ又同シ

前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條　檢定試驗ハ高等學校高等科ノ學科目ニ就キ其ノ卒業程度ニ於テ之ヲ行フ但シ官立高等學校ニ委託シテ之ヲ行フコトアルヘシ

### (2) 工學部規程拔萃

第一條　通則第六條ニ依リ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

第二條　通則第六條ニ依リ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

一、高等學校高等科理科ニ準スル大學豫科ヲ卒業シタル者ニシテ當該大學ノ許可ヲ得タル者

二、高等師範學校理科第一部第二部又ハ工學ニ關スル專門學校ヲ卒業シタル者

前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第三條　本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタルモノニシテ檢定試驗ニ合格シタル者ハ前條志望者ニ準シ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條　本學部ノ入學ニ關シ選拔試驗ヲ行フ場合ニハ高等學校高等科理科ノ授業科目中ノ三科目以上ニ就キ之ヲ施行ス

外國語ノ試驗ヲ行フ場合ニアリテハ志望者ノ選擇ニ依リ英、佛、獨語ノ中任意其ノ一ヲ選ハシム



## (3) 法文學部規程拔萃

第二條　左ニ記載スル者ハ通則第六條ノ定ムル場合ニ限リ本學部ニ入學スルコト得

一、高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校、外國語學校其ノ他之ト同種同等程度以上ノ專門學校卒業者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認メタル者

二、專門學校卒業者中本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ檢定試驗ニ合格シタル者

前項各號ノ志願者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

【注】他の學部は略す

## 四、九州帝國大學入學規程拔萃

第六條　學部ニ入學ヲ許可スヘキモノ左ノ如シ

一、高等學校高等科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者

二、學部ニ於テ臨時施行スル學力檢定試驗ニ合格シタル者但シ此試驗ハ時宜ニ依リ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第七條　醫學部、工學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ、法文學部ニ在リテハ同文科ヲ卒業シタル者ハ他ノ入學志望者ニ先チ入學ヲ許可ス

前項志望者ノ數學部收容豫定人員ヲ超過スルトキハ學部ニ於テ選拔試驗ヲ行ヒ入學者ヲ定ム但シ場合ニ依リ考査ノ上入學者ヲ定ムルコトアルヘシ



第八條　前條ノ志望者ヲ入學セシメタル後尙ホ闕員アル場合ニ於テハ左ニ揭クル者ニ入學ヲ許可ス

一、醫學部、工學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者

二、法文學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ卒業シタル者

三、學力檢定試驗ニ合格シタル者

前項志望者ノ數缺員ヲ超過スルトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條ノ一　大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得タル者入學ヲ請フトキハ第七條ニ該當スル入學志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アル場合ニ限リ他ノ入學志望者ニ先チ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條ノ二　本學學生ニシテ退學シタル者再ヒ同一學部

ニ入學ヲ請フトキ及他ノ帝國大學又ハ官立大學學生ニシテ同一學部ニ轉學ヲ望ム者ハ關員アル場合ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條ノ三　大學令ニ依ル他ノ大學附屬大學豫科ヲ卒業シタル者ハ場合ニ依リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

(1) 農學部規程拔萃

第六條　九州帝國大學通則第六條第二號ニ依リ本學部ニ入學セントスル者ハ專門學校程度ノ農林學校卒業者、高等師範學校及女子高等師範學校本科理科卒業者又ハ專門學校卒業者ニシテ本學部ニ於テ適當ト認メタル者

(2) 法文學部規程拔萃

第一條　九州帝國大學通則第六條第二號ニ依リ本學部ニ於テ行フ學力檢定試驗ヲ受クルコトヲ得ルハ高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校若クハ外國語學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校卒業者ニシテ本學部ニ於テ適當ト認メタル者

## 五、新潟醫科大學入學規程

第五條　入學ハ第一學期ノ初メニ於テス

第六條　本學ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ高等學校高等科ニ於ケル理科卒業者タルヲ要ス

但入學志願者ノ數收容豫定數ヲ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第七條　前條ノ入學志願者ヲ收容シ尙ホ關員アル場合ニ限リ左ニ記載スル者ノ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等學校高等科文科卒業者

一、大學豫科修了者

一、醫學專門學校醫學科卒業者ニシテ相當ノ學力アリト認メタル者

但シ試驗ハ之ヲ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第八條　本學學生ニシテ退學シタル者再ヒ入學ヲ請フトキハ關員アル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條　帝國大學醫學部及他ノ醫科大學學生ニシテ本學ニ轉學ヲ望ム者ハ關員アル場合ニ限リ許可スルコトアルヘシ

第十條　入學志願者ハ二月十五日迄ニ願書ニ卒業又ハ修學證明書及身體檢查證ヲ添ヘ學長ニ願出ツヘシ（願書及身體檢查證ノ用紙ハ本學ニ於テ交付ス）

但期限後ト雖尙ホ關員アル場合ニハ四月五日迄願書ヲ受理スルコトアルヘシ

【注】官立醫科大學の入學規程については新潟を擧げたが他の大學の規程は大體之と同一であるから略すこととする。

## 第八　選科生聽講生ニ關スル入學規程

### 一、東京帝國大學選科生入學規程

第二十五條　學部ノ學科ニ就キ一科目又ハ數科目ヲ選擇シテ學修セント欲スル者ハ次條以下ノ規程ニ依リ其ノ

學部ノ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條　選科生トシテ入學ヲ志願スル者ハ其ノ選擇セント欲スル科目ヲ記載シ履歷書ヲ添ヘ學年ノ初ニ於テ學部長ニ願出ツヘシ

第二十七條　選科生トシテ入學ヲ許可スヘキ者ハ滿十九年以上ノ男子ニシテ其ノ選擇スル科目ヲ學修スルニ足ルヘキ學力アル者ニ限ル

前項ノ學力ハ學部ニ於テ入學試驗ヲ行ヒ若クハ無試驗檢定ニ依リ之ヲ認定ス

入學試驗及無試驗檢定ニ關スル規定ハ各學部ニ於テ之ヲ定ム

第二十八條　選科生ノ入學ハ學生ノ學修ニ妨ナキ限リ之ヲ許可ス

第二十九條　選科生ハ其學修セル科目ニ就キ試驗ヲ受ケルコトヲ得

試驗ニ合格シタル者ハ願ニ依リ學部長之ニ證明書ヲ付與ス

第三十條　前數條ニ定ムル所ノ外學生ニ關スル規定ハ總テ之ヲ選科生ニ準用ス

## 二、東京帝國大學聽講生入學規程

第三十一條　各學部ノ學科科目ニ就キ聽講ヲ志願スル者アルトキハ各學部ニ於テ學生ノ學修ニ妨ナキ限リ聽講生トシテ之ヲ許可スルコトヲ得

聽講ハ學期又ハ學年毎ニ之ヲ許可ス

第三十二條　聽講生ハ各學部所定ノ資格アル者ニ限ル但シ官廳又ハ外國政府ノ委託アルトキハ此ノ限ニアラス

【注】選科生、聽講生については各大學各學部それ〳〵規程を設けてゐる。しかし入學志望者が定員をはるかに超過する東京帝國大學の如き又は他大學の或學部の如きは全然餘裕がない故に規程はあるが內規として選科生聽講生の入部を許可しない、近時東大文學部も之を一切拒絕することになつた。尙入學志望者の少い所では今も若干の選科聽講生を認めてゐるから詳細についてはその都度各學部について承合する事を要する、各學部の規程は之を略す。

# 第九　帝國大學入學志願とその順序

各帝國大學を志願し入學を欲するにも順序と徑路がある、特に高校出にも文科、理科の區別あり、又他の學校出はその資格に於て高校出とは同一でないから志願に當りその方法を心得ておく事が肝要である。

**第一次入學**　第一次入學とは高校卒業生（本年度前年度に變りなく）が先づ所定の期間（一月十六日——二月十五日）內に所定書類（履歷書、寫眞、その他）を添へて當該高等學校を經て提出された志願に依る入學の事で、この志望者が

收容定員に達しない場合は無試驗で許可され超過の場合は原則として選拔試驗が行はれその結果入學者が決せられる。但しこの場合高校理科卒業生は大學の理科系統の學部(醫、工、農、理)には高校文科卒業生に優先し、同文科卒業生は大學文科系統(法、經、文、法文)の學部には理科卒業生に優先して入學を許可される、されば例へば或學部が定員文科生で滿員の時は理科生の志願はそのまゝ無效となり、若干の缺員ある場合には理科生は文科生を收容した後に許可されるがこの時理科生の志望者が缺員に超過する時は理科生のみに選拔試驗が行はれる事になる。文科生の場合亦同じ。大學入學者の大部分は第一次入學である。

**第二次入學**　第二次とは一次の高校出を收容して尙缺員ある場合に限り募集するものでこの場合はその旨官報にて廣告する(二月下旬又は三月上旬)が事實は二月十五日の締切を見ればすぐわかるわけだ。第二次の願書提出は三月六日より四月五日迄となつてゐる。出願資格であるが之は第一次とは異り高校出(この場合多くは一次試驗に落ちた者)と、之と同資格に於て、專門學校令に依る各種專門學校及び之に準ずると文部省で認定した專門學校の卒業者にして當該學部の檢定試驗に合格し又は詮衡にパスしたるものが出願し得るのである。この專門出に行ふ檢定試驗は高等學校修業程度で各學部所定の課目につき行はれるが、大體に於てあまり嚴格でなく、學部に依つては學校長の推薦に重きを置いて無試驗で詮衡に依つて定めるところもある。又この專門出の出願には檢定料十圓を添へて出すことになつてゐる。かくして兩者(高校專門)の出願數第二次募集人員に超過の場合は兩者合併平等に試驗されるのである。第二次入學のある學部は大體既述で明であるが、東京には殆んどなく、文科系統では東北、九州の法文學部、京都の文科等で理科系統では京都の農科、東北の理科、九州の農科等である。

**第三次入學**　第二次を收容し尙も缺員ある場合には四月二十日を期限に更に願書を受付ける事になつてゐる。之第三次入學であるが近年志願者多く事實に於いてこの事はないやうである。

——(おはり)——

| | ◇法 | ◇經 | | ◇文 | | | | | | ◇農經 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 經濟 | 商業 | 國文 | 國史 | 東史 | 西史 | 鉄學 | 水産 | 農經 |
| 一高 | 95 | 18 | 7 | 5 | 1 | 1 | 0 | 1 | … | 2 |
| | 168 | 20 | 11 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | … | 2 |
| 二高 | 15 | 6 | 0 | 1 | … | 2 | 0 | … | … | 1 |
| | 31 | 15 | 1 | 1 | … | 2 | 1 | … | … | 4 |
| 三高 | 36 | 10 | 3 | 1 | … | … | 2 | … | … | 1 |
| | 56 | 11 | 3 | 1 | … | … | 2 | … | … | 1 |
| 四高 | 23 | 3 | 4 | 1 | 3 | … | 2 | … | … | 1 |
| | 48 | 15 | 9 | 2 | 3 | … | 2 | … | … | 1 |
| 五高 | 42 | 10 | 7 | 0 | … | 1 | … | 2 | … | 1 |
| | 87 | 27 | 12 | 1 | … | 1 | … | 1 | … | 2 |
| 六高 | 29 | 5 | 9 | 3 | 1 | … | … | 1 | … | 1 |
| | 57 | 15 | 10 | 4 | 1 | … | … | 1 | … | 3 |
| 七高 | 16 | 7 | 4 | 0 | 1 | 1 | 2 | … | 2 | 2 |
| | 46 | 14 | 5 | 3 | 2 | 1 | 3 | … | 2 | 2 |
| 八高 | 25 | 10 | 6 | 4 | 5 | 2 | … | … | … | 3 |
| | 51 | 21 | 9 | 6 | 5 | 2 | … | … | … | 3 |
| 新潟 | 3 | 3 | 1 | 1 | … | 1 | 2 | … | … | 1 |
| | 11 | 6 | 4 | 1 | … | 1 | 3 | … | … | 1 |
| 松本 | 10 | 5 | 7 | 2 | … | 1 | 1 | 1 | … | 1 |
| | 24 | 10 | 11 | 3 | … | 1 | 1 | 1 | … | 3 |
| 山口 | 13 | 5 | 3 | 0 | 1 | 1 | … | 1 | … | 0 |
| | 24 | 8 | 7 | 1 | 2 | 1 | … | 1 | … | 3 |
| 松山 | 10 | 7 | 1 | … | … | … | 1 | 2 | 0 | 1 |
| | 17 | 13 | 2 | … | … | … | 1 | 2 | 1 | 1 |
| 水戸 | 28 | 16 | 13 | 2 | 2 | … | 1 | 1 | … | 2 |
| | 58 | 20 | 23 | 2 | 2 | … | 1 | 1 | … | 2 |
| 山形 | 9 | 4 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 |
| | 41 | 13 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| 佐賀 | 11 | 3 | 6 | 0 | 1 | … | … | … | … | 1 |
| | 14 | 8 | 9 | 1 | 1 | … | … | … | … | 1 |
| 弘前 | 7 | 3 | 10 | … | … | … | … | … | … | 0 |
| | 21 | 11 | 13 | … | … | … | … | … | … | 1 |
| 松江 | 11 | 3 | 4 | 0 | 1 | … | 1 | 4 | 1 | 0 |
| | 23 | 4 | 5 | 1 | 1 | … | 1 | 4 | 1 | 4 |
| 東京 | 32 | 11 | 5 | 3 | … | … | … | 3 | … | 1 |
| | 46 | 23 | 6 | 4 | … | … | … | 3 | … | 1 |

（昭和八年度）

# 東大入學率一覽表（其の一）

（表中上段の數字は入學者數下段は受驗者數）

| | ◇法 | ◇經 | | ◇文 | | | | | | | ◇醫 | | ◇工 | | | | | | | | | | ◇理 | | | | | | | | | ◇農 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 經濟 | 商業 | 國文 | 國史 | 東史 | 西史 | 宗教 | 英文 | 其他 | 醫學 | 藥學 | 土木 | 機械 | 船舶 | 航空 | 造兵 | 電氣 | 建築 | 應化 | 火藥 | 鑛冶 | 數學 | 天文 | 物理 | 化學 | 動物 | 植物 | 地質 | 鑛物 | 地理 | 地震 | 農學 | 農土 | 農化 | 林學 | 獸醫 | 水産 | 農經 |
| 一高 | 95 | 18 | 7 | 5 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 9 | 32 | 5 | 6 | 18 | 2 | 3 | 7 | 8 | 6 | 6 | 0 | 9 | 3 | … | 9 | 4 | 1 | 1 | … | 0 | 1 | … | 0 | 2 | 5 | 3 | 1 | … | 2 |
| | 168 | 20 | 11 | 5 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 8 | 86 | 7 | 13 | 26 | 2 | 8 | 8 | 20 | 13 | 15 | 2 | 10 | 4 | … | 12 | 8 | 1 | 2 | … | 1 | 1 | … | 1 | 2 | 8 | 3 | 1 | … | 2 |
| 二高 | 15 | 6 | 0 | 1 | … | 2 | 0 | … | 2 | 7 | 8 | 2 | 1 | 4 | 0 | 0 | 1 | 3 | 2 | 0 | … | 2 | … | 1 | 3 | 1 | … | … | … | … | … | 0 | 1 | … | 2 | 3 | … | … | 1 |
| | 31 | 15 | 1 | 1 | … | 2 | 1 | … | 3 | 5 | 25 | 3 | 7 | 13 | 1 | 1 | 2 | 6 | 8 | 1 | … | 5 | … | 1 | 5 | 3 | … | … | … | … | … | 1 | 1 | … | 4 | 4 | … | … | 4 |
| 三高 | 36 | 10 | 3 | 1 | … | … | 2 | 1 | 1 | 10 | 2 | … | 2 | 4 | 2 | 1 | 3 | 2 | 2 | … | … | … | 1 | … | … | 0 | … | … | 1 | … | … | … | … | … | 1 | 1 | … | … | 1 |
| | 56 | 11 | 3 | 1 | … | … | 2 | 1 | 1 | 10 | 10 | … | 3 | 5 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … | … | … | 1 | 1 | … | … | 1 |
| 四高 | 23 | 3 | 4 | 1 | 3 | … | 2 | … | 0 | 9 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | … | 1 | 0 | 2 | 0 | … | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | … | 1 | … | … | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | … | … | 1 |
| | 48 | 15 | 9 | 2 | 3 | … | 2 | … | 1 | 7 | 16 | 2 | 6 | 8 | 4 | … | 1 | 5 | 3 | 3 | … | 5 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | … | 2 | … | … | 2 | 2 | 2 | 9 | 3 | … | … | 1 |
| 五高 | 42 | 10 | 7 | 0 | … | 1 | … | 1 | 4 | 7 | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | … | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | … | … | … | 0 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | 4 | … | °2 | … | 1 |
| | 87 | 27 | 12 | 1 | … | 1 | … | 1 | 5 | 5 | 10 | 1 | 5 | 6 | 1 | … | 2 | 2 | 4 | 5 | 1 | 1 | … | … | … | 4 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | 5 | … | 1 | … | 2 |
| 六高 | 29 | 5 | 9 | 3 | 1 | … | … | … | … | 5 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | … | 1 | … | … | 2 | 2 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | … | 3 | 1 | … | 1 |
| | 57 | 15 | 10 | 4 | 1 | … | … | … | … | 4 | 13 | 2 | 4 | 9 | 3 | 1 | 2 | 6 | 3 | 2 | … | 3 | … | … | 2 | 2 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | … | 3 | 1 | … | 3 |
| 七高 | 16 | 7 | 4 | 0 | 1 | 1 | 2 | °1 | 1 | 9 | 1 | 1 | 0 | 1 | … | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | … | 0 | 1 | … | 0 | 0 | … | … | … | … | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | … | … | 2 | 2 |
| | 46 | 14 | 5 | 3 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 5 | 5 | 1 | 2 | 8 | … | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | … | 1 | 1 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | … | … | 2 | 2 |
| 八高 | 25 | 10 | 6 | 4 | 5 | 2 | … | 1 | 5 | 9 | 15 | 3 | 0 | 5 | 3 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 | 3 | … | 1 | 1 | … | … | … | 3 | … | 2 | 1 | … | … | 3 |
| | 51 | 21 | 9 | 6 | 5 | 2 | … | 1 | 6 | 6 | 45 | 5 | 4 | 13 | 4 | 3 | 3 | 5 | 6 | 11 | 1 | 6 | 2 | 1 | 4 | 5 | … | 2 | 1 | … | … | … | 3 | … | 2 | 1 | … | … | 3 |
| 新潟 | 3 | 3 | 1 | 1 | … | 1 | 2 | 1 | 1 | 9 | 4 | … | … | 2 | 3 | 0 | … | 1 | 0 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 1 | 1 | 0 | 1 | … | … | 1 |
| | 11 | 6 | 4 | 1 | … | 1 | 3 | 1 | 2 | 7 | 5 | … | … | 5 | 4 | 1 | … | 2 | 3 | … | … | … | … | … | … | 1 | 3 | … | … | … | … | 1 | … | 1 | 1 | 3 | 1 | … | … | 1 |
| 松本 | 10 | 5 | 7 | 2 | … | 1 | 1 | 1 | … | 7 | 6 | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | … | 1 | 1 | … | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | … | … | … | 2 | … | 3 | 4 | 1 | … | 1 |
| | 24 | 10 | 11 | 3 | … | 1 | 1 | 1 | … | 6 | 20 | 6 | 2 | 6 | 2 | 1 | 1 | … | 1 | 3 | … | 4 | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | … | … | … | 3 | … | 7 | 4 | 1 | … | 3 |
| 山口 | 13 | 5 | 3 | 0 | 1 | 1 | … | 1 | 1 | 9 | 1 | 0 | 0 | 1 | … | … | … | … | … | … | 0 | … | … | 1 | … | 0 | … | … | 1 | … | … | … | … | 2 | … | … | 2 | 1 | … | 0 |
| | 24 | 8 | 7 | 1 | 2 | 1 | … | 1 | 1 | 7 | 6 | 1 | 3 | 4 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … | … | 2 | … | … | 2 | 1 | … | 3 |
| 松山 | 10 | 7 | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 2 | 4 | 1 | … | 1 | … | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | … | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 0 | … | 2 | 0 | 1 |
| | 17 | 13 | 2 | … | … | … | 1 | … | … | 2 | 6 | 1 | … | 2 | … | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | … | 2 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 1 | … | 2 | 1 | 1 |
| 水戸 | 28 | 16 | 13 | 2 | 2 | … | 1 | … | 1 | 8 | 13 | 4 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | … | 0 | … | … | 0 | 0 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 3 | … | 1 | … | 2 |
| | 58 | 20 | 23 | 2 | 2 | … | 1 | … | 1 | 8 | 30 | 5 | 3 | 10 | 2 | 3 | 1 | 1 | 6 | 4 | … | 2 | … | … | 1 | 2 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 3 | … | 1 | … | 2 |
| 山形 | 9 | 4 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | °2 | … | 5 | 2 | 2 | … | 0 | 0 | … | … | 1 | 1 | … | … | 0 | … | … | … | 1 | … | … | 0 | 1 | … | … | 2 | °2 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| | 41 | 13 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | … | 4 | 12 | 3 | … | 6 | 2 | … | … | 1 | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | 1 | … | … | 2 | 1 | 6 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| 佐賀 | 11 | 3 | 6 | 0 | 1 | … | … | … | … | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | … | 0 | 1 | 0 | … | … | … | … | … | 0 | 1 | … | … | 1 | … | 0 | … | 2 | 1 | 2 | … | … | … | 1 |
| | 14 | 8 | 9 | 1 | 1 | … | … | … | … | 3 | 4 | 4 | 7 | 1 | 2 | 2 | … | 1 | 2 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | 2 | … | … | 1 | … | 1 | … | 2 | 1 | 5 | … | … | … | 1 |
| 弘前 | 7 | 3 | 10 | … | … | … | … | … | 3 | 10 | 0 | 0 | … | 0 | 1 | 0 | … | … | 1 | … | … | … | … | 1 | 1 | 0 | … | 1 | … | 1 | … | … | … | 2 | … | 2 | … | … | 0 |
| | 21 | 11 | 13 | … | … | … | … | … | 3 | 10 | 10 | 1 | … | 2 | 1 | 1 | … | … | 1 | … | … | … | … | 1 | 1 | 1 | … | 1 | … | 1 | … | … | … | 2 | … | 3 | … | … | 1 |
| 松江 | 11 | 3 | 4 | 0 | 1 | … | 1 | … | 1 | 10 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | … | 0 | 0 | 0 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | 0 | … | … | … | … | 1 | 1 | … | 1 | 4 | 1 | 0 |
| | 23 | 4 | 5 | 1 | 1 | … | 1 | … | 1 | 9 | 8 | 4 | 1 | 7 | 2 | 1 | … | 2 | 2 | 1 | … | 3 | 1 | … | … | … | … | 1 | … | … | … | … | 1 | 1 | … | 3 | 4 | 1 | 4 |
| 東京 | 32 | 11 | 5 | 3 | … | … | … | 1 | 4 | 9 | 6 | 1 | 6 | 6 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 7 | … | … | 3 | 2 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | … | 5 | 3 | 3 | … | 1 |
| | 46 | 23 | 6 | 4 | … | … | … | 1 | 4 | 8 | 19 | 2 | 9 | 11 | 1 | 1 | 2 | 9 | 1 | 4 | 1 | 8 | … | … | 4 | 4 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | … | 8 | 4 | 3 | … | 1 |

（昭和八年度）

# 東大入學率一覽表（其の二）

（表中上段の數字は入學者數下段は受驗者數）

| | ◇法 | ◇經 | | ◇文 | | | | | | | ◇醫 | | ◇工 | | | | | | | | ◇理 | | | | | | | | ◇農 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 經濟 | 商業 | 國文 | 國史 | 東史 | 西史 | 宗教 | 英文 | 其他 | 醫學 | 藥學 | 土木 | 機械 | 船舶 | 航空 | 造兵 | 電氣 | 建築 | 應化 | 火藥 | 鑛冶 | 數學 | 天文 | 物理 | 化學 | 動物 | 植物 | 地質 | 鑛物 | 地理 | 地震 | 農學 | 農土 | 農化 | 林學 | 獸醫 | 水產 | 農經 |
| 大阪 | 20 | 2 | 1 | … | 2 | … | … | 1 | 1 | 4 | 1 | … | … | 1 | 2 | … | 0 | 2 | … | 3 | … | 0 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … |
| | 26 | 3 | 1 | … | 3 | … | … | 1 | 1 | 3 | 9 | … | … | 3 | 2 | … | 2 | 3 | … | 6 | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … |
| 浦和 | 51 | 15 | 10 | 3 | 1 | 1 | 2 | … | 3 | 12 | 3 | 3 | 4 | 5 | 1 | 0 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | … | … | 0 | … | 0 | 1 | … | … | … |
| | 78 | 31 | 16 | 3 | 1 | 1 | 2 | … | 3 | 12 | 39 | 5 | 12 | 20 | 2 | 1 | 3 | 6 | 1 | 3 | 1 | 2 | 2 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 3 | 1 | … | … | … |
| 福岡 | 30 | 5 | 1 | … | 1 | 0 | … | 1 | 0 | 5 | 1 | 0 | … | 3 | 2 | … | 0 | … | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … |
| | 50 | 11 | 1 | … | 1 | 1 | … | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | … | 4 | 2 | … | 1 | … | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … |
| 静岡 | 29 | 11 | 9 | 3 | 2 | 2 | 3 | 1 | 2 | 12 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 1 | 2 | … | 0 | 2 | … | … | 1 | … | 1 | … | 1 | °2 | 4 | … | … | 2 | 4 |
| | 59 | 20 | 10 | 3 | 2 | 2 | 3 | 1 | 2 | 12 | 14 | 1 | 3 | 8 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 1 | 2 | … | 1 | 6 | … | … | 1 | … | 1 | … | 1 | 1 | 5 | … | … | 2 | 4 |
| 高知 | 19 | 3 | 3 | … | 1 | 1 | … | 1 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | … | … | … | … | … | 0 | … | 1 | 0 | … | … | 0 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 0 | 4 | °1 | … | 0 |
| | 33 | 5 | 8 | … | 1 | 1 | … | 1 | 2 | 3 | 6 | 1 | 1 | 4 | … | … | … | … | … | 1 | … | 1 | 1 | … | … | 2 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 2 | 4 | 0 | … | 1 |
| 姫路 | 8 | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | … | 1 | 1 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | … | … | 0 | 0 | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 0 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 3 | 2 | … | 1 | 1 |
| | 29 | 8 | 6 | 1 | 2 | 1 | … | 1 | 2 | 5 | 8 | 1 | 1 | 4 | … | … | 1 | 2 | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 6 | 2 | … | 1 | 1 |
| 廣島 | 14 | 5 | 6 | … | 0 | 1 | 1 | … | 0 | 7 | 1 | 1 | 0 | 3 | … | … | … | 1 | 1 | 1 | … | 2 | … | 1 | 1 | 1 | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | 1 | … | … | … |
| | 36 | 12 | 9 | … | 1 | 1 | 1 | … | 2 | 4 | 9 | 1 | 1 | 5 | … | … | … | 2 | 1 | 1 | … | 2 | … | 1 | 1 | 2 | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 2 | 1 | … | … | … |
| 台北 | 11 | 3 | 1 | 0 | … | 1 | … | 1 | … | 3 | 1 | … | 1 | 0 | 0 | 0 | … | 1 | 1 | … | … | 0 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 0 | … | … | … | 1 |
| | 19 | 9 | 2 | 1 | … | 1 | … | 1 | … | 2 | 13 | … | 1 | 1 | 1 | 2 | … | 2 | 5 | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 3 | … | 1 | … | … | … | 1 |
| 富山 | 5 | 2 | 5 | 0 | … | … | 1 | 1 | … | 5 | 0 | … | 0 | 1 | … | … | 1 | 0 | 0 | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 1 | 1 | 1 | … | 1 |
| | 9 | 4 | 6 | 1 | … | … | 1 | 1 | … | 4 | 3 | … | 1 | 2 | … | … | 1 | 2 | 2 | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 2 | … | 1 | 1 | 1 | … | 1 |
| 浪速 | 3 | 2 | … | … | … | … | 1 | … | 2 | 6 | 1 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | 1 | 1 | … | … |
| | 8 | 3 | … | … | … | … | 1 | … | 3 | 5 | 4 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | … | 1 | 1 | … | … |
| 東府 | 16 | 9 | 4 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | … | 8 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | … | 1 | 0 | 1 | 1 | … | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | … | … | … | … | … | 0 | 1 | … | 0 | 1 |
| | 38 | 15 | 11 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | … | 8 | 24 | 1 | 4 | 5 | 4 | … | 1 | 2 | 5 | 9 | … | 7 | 1 | 1 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | … | … | … | … | … | 3 | 1 | … | 1 | 1 |
| 武藏 | 15 | 5 | 4 | 2 | … | 2 | 1 | … | … | 1 | 5 | 1 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 2 | … | 2 | 2 | 3 | 1 | … | 2 | … | 1 | 1 | … | … | 1 | 1 | 1 | … | 2 | 1 | … | 1 | … |
| | 19 | 8 | 4 | 2 | … | 2 | 1 | … | … | 1 | 8 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 | 1 | 3 | .. | 6 | 2 | 3 | 1 | … | 3 | … | 1 | 1 | … | … | 1 | 1 | 1 | … | 3 | 1 | … | 1 | … |
| 甲南 | 1 | … | 3 | … | … | 0 | … | … | … | 2 | … | … | 0 | … | … | … | 0 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 1 | … | … | … | 1 |
| | 4 | … | 4 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 1 | … | … | … | 1 |
| 成蹊 | 5 | 5 | 3 | 1 | … | … | … | 1 | … | 6 | 3 | 1 | … | 4 | … | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 | … | … | … | .. | … | … | … | 1 | 1 | … | … | … | 1 | 1 | … | … | … |
| | 10 | 10 | 7 | 1 | … | … | … | 1 | | 6 | 4 | 1 | .. | 7 | … | 1 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | … | … | . | … | … | … | … | 1 | 1 | … | … | … | 1 | 1 | … | … | … |
| 成城 | 6 | 4 | 6 | … | … | 0 | 1 | 2 | 1 | 8 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | … | 0 | 0 | 1 | 0 | … | … | 0 | … | 2 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 | 2 | 0 |
| | 15 | 10 | 14 | … | … | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 | 5 | 1 | 2 | 6 | 2 | … | 1 | 1 | 1 | 1 | … | … | 1 | .. | 2 | … | 1 | 1 | … | … | … | … | 2 | 1 | 1 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 學習院 | 2 | 1 | 3 | 1 | … | … | … | 1 | … | 3 | 1 | … | … | … | … | … | 0 | 0 | 0 | … | … | 0 | 0 | … | … | … | 0 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 2 | … | … | 1 | 1 |
| | 7 | 7 | 4 | 1 | … | … | … | 1 | … | 3 | 3 | … | … | … | … | … | 2 | 2 | 1 | … | … | 1 | 1 | … | … | … | 2 | … | … | … | … | … | … | 1 | … | 2 | … | … | 1 | 1 |
| 其他 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | … | … | 2 | 0 | … | 0 | 0 | … | … | … | … | 0 | 0 | … | 1 | … | … | 1 | 0 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | 1 |
| | 6 | … | … | … | … | … | 1 | … | … | 2 | 1 | … | 1 | 2 | … | … | … | … | 2 | 1 | … | 2 | … | … | 2 | 2 | 1 | … | … | … | … | … | 1 | … | … | … | 1 | … | 1 |

【註】 數字中 °印付きは第二志望入學者を加算す。

| 工學部 | | | | | | 土木工學 | | | 機械工學 | | | | | | 船舶工學 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 京都 | 九州 | 東北 | 東工業 | 大工業 | 計 | 東京 | 京都 | 九州 | 東京 | 京都 | 九州 | 東北 | 東工業 | 大工業 | 東京 |
| 一八六 | 一一〇 | 八〇 | 一五〇 | 一二九 | 九七九 | 四〇 | 三五 | 一五 | 七八 | 三五 | 一五 | 二〇 | 三〇 | 四〇 | 三一 |
| 二六八 | 七五 | 九六 | 二六九 | 二六四 | 一、七三〇 | 九五 | 五一 | 二〇 | 二〇四 | 五四 | 一九 | 二〇 | 七一 | 八七 | 六五 |
| 一九九 | 八五 | 七〇 | 六三 | 一三三 | 一、〇七〇 | 七〇 | 三四 | 一六 | 一四一 | 四六 | 一三 | 一六 | 二二 | 三八 | 三九 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 六九 | 一七 | 二六 | 二八 | 一三一 | 五〇九 | 二五 | 一七 | 三 | 六三 | 八 | 三 | 四 | 八 | 四九 | 二六 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 二六八 | 一〇二 | 九六 | 九一 | 二六四 | 一、五七九 | 九五 | 五一 | 一九 | 二〇四 | 五四 | 一六 | 二〇 | 三〇 | 八七 | 六五 |
| 一四〇 | 九〇 | 五四 | 三九 | 四八 | 五八四 | 三二 | 二三 | 一四 | 五二 | 二八 | 一二 | 一五 | 一二 | 一二 | 一五 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 四六 | 一七 | 一九 | 二一 | 四四 | 二五八 | 八 | 一二 | 一 | 二六 | 七 | 二 | 四 | 八 | 二一 | 一六 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| — | — | 一 | 八二 | 三三 | 一一六 | — | — | — | — | — | — | 一 | 一〇 | 六 | — |
| 一八六 | 一〇七 | 七四 | 一四二 | 一二五 | 九五八 | 四〇 | 三五 | 一五 | 七八 | 三五 | 一四 | 二〇 | 三〇 | 三九 | 三一 |

（昭

# 東大入

（表中上段の數

| | ◇法 | ◇經 | | ◇文 | | | | | | | ◇醫 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 經濟 | 商業 | 國文 | 國史 | 東史 | 西史 | 宗教 | 英文 | 其他 | 醫學 | 藥學 | 土木 | 機械 | 船舶 |
| 大阪 | 20<br>26 | 2<br>3 | 1<br>1 | …<br>… | 2<br>3 | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | 1<br>1 | 4<br>3 | 1<br>9 | …<br>… | …<br>… | 1<br>3 | 2<br>2 |
| 浦和 | 51<br>78 | 15<br>31 | 10<br>16 | 3<br>3 | 1<br>1 | 1<br>1 | 2<br>2 | …<br>… | 3<br>3 | 12<br>12 | 3<br>39 | 3<br>5 | 4<br>12 | 5<br>20 | 1<br>2 |
| 福岡 | 30<br>50 | 5<br>11 | 1<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | 0<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | 0<br>1 | 5<br>3 | 1<br>2 | 0<br>1 | …<br>… | 3<br>4 | 2<br>2 |
| 靜岡 | 29<br>59 | 11<br>20 | 9<br>10 | 3<br>3 | 2<br>2 | 2<br>2 | 3<br>3 | 1<br>1 | 2<br>2 | 12<br>12 | 5<br>14 | 1<br>1 | 1<br>3 | 2<br>8 | 1<br>1 |
| 高知 | 19<br>38 | 3<br>5 | 3<br>8 | …<br>… | 1<br>1 | 1<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | 2<br>2 | 3<br>3 | 2<br>6 | 0<br>1 | 0<br>1 | 1<br>4 | …<br>… |
| 姬路 | 8<br>29 | 2<br>8 | 3<br>6 | 1<br>1 | 1<br>2 | 1<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | 1<br>2 | 7<br>5 | 1<br>8 | 1<br>1 | 1<br>1 | 1<br>4 | …<br>… |
| 廣島 | 14<br>36 | 5<br>12 | 6<br>9 | …<br>… | 0<br>1 | 1<br>1 | 1<br>1 | …<br>… | 0<br>2 | 7<br>4 | 1<br>9 | 1<br>1 | 0<br>1 | 3<br>5 | …<br>… |
| 台北 | 11<br>19 | 3<br>9 | 1<br>2 | 0<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | …<br>… | 1<br>1 | …<br>… | 3<br>2 | 1<br>13 | …<br>… | 1<br>1 | 0<br>1 | 0<br>1 |
| 富山 | 5<br>9 | 2<br>4 | 5<br>6 | 0<br>1 | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | 1<br>1 | …<br>… | 5<br>4 | 0<br>3 | …<br>… | 0<br>1 | 1<br>2 | …<br>… |
| 浪速 | 3<br>8 | 2<br>3 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | …<br>… | 2<br>3 | 6<br>5 | 1<br>4 | …<br>… | 1<br>1 | 1<br>1 | …<br>… |
| 東府 | 16<br>38 | 9<br>15 | 4<br>11 | 3<br>3 | 3<br>3 | 2<br>2 | 1<br>1 | 1<br>1 | …<br>… | 8<br>8 | 2<br>24 | 0<br>1 | 2<br>4 | 0<br>5 | 1<br>4 |
| 武藏 | 15<br>19 | 5<br>8 | 4<br>4 | 2<br>2 | …<br>… | 2<br>2 | 1<br>1 | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | 5<br>8 | 1<br>3 | 1<br>1 | 2<br>5 | 3<br>3 |
| 甲南 | 1<br>4 | …<br>… | 3<br>4 | …<br>… | …<br>… | 0<br>1 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | 2<br>1 | …<br>… | …<br>… | 0<br>1 | …<br>… | …<br>… |
| 成蹊 | 5<br>10 | 5<br>10 | 3<br>7 | 1<br>1 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | … | 6<br>6 | 3<br>4 | 1<br>1 | …<br>… | 4<br>7 | …<br>… |
| 成城 | 6<br>15 | 4<br>10 | 6<br>14 | …<br>… | …<br>… | 0<br>1 | 1<br>1 | 2<br>2 | 1<br>2 | 8<br>6 | 0<br>5 | 1<br>1 | 0<br>2 | 1<br>6 | 0<br>2 |
| 學習院 | 2<br>7 | 1<br>7 | 3<br>4 | 1<br>1 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | …<br>… | 3<br>3 | 1<br>3 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | …<br>… |
| 其他 | 1<br>6 | …<br>… | …<br>… | …<br>… | …<br>… | …<br>… | 1<br>1 | …<br>… | …<br>… | 2<br>2 | 0<br>1 | …<br>… | 0<br>1 | 0<br>2 | …<br>… |

【註】 數字

（禁轉載）

# 帝大各學部入學志望者・出願者・入學者調（昭和七年度）

| 學部 | 學科 | 大學 | 收容豫定數 | 入學志望者 | 出願者 本年卒業者 第一次 | 出願者 本年卒業者 第二次 | 出願者 本年以前卒業者 第一次 | 出願者 本年以前卒業者 第二次 | 出願者 計 | 入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第一次 | 入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第二次 | 入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第一次 | 入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第二次 | 學士轉學 轉科 轉學部 | 其他學校出身 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 法學部 | | 東京 | 六五〇 | 一、一九八 | 八一三 | — | 三六七 | — | 一、一八〇 | 四五八 | — | 一九二 | — | 三一 | — | 六八一 |
| 法學部 | | 京都 | 四五〇 | 三三八 | 四八一△三 | — | 九五△三 | — | 五七六△六 | 四七〇△三 | — | 九三△三 | — | 九 | 一 | 五七三△六 |
| 法學部 | | 計 | 一、一〇〇 | 一、五三六 | 一、二九四△三 | — | 四六二△三 | — | 一、七五六△六 | 九二八△三 | — | 二八五△三 | — | 四〇 | 一 | 一、二五四△六 |
| | 法律學 | 東京 | 六五〇 | 九〇二 | 六二六 | — | 二八四 | — | 九一〇 | 三五四 | — | 一六六 | — | 一〇 | — | 五三〇 |
| | 政治學 | 東京 | | 二九六 | 一八七 | — | 八三 | — | 二七〇 | 一〇四 | — | 二六 | — | 二一 | — | 一五一 |
| 醫學部 | | 東京 | 一六五 | 五九二 | 三二三 | — | 二六九 | — | 五九二 | 七九 | — | 八七 | — | 二 | — | 一六八 |
| 醫學部 | | 京都 | 一二〇 | 三一五 | 一六六 | — | 一四九 | — | 三一五 | 六二 | — | 六〇 | — | — | — | 一二二 |
| 醫學部 | | 九州 | 一二〇 | 三一八 | 一九二 | — | 一二六 | — | 三一八 | 六五 | — | 五五 | — | — | — | 一二〇 |
| 醫學部 | | 東北 | 一〇〇 | 二一一 | 一〇〇 | — | 一一一 | — | 二一一 | 四五 | — | 五九 | — | — | — | 一〇四 |
| 醫學部 | | 新潟 | 八〇 | 一〇八 | 六七 | — | 四一 | — | 一〇八 | 四八 | — | 三三 | — | — | — | 八一 |
| 醫學部 | | 岡山 | 八〇 | 一三九 | 六三 | — | 七六 | — | 一三九 | 四一 | — | 四二 | — | — | — | 八三 |
| 醫學部 | | 千葉 | 八〇 | 一六五 | 七七 | — | 七八 | — | 一五五 | 三四 | — | 四八 | — | — | — | 八二 |
| 醫學部 | | 金澤 | 八〇 | 一四六 | 八一 | — | 六五 | — | 一四六 | 三九 | — | 四一 | — | — | — | 八〇 |
| 醫學部 | | 長崎 | 八〇 | 一一六 | 五八 | — | 五八 | — | 一一六 | 三六 | — | 四四 | — | — | — | 八〇 |
| 醫學部 | | 熊本 | 八〇 | 一二〇 | 七〇 | — | 六〇 | — | 一三〇 | 三八 | — | 四二 | — | — | — | 八〇 |
| 醫學部 | | 計 | 九八五 | 二、二三〇 | 一、一九七 | — | 一、〇三三 | — | 二、二三〇 | 四八七 | — | 五一一 | — | 二 | — | 一、〇〇〇 |
| | 醫學 | 東京 | 一三〇 | 五〇一 | 二八一 | — | 二二〇 | — | 五〇一 | 六二 | — | 六八 | — | 二 | — | 一三二 |
| | 醫學 | 京都 | 一二〇 | 三一五 | 一六六 | — | 一四九 | — | 三一五 | 六二 | — | 六〇 | — | — | — | 一二二 |
| | 醫學 | 九州 | 一二〇 | 三一八 | 一九二 | — | 一二六 | — | 三一八 | 六五 | — | 五五 | — | — | — | 一二〇 |
| | 醫學 | 東北 | 一〇〇 | 二一一 | 一〇〇 | — | 一一一 | — | 二一一 | 四五 | — | 五九 | — | — | — | 一〇四 |
| | 醫學 | 新潟 | 八〇 | 一〇八 | 六七 | — | 四一 | — | 一〇八 | 四八 | — | 三三 | — | — | — | 八一 |
| | 醫學 | 岡山 | 八〇 | 一三九 | 六三 | — | 七六 | — | 一三九 | 四一 | — | 四二 | — | — | — | 八三 |
| | 醫學 | 千葉 | 八〇 | 一六五 | 七七 | — | 七八 | — | 一五五 | 三四 | — | 四八 | — | — | — | 八二 |
| | 醫學 | 金澤 | 八〇 | 一四六 | 八一 | — | 六五 | — | 一四六 | 三九 | — | 四一 | — | — | — | 八〇 |
| | 醫學 | 長崎 | 八〇 | 一一六 | 五八 | — | 五八 | — | 一一六 | 三六 | — | 四四 | — | — | — | 八〇 |
| | 醫學 | 熊本 | 八〇 | 一二〇 | 七〇 | — | 六〇 | — | 一三〇 | 三八 | — | 四二 | — | — | — | 八〇 |
| | 藥學 | 東京 | 三五 | 九一 | 四二 | — | 四九 | — | 九一 | 一七 | — | 一九 | — | — | — | 三六 |
| 工學部 | | 東京 | 三二四 | 七五八 | 五二〇 | — | 二三八 | — | 七五八 | 二一三 | — | 一一一 | — | — | — | 三二四 |
| 工學部 | | 京都 | 一八六 | 二六八 | 一九九 | — | 六九 | — | 二六八 | 一四〇 | — | 四六 | — | — | — | 一八六 |
| 工學部 | | 九州 | 一一〇 | 七五 | 八五 | — | 一七 | — | 一〇二 | 九〇 | — | 一七 | — | — | — | 一〇七 |
| 工學部 | | 東北 | 八〇 | 九六 | 七〇 | — | 二六 | — | 九六 | 五四 | — | 一九 | — | — | 一 | 七四 |
| 工學部 | | 東工業 | 一五〇 | 二六九 | 六三 | — | 二八 | — | 九一 | 三九 | — | 二一 | — | — | 八二 | 一四二 |
| 工學部 | | 大工業 | 一二九 | 二六四 | 一三三 | — | 一三一 | — | 二六四 | 四八 | — | 四四 | — | — | 三三 | 一二五 |
| 工學部 | | 計 | 九七九 | 一、七三〇 | 一、〇七〇 | — | 五〇九 | — | 一、五七九 | 五八四 | — | 二五八 | — | — | 一一六 | 九五八 |
| | 土木工學 | 東京 | 四〇 | 九五 | 七〇 | — | 二五 | — | 九五 | 三二 | — | 八 | — | — | — | 四〇 |
| | 土木工學 | 京都 | 三五 | 五一 | 三四 | — | 一七 | — | 五一 | 二三 | — | 一二 | — | — | — | 三五 |
| | 土木工學 | 九州 | 一五 | 二〇 | 一六 | — | 三 | — | 一九 | 一四 | — | 一 | — | — | — | 一五 |
| | 機械工學 | 東京 | 七八 | 二〇四 | 一四一 | — | 六三 | — | 二〇四 | 五二 | — | 二六 | — | — | — | 七八 |
| | 機械工學 | 京都 | 三五 | 五四 | 四六 | — | 八 | — | 五四 | 二八 | — | 七 | — | — | — | 三五 |
| | 機械工學 | 九州 | 一五 | 一九 | 一三 | — | 三 | — | 一六 | 一二 | — | 二 | — | — | — | 一四 |
| | 機械工學 | 東北 | 二〇 | 二〇 | 一六 | — | 四 | — | 二〇 | 一五 | — | 四 | — | — | 一 | 二〇 |
| | 機械工學 | 東工業 | 三〇 | 七一 | 二二 | — | 八 | — | 三〇 | 一二 | — | 八 | — | — | 一〇 | 三〇 |
| | 機械工學 | 大工業 | 四〇 | 八七 | 三八 | — | 四九 | — | 八七 | 一二 | — | 二一 | — | — | 六 | 三九 |
| | 船舶工學 | 東京 | 三一 | 六五 | 三九 | — | 二六 | — | 六五 | 一五 | — | 一六 | — | — | — | 三一 |
| | 航空學 | 東京 | 九 | 三三 | 二〇 | — | 一三 | — | 三三 | 六 | — | 三 | — | — | — | 九 |
| | 造兵學 | 東京 | 一七 | 三八 | 二八 | — | 一〇 | — | 三八 | 一二 | — | 五 | — | — | — | 一七 |
| | 電氣 | 東京 | 三五 | 九〇 | 六五 | — | 二五 | — | 九〇 | 二四 | — | 一一 | — | — | — | 三五 |
| | 電氣 | 京都 | 五〇 | 八〇 | 六八 | — | 一二 | — | 八〇 | 四三 | — | 七 | — | — | — | 五〇 |

| 學部 | 學科 | 大學 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 學… | | 長崎 | 八〇 | 一一六 | 五八 | — | 五八 | — | 一一六 | 三六 | — | 四四 | — | — | — | 八〇 |
| | | 熊本 | 八〇 | 一二〇 | 七〇 | — | 六〇 | — | 一三〇 | 三八 | — | 四二 | — | — | — | 八〇 |
| | 藥學 | 東京 | 三五 | 九一 | 四二 | — | 四九 | — | 九一 | 一七 | — | 一九 | — | — | — | 三六 |
| 工學部 | | 東京 | 三二四 | 七五八 | 五二〇 | — | 二三八 | — | 七五八 | 二一三 | — | 一一一 | — | — | — | 三二四 |
| | | 京都 | 一八六 | 二六八 | 一九九 | — | 六九 | — | 二六八 | 一四〇 | — | 四六 | — | — | — | 一八六 |
| | | 九州 | 一一〇 | 七五 | 八五 | — | 一七 | — | 一〇二 | 九〇 | — | 一七 | — | — | — | 一〇七 |
| | | 東北 | 八〇 | 九六 | 七〇 | — | 二六 | — | 九六 | 五四 | — | 一九 | — | — | 一 | 七四 |
| | | 東工業 | 一五〇 | 二六九 | 六三 | — | 二八 | — | 九一 | 三九 | — | 二一 | — | — | 八二 | 一四二 |
| | | 大工業 | 一二九 | 二六四 | 一三三 | — | 一三一 | — | 二六四 | 四八 | — | 四四 | — | — | 三三 | 一二五 |
| | | 計 | 九七九 | 一、七三〇 | 一、〇七〇 | — | 五〇九 | — | 一、五七九 | 五八四 | — | 二五八 | — | — | 一一六 | 九五八 |
| | 土木工學 | 東京 | 四〇 | 九五 | 七〇 | — | 二五 | — | 九五 | 三二 | — | 八 | — | — | — | 四〇 |
| | | 京都 | 三五 | 五一 | 三四 | — | 一七 | — | 五一 | 二三 | — | 一二 | — | — | — | 三五 |
| | | 九州 | 一五 | 二〇 | 一六 | — | 三 | — | 一九 | 一四 | — | 一 | — | — | — | 一五 |
| | 機械工學 | 東京 | 七八 | 二〇四 | 一四一 | — | 六三 | — | 二〇四 | 五二 | — | 二六 | — | — | — | 七八 |
| | | 京都 | 三五 | 五四 | 四六 | — | 八 | — | 五四 | 二八 | — | 七 | — | — | — | 三五 |
| | | 九州 | 一五 | 一九 | 一三 | — | 三 | — | 一六 | 一二 | — | 二 | — | — | — | 一四 |
| | | 東北 | 二〇 | 二〇 | 一六 | — | 四 | — | 二〇 | 一五 | — | 四 | — | — | 一 | 二〇 |
| | | 東工業 | 三〇 | 七一 | 二二 | — | 八 | — | 三〇 | 一二 | — | 八 | — | — | 一〇 | 三〇 |
| | | 大工業 | 四〇 | 八七 | 三八 | — | 四九 | — | 八七 | 一二 | — | 二一 | — | — | 六 | 三九 |
| | 船舶工學 | 東京 | 三一 | 六五 | 三九 | — | 二六 | — | 六五 | 一五 | — | 一六 | — | — | — | 三一 |
| | 航空學 | 東京 | 九 | 三三 | 二〇 | — | 一三 | — | 三三 | 六 | — | 三 | — | — | — | 九 |
| | 造兵學 | 東京 | 一七 | 三八 | 二八 | — | 一〇 | — | 三八 | 一二 | — | 五 | — | — | — | 一七 |
| | 電氣工學 | 東京 | 三五 | 九〇 | 六五 | — | 二五 | — | 九〇 | 二四 | — | 一一 | — | — | — | 三五 |
| | | 京都 | 五〇 | 八〇 | 六八 | — | 一二 | — | 八〇 | 四三 | — | 七 | — | — | — | 五〇 |
| | | 九州 | 二〇 | 一三 | 一九 | — | 三 | — | 一二 | 二〇 | — | 一 | — | — | — | 二一 |
| | | 東北 | 二〇 | 三一 | 二一 | — | 一〇 | — | 三一 | 一四 | — | 六 | — | — | — | 二〇 |
| | | 東工業 | 二五 | 四七 | 四 | — | 五 | — | 九 | 二 | — | 四 | — | — | 一九 | 二五 |
| | | 大工業 | 一八 | 四三 | 二六 | — | 一七 | — | 四三 | 九 | — | 三 | — | — | 六 | 一八 |
| | 建築學 | 東京 | 三四 | 六六 | 三七 | — | 二九 | — | 六六 | 二〇 | — | 一四 | — | — | — | 三四 |
| | | 京都 | 一五 | 二八 | 一六 | — | 一二 | — | 二八 | 一〇 | — | 五 | — | — | — | 一五 |
| | | 東工業 | 二〇 | 三五 | 一三 | — | 三 | — | 一六 | 一〇 | — | 一 | — | — | 七 | 一八 |
| | 應用化學 | 東京 | 二八 | 九〇 | 六五 | — | 二五 | — | 九〇 | 二〇 | — | 八 | — | — | — | 二八 |
| | | 九州 | 一五 | 九 | 一〇 | — | 三 | — | 一三 | 一〇 | — | 四 | — | — | — | 一四 |
| | | 東工業 | 二四 | 三三 | 六 | — | 六 | — | 一二 | 三 | — | 二 | — | — | 一七 | 二三 |
| | | 大工業 | 二二 | 六一 | 三三 | — | 二八 | — | 六一 | 一四 | — | 四 | — | — | 四 | 二二 |
| | 工業化學 | 京都 | 二四 | 四一 | 二六 | — | 一五 | — | 四一 | 一四 | — | 一〇 | — | — | — | 二四 |
| | 化學工學 | 東北 | 二〇 | 二四 | 一六 | — | 八 | — | 二四 | 一一 | — | 五 | — | — | — | 一六 |
| | 火藥學 | 東京 | 五 | 一二 | 一〇 | — | 二 | — | 一二 | 四 | — | 一 | — | — | — | 五 |
| | 鑛山及冶金學 | 東京 | 四七 | 六五 | 四五 | — | 二〇 | — | 六五 | 二八 | — | 一九 | — | — | — | 四七 |
| | 冶金學 | 九州 | 一五 | 六 | 一二 | — | 二 | — | 一四 | 一二 | — | 二 | — | — | — | 一四 |
| | | 大工業 | 一五 | 二七 | 一二 | — | 一五 | — | 二七 | 五 | — | 四 | — | — | 五 | 一四 |
| | 採鑛學 | 九州 | 二〇 | 五 | 一〇 | — | 一 | — | 一一 | 一五 | — | 五 | — | — | — | 二〇 |
| | 採鑛冶金學 | 京都 | 二七 | 一四 | 九 | — | 五 | — | 一四 | 二二 | — | 五 | — | — | — | 二七 |
| | 金屬工學 | 東北 | 二〇 | 二一 | 一七 | — | 四 | — | 二一 | 一四 | — | 四 | — | — | — | 一八 |
| | 造船學 | 九州 | 一〇 | 三 | 五 | — | 二 | — | 七 | 七 | — | 二 | — | — | — | 九 |
| | | 大工業 | 一二 | 二三 | 一四 | — | 八 | — | 二三 | 五 | — | 四 | — | — | 二 | 一一 |
| | 釀造學 | 大工業 | 二二 | 二四 | 一〇 | — | 一四 | — | 二四 | 三 | — | 八 | — | — | 一〇 | 二一 |
| | 染料化學 | 東工業 | 一二 | 一四 | 一 | — | — | — | 一 | 一 | — | — | — | — | 一〇 | 一一 |
| | 紡織學 | 東工業 | 一五 | 二六 | 六 | — | 四 | — | 一〇 | 三 | — | 四 | — | — | 六 | 一三 |
| | 窯業學 | 東工業 | 一二 | 一七 | 三 | — | — | — | 三 | 三 | — | — | — | — | 八 | 一一 |
| | 電氣化學 | 東工業 | 一二 | 二六 | 八 | — | 二 | — | 一〇 | 五 | — | 二 | — | — | 五 | 一二 |
| 文學部 | | 東京 | 四〇〇 | 四七二 | 四二七 | — | 一二一 | — | 五四八 | 三一六 | — | 八五 | — | 二 | — | 四〇三 |
| | | 京都 | 二一五 | 二九八 | 一九二 | 一一二 | 四六 | 二二 | 三七二 | 一五〇 | 七二 | 三九 | 一八 | 二 | 一〇 | 二九一 |
| | | 東文理 | 六二 | 一 | 八三 △九 | — | 六八 △四 | — | 一五一 △一三 | — | — | 三 | — | 二 | 六〇 | 六五 |
| | | 廣文理 | 七〇 | 四 | 二〇 | 二九 | 二六 | 七七 | 一五二 | 五 | — | 三 | 一 | 四 | 五八 | 七一 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建築學 | 東京 | 三四 | 六六 | 三七 | — | 二九 | — | 六六 | 二〇 | — | 一四 | — | — | — | 三四 |
| 建築學 | 京都 | 一五 | 二八 | 一六 | — | 一二 | — | 二八 | 一〇 | — | 五 | — | — | — | 一五 |
| 建築學 | 東工業 | 二〇 | 三五 | 一三 | — | 三 | — | 一六 | 一〇 | — | 一 | — | — | 七 | 一八 |
| 應用化學 | 東京 | 二八 | 九〇 | 六五 | — | 二五 | — | 九〇 | 二〇 | — | 八 | — | — | — | 二八 |
| 應用化學 | 九州 | 一五 | 九 | 一〇 | — | 三 | — | 一三 | 一〇 | — | 四 | — | — | — | 一四 |
| 應用化學 | 東工業 | 二四 | 三三 | 六 | — | 六 | — | 一二 | 三 | — | 二 | — | — | 一七 | 二三 |
| 應用化學 | 大工業 | 二二 | 六一 | 三三 | — | 二八 | — | 六一 | 一四 | — | 四 | — | — | 四 | 二二 |
| 工業化學 | 京都 | 二四 | 四一 | 二六 | — | 一五 | — | 四一 | 一四 | — | 一〇 | — | — | — | 二四 |
| 化學工學 | 東北 | 二〇 | 二四 | 一六 | — | 八 | — | 二四 | 一一 | — | 五 | — | — | — | 一六 |
| 火藥學 | 東京 | 五 | 一二 | 一〇 | — | 二 | — | 一二 | 四 | — | 一 | — | — | — | 五 |
| 鑛山及冶金學 | 東京 | 四七 | 六五 | 四五 | — | 二〇 | — | 六五 | 二八 | — | 一九 | — | — | — | 四七 |
| 冶金學 | 九州 | 一五 | 六 | 一三 | — | 二 | — | 一四 | 一二 | — | 二 | — | — | — | 一四 |
| 冶金學 | 大工業 | 一五 | 二七 | 一二 | — | 一五 | — | 二七 | 五 | — | 四 | — | — | 五 | 一四 |
| 採鑛學 | 九州 | 二〇 | 五 | 一〇 | — | 一 | — | 一一 | 一五 | — | 五 | — | — | — | 二〇 |
| 採鑛冶金學 | 京都 | 二七 | 一四 | 九 | — | 五 | — | 一四 | 二二 | — | 五 | — | — | — | 二七 |
| 金屬工學 | 東北 | 二〇 | 二一 | 一七 | — | 四 | — | 二一 | 一四 | — | 四 | — | — | — | 一八 |
| 造船學 | 九州 | 一〇 | 三 | 五 | — | 二 | — | 七 | 七 | — | 二 | — | — | — | 九 |
| 造船學 | 大工業 | 一二 | 二三 | 一四 | — | 八 | — | 二三 | 五 | — | 四 | — | — | 二 | 一一 |
| 釀造學 | 大工業 | 二二 | 二四 | 一〇 | — | 一四 | — | 二四 | 三 | — | 八 | — | — | 一〇 | 二一 |
| 染料化學 | 東工業 | 一二 | 一四 | 一 | — | — | — | 一 | 一 | — | — | — | — | 一〇 | 一一 |
| 紡織學 | 東工業 | 一五 | 二六 | 六 | — | 四 | — | 一〇 | 三 | — | 四 | — | — | 六 | 一三 |
| 窯業學 | 東工業 | 一二 | 一七 | 三 | — | — | — | 三 | 三 | — | — | — | — | 八 | 一一 |
| 電氣化學 | 東工業 | 一二 | 二六 | 八 | — | 二 | — | 一〇 | 五 | — | 二 | — | — | 五 | 一二 |
| 文學部 | 東京 | 四〇〇 | 四七二 | 四二七 | — | 一二一 | — | 五四八 | 三一六 | — | 八五 | — | 二 | — | 四〇三 |
| 文學部 | 京都 | 二一五 | 二九八 | 一九二△九 | 一一二 | 四六△四 | 二二 | 三七二△一三 | 一五〇 | 七二 | 三九 | 一八 | 二 | 一〇 | 二九一 |
| 文學部 | 東文理 | 六二 | 一 | 八三 | — | 六八 | — | 一五一 | — | — | 三 | — | 二 | 六〇 | 六五 |
| 文學部 | 廣文理 | 七〇 | 四 | 二〇 | 二九 | 二六 | 七七 | 一五二 | 五 | — | 三 | 一 | 四 | 五八 | 七一 |
| 文學部 | 計 | 七四七 | 七七五 | 七二二△九 | 一四一 | 二六一△四 | 九九 | 一、二二三△一三 | 四七一 | 七二 | 一三〇 | 一九 | 一〇 | 一二八 | 八三〇 |
| 國文學 | 東京 | — | 八一 | 五〇 | — | 九 | — | 五九 | 三二 | — | 四 | — | — | — | 三六 |
| 國史學 | 東京 | — | 三三 | 二七 | — | 六 | — | 三三 | 二二 | — | 三 | — | — | — | 二五 |
| 支那哲學・支那文學 | 東京 | — | 二六 | 三六 | — | 九 | — | 四五 | 二五 | — | 九 | — | — | — | 三四 |
| 東洋史學 | 東京 | — | 三三 | 二三 | — | 六 | — | 二九 | 一七 | — | 三 | — | — | — | 二〇 |
| 西洋史學 | 東京 | — | 三九 | 二八 | — | 一二 | — | 四〇 | 一六 | — | 四 | — | — | — | 二〇 |
| 印度哲學・梵文學 | 東京 | — | 一四 | 一一 | — | 二 | — | 一三 | 一一 | — | 二 | — | — | — | 一三 |
| 心理學 | 東京 | — | 二九 | 二三 | — | 四 | — | 二七 | 一八 | — | 二 | — | — | — | 二〇 |
| 倫理學 | 東京 | — | 一七 | 一四 | — | 七 | — | 二一 | 一三 | — | 七 | — | — | — | 二〇 |
| 宗教學・宗教史學 | 東京 | — | 八 | 一四 | — | 五 | — | 一九 | 一四 | — | 五 | — | — | — | 一九 |
| 社會學 | 東京 | — | 一六 | 二〇 | — | 五 | — | 二五 | 一七 | — | 三 | — | — | — | 二〇 |
| 教育學 | 東京 | — | 一五 | 二九 | — | 一一 | — | 四〇 | 二〇 | — | 五 | — | — | — | 二五 |
| 教育學 | 東文理 | 一三 | — | 二七 | — | 二三 | — | 五〇 | — | — | — | — | — | 一六 | 一六 |
| 教育學 | 廣文理 | 一五 | 一 | 三 | 五 | 五 | 九 | 二二 | 一 | — | — | — | 一 | 一〇 | 二二 |
| 美學・美術史學 | 東京 | — | 二五 | 二五 | — | 六 | — | 三一 | 二〇 | — | 七 | — | — | — | 二七 |
| 言語學 | 東京 | — | 四 | 七 | — | 一〇 | — | 一七 | 三 | — | 七 | — | — | — | 一〇 |
| 梵文學 | 東京 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 英文學 | 東京 | — | 五四 | 四一 | — | 一一 | — | 五二 | 二九 | — | 七 | — | — | — | 三六 |
| 獨文學 | 東京 | — | 三一 | 三〇 | — | 四 | — | 三四 | 二五 | — | 四 | — | 一 | — | 三〇 |
| 佛文學 | 東京 | — | 一七 | 二三 | — | 七 | — | 三〇 | 一七 | — | 八 | — | — | — | 二五 |
| 哲學 | 東京 | — | 三〇 | 二六 | — | 七 | — | 三三 | 一七 | — | 五 | — | — | 一 | 二三 |
| 哲學 | 京都 | 八五 | — | 四〇△六 | 六五 | 一八△三 | 一四 | 一三七△九 | 三九 | 五二 | 一八 | 一〇 | 一 | 七 | 一二七 |
| 哲學 | 東文理 | 一二 | 一四 | 一〇 | — | 四 | — | 一四 | — | — | 一 | — | 一 | 五 | 七 |
| 哲學 | 廣文理 | 一五 | — | 一 | 六 | 一 | 一二 | 二〇 | — | — | — | — | 二 | 七 | 九 |

| 學部 | 史學 | | | 文學 | | | 理學 | | | 數學 | | | 天文學 | 物理學 | | | 地球物理學 | | 古生物學 | 地質學 | 鑛床學 | 岩石學 | 鑛物學 | 地質學 | 地理學 | 生物學 | | | 植物學 | | 動物學 | | 化學 | | | 宇宙物理學 | | 地球物理學 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 學科 | 大學 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 收容 | | 入學 | | | 卒業者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 讓定數 | | 志望者 | 計 | | 本年卒業者 | | 本年以前卒業者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 第一次 | 第二次 | 第一次 | 第二次 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 廣文理 | 東文理 | | 廣文理 | 東文理 | | | | | 廣文理 | 東文理 | 東北 | 東京 | 廣文理 | 東文理 | 東北 | 京都 | 東京 | 京都 | 東京 | 京都 | 東京 | 京都 | 東京 | 京都 | 東京 | 廣文理 | 東文理 | 東北 | 京都 | 東京 | 京都 | 東京 | 廣文理 | 東文理 | 東北 | 京都 | 東京 |
| 計 | 二〇 | 一一 | 一四五 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 四六九 | 三四二 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 師範學校(學習院共)出身 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 四一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 本年卒業者 第一次 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 本年以前卒業者 第一次 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 本年以前卒業者 第二次 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 轉學士轉部科學 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 校其他學出身 | 一一 | 一一 | 一一 | 二一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |
| 計 | 一四 | 一三八 | 一四 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 | 一一 |

| 學科 | 大學 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地球物理學 | 京都 | 五 | 六 | 六 | — | — | — | 六 | 五 | — | — | — | — | — | 五 |
| 宇宙物理學 | 京都 | 三 | 四 | 二 | — | 二 | — | 四 | 三 | — | — | — | — | — | 三 |
| 化學 | 東京 | 二四 | 五〇 | 四五 | — | 五 | — | 五〇 | 二三 | — | 一 | — | — | — | 二四 |
| | 京都 | 二八 | 三〇 | 一八 | — | 一二 | — | 三〇 | 二八 | — | — | — | — | — | 二八 |
| | 東北 | 一五 | 一五 | 八 | — | 七 | — | 一五 | 八 | — | 六 | — | — | — | 一四 |
| | 東文理 | 六 | — | 二 | — | 三 | — | 五 | — | — | — | — | — | 四 | 四 |
| | 廣文理 | 五 | — | 四 | — | 一 | — | 五 | — | — | — | — | — | 五 | 五 |
| 動物學 | 東京 | 八 | 一一 | 九 | — | 二 | — | 一一 | 六 | — | 一 | — | — | — | 七 |
| | 京都 | 五 | 一六 | 一二 | — | 四 | — | 一六 | 五 | — | — | — | — | 一 | 六 |
| 植物學 | 東京 | 八 | 一二 | 一〇 | — | 二 | — | 一二 | 六 | — | 二 | — | — | — | 八 |
| | 京都 | 五 | 二 | 二 | — | — | — | 二 | 二 | — | — | — | — | — | 二 |
| 生物學 | 東北 | 一〇 | 一三 | 一三 | — | — | — | 一三 | 六 | — | 七 | — | — | — | 一三 |
| | 東文理 | 一〇 | — | 八 | — | 九 | — | 一七 | — | — | — | — | — | 七 | 七 |
| | 廣文理 | 一〇 | — | 一 | 一 | 三 | 七 | 一二 | — | — | — | 一 | — | 七 | 八 |
| 地理學 | 東京 | 五 | 五 | 四 | — | 一 | — | 五 | 三 | — | 一 | — | 一 | — | 五 |
| 地質學 | 東京 | 一二 | 一四 | 一〇 | — | 四 | — | 一四 | 八 | — | 三 | — | — | 一 | 一二 |
| 鑛物學 | 東京 | 四 | 二 | 二 | — | — | — | 二 | 二 | — | — | — | — | — | 二 |
| 地質學鑛物學 | 京都 | 一〇 | 一〇 | 九 | — | 一 | — | 一〇 | 一〇 | — | — | — | — | — | 一〇 |
| 地震學 | 東京 | 五 | 一二 | 八 | — | 四 | — | 一二 | 四 | — | 一 | — | — | — | 五 |
| 地質學 | 東文理 | 六 | — | 七 | — | 二 | — | 九 | 一 | — | — | — | — | 五 | 六 |
| 岩石鑛物鑛床學 | 東北 | 一〇 | 二一 | 四 | 九 | 二 | 六 | 二一 | 四 | 四 | 二 | — | — | 一 | 一一 |
| 地質古生物學 | 東北 | 一〇 | 一三 | 三 | 五 | — | 五 | 一三 | 三 | 二 | — | 一 | — | 三 | 九 |
| 農學部 | 東京 | 二一五 | 二三九 | 一六三 | — | 七〇 | — | 二三三 | 一六四 | — | 五〇 | — | 五 | — | 二一九 |
| | 京都 | 一二〇 | 一二四 | 六四 △二 | 二〇 | 二一 △五 | 一九 | 一二四 △六 | 七〇 | 六 | 三〇 △三 | 一一 | 一 | 四 | 一二二 △三 |
| | 九州 | 九五 | 一五八 | 二八 | 二五 | 二一 | 三六 | 一一〇 | 二六 | 一六 | 二一 | 二〇 | — | 一二 | 九五 |
| | 計 | 四三〇 | 五二一 | 二五五 △二 | 四五 | 一一二 △五 | 五五 | 四六七 △六 | 二六〇 | 二二 | 一〇一 △三 | 三一 | 六 | 一六 | 四三六 △三 |
| 農學 | 東京 | 四〇 | 五七 | 三九 | — | 一五 | — | 五四 | 二九 | — | 一〇 | — | 二 | — | 四一 |
| | 京都 | 二五 | 二三 | 一五 | 五 | 五 | 三 | 二八 | 二〇 | — | 五 | — | — | 一 | 二六 |
| | 九州 | 四〇 | 五九 | 一三 | 五 | 八 | 一九 | 四五 | 一一 | 五 | 八 | 一一 | — | 五 | 四〇 |
| 同 農業土木工學專攻 | 東京 | 一五 | 二七 | 一六 | — | 一一 | — | 二七 | 九 | — | 五 | — | 一 | — | 一五 |
| 農藝化學 | 東京 | 五〇 | 五四 | 三八 | — | 一四 | — | 五二 | 三八 | — | 一四 | — | — | — | 五二 |
| | 九州 | 四〇 | 七五 | 一二 | 一三 | 九 | 一二 | 四六 | 一二 | 六 | 九 | 七 | — | 六 | 四〇 |
| 農業經濟學 | 東京 | 三〇 | 二六 | 一九 | — | 六 | — | 二五 | 二三 | — | 五 | — | 二 | — | 三〇 |
| 林學 | 東京 | 四五 | 四〇 | 二七 | — | 一三 | — | 四〇 | 四〇 | — | 五 | — | — | — | 四五 |
| | 京都 | 二五 | 二〇 | 一五 △一 | 四 | 四 △二 | 三 | 二六 △三 | 一三 | 二 | 五 | 五 | — | — | 二五 |
| | 九州 | 一五 | 二四 | 三 | 七 | 四 | 五 | 一九 | 三 | 五 | 四 | 二 | — | 一 | 一五 |
| 獸醫學 | 東京 | 二五 | 二六 | 一七 | — | 九 | — | 二六 | 一七 | — | 九 | — | — | — | 二六 |
| 水產學 | 東京 | 一〇 | 九 | 七 | — | 二 | — | 九 | 八 | — | 二 | — | — | — | 一〇 |
| 農林化學 | 京都 | 二五 | 二四 | 一五 | 四 | 四 | 四 | 二七 | 一二 | 四 | 九 | — | — | 二 | 二七 |
| 農林工學 | 京都 | 一〇 | 九 | 七 | 二 | 二 | 二 | 一三 | 五 | — | 三 | — | 一 | — | 九 |
| 農林經濟學 | 京都 | 二五 | 二八 | 一〇 △一 | 三 | 四 △三 | 五 | 二二 △三 | 一二 | — | 六 | 六 | — | 一 | 二五 |
| 農林生物學 | 京都 | 一〇 | 二〇 | 二 | 二 | 二 | 二 | 八 | 八 | — | 二 | — | — | — | 一〇 |
| 經濟學部 | 東京 | 三五〇 | 六九六 | 五二〇 | — | 一七六 | — | 六九六 | 二六五 | — | 一〇四 | — | 三五 | — | 四〇四 |
| | 京都 | 二五〇 | 一五三 | 二二八 | — | 六二 | — | 二九〇 | 二一六 | — | 三七 | — | 二二 | — | 二七五 |
| | 計 | 六〇〇 | 八四九 | 七四八 | — | 二三八 | — | 九八六 | 四八一 | — | 一四一 | — | 五七 | — | 六七九 |
| 經濟學 | 東京 | 二〇〇 | 三九八 | 二九六 | — | 一〇二 | — | 三九八 | 一五一 | — | 六〇 | — | 三二 | — | 二四三 |
| | 京都 | 二五〇 | 一五三 | 二二八 | — | 六二 | — | 二九〇 | 二一六 | — | 三七 | — | 二二 | — | 二七五 |
| 商業學 | 東京 | 一五〇 | 二九八 | 二二四 | — | 七四 | — | 二九八 | 一一四 | — | 四四 | — | 三 | — | 一六一 |
| 商學 | 東京商 | 三〇〇 | 一七二 | 三〇八 | — | 六二 | — | 三七〇 | 一一〇 | — | — | — | — | 一九八 | 三〇八 |
| | 神戶商 | 二〇〇 | 三一四 | 二五五 | — | 五九 | — | 三一四 | 四四 | — | 五 | — | — | 一五一 | 二〇〇 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 農學 | 京都 | 二五 | 二三 | 一五 | 五 | 五 | 三 | 二八 | 二〇 | — | 五 | — | — | 一 | 二六 |
| | 九州 | 四〇 | 五九 | 一三 | 五 | 八 | 一九 | 四五 | 一一 | 五 | 八 | 一一 | — | 五 | 四〇 |
| 同 農業土木工學專攻 | 東京 | 一五 | 二七 | 一六 | — | 一一 | — | 二七 | 九 | — | 五 | — | 一 | — | 一五 |
| 農藝化學 | 東京 | 五〇 | 五四 | 三八 | — | 一四 | — | 五二 | 三八 | — | 一四 | — | — | — | 五二 |
| | 九州 | 四〇 | 七五 | 一二 | 一三 | 九 | 一二 | 四六 | 一二 | 六 | 九 | 七 | — | 六 | 四〇 |
| 農業經濟學 | 東京 | 三〇 | 二六 | 一九 | — | 六 | — | 二五 | 二三 | — | 五 | — | 二 | — | 三〇 |
| 林學 | 東京 | 四五 | 四〇 | 二七 | — | 一三 | — | 四〇 | 四〇 | — | 五 | — | — | — | 四五 |
| | 京都 | 二五 | 二〇 | 一五 | 四 | 四 | 三 | 二六 | 一三 | 二 | 五 | 五 | — | — | 二五 |
| | 九州 | 一五 | 二四 | 三(△一) | 七 | 四(△二) | 五 | 一九(△三) | 三 | 五 | 四 | 二 | — | 一 | 一五 |
| 獸醫學 | 東京 | 二五 | 二六 | 一七 | — | 九 | — | 二六 | 一七 | — | 九 | — | — | — | 二六 |
| 水產學 | 東京 | 一〇 | 九 | 七 | — | 二 | — | 九 | 八 | — | 二 | — | — | — | 一〇 |
| 農林化學 | 京都 | 二五 | 二四 | 一五 | 四 | 四 | 四 | 二七 | 一二 | 四 | 九 | — | — | 二 | 二七 |
| 農林工學 | 京都 | 一〇 | 九 | 七 | 二 | 二 | 二 | 一三 | 五 | — | 三 | — | 一 | — | 九 |
| 農林經濟學 | 京都 | 二五 | 二八 | 一〇 | 三 | 四 | 五 | 二二 | 一二 | — | 六 | 六 | — | 一 | 二五 |
| 農林生物學 | 京都 | 一〇 | 二〇 | 二(△〇) | 二 | 二(△三) | 二 | 八(△三) | 八 | — | 二 | — | — | — | 一〇 |
| 經濟學部 | 東京 | 三五〇 | 六九六 | 五二〇 | — | 一七六 | — | 六九六 | 二六五 | — | 一〇四 | — | 三五 | — | 四〇四 |
| | 京都 | 二五〇 | 一五三 | 二二八 | — | 六二 | — | 二九〇 | 二一六 | — | 三七 | — | 二二 | — | 二七五 |
| | 計 | 六〇〇 | 八四九 | 七四八 | — | 二三八 | — | 九八六 | 四八一 | — | 一四一 | — | 五七 | — | 六七九 |
| 經濟學 | 東京 | 二〇〇 | 三九八 | 二九六 | — | 一〇二 | — | 三九八 | 一五一 | — | 六〇 | — | 三二 | — | 二四三 |
| | 京都 | 二五〇 | 一五三 | 二二八 | — | 六二 | — | 二九〇 | 二一六 | — | 三七 | — | 二二 | — | 二七五 |
| 商業學 | 東京 | 一五〇 | 二九八 | 二二四 | — | 七四 | — | 二九八 | 一一四 | — | 四四 | — | 三 | — | 一六一 |
| 商學 | 東京商 | 三〇〇 | 一七二 | 三〇八 | — | 六二 | — | 三七〇 | 一一〇 | — | — | — | — | 一九八 | 三〇八 |
| | 神戸商 | 二〇〇 | 三一四 | 二五五 | — | 五九 | — | 三一四 | 四四 | — | 五 | — | — | 一五一 | 二〇〇 |
| 法文學部 | 九州 | 三〇〇 | 四七六 | 三八 | 一八五 | 二五 | 二二八 | 四七六 | 三八 | 七三 | — | 三一 | — | 一六六 | 三〇八 |
| | 東北 | 三〇〇 | 三一三 | 三八(△六) | 一六九 | 一一(△四) | 九五 | 三一三 | 三八 | 一〇一 | 一一 | 六三 | 一一 | 二四 | 二四八 |
| | 計 | 六〇〇 | 七八九 | 七六(△六) | 三五四 | 三六(△四) | 三二三 | 七八九 | 七六 | 一七四 | 一一 | 九四 | 一一 | 一九〇 | 五五六 |
| 總計 | 東京 | 二、三〇〇 | 四、一七三 | 三、九二九 | — | 一、二九六 | — | 四、二二五 | 一、五八〇 | — | 六五三 | — | 七五 | 二 | 三、三一〇 |
| | 京都 | 一、四三五 | 二、六一七 | 二、四一九 | 一三二 | 四七四 | 四一 | 三、〇六六 | 一、一九九 | 七八 | 三〇五 | 二九 | 三四 | 一六 | 二、六六一 |
| | 九州 | 六二五 | 一、〇二七 | 三四三(△三) | 二一〇(△三) | 一八九 | 二六四 | 一、〇〇六(△三五) | 二一九(△三) | 八九 | 九三(△六) | 五一 | — | 一七八 | 六三〇(△九) |
| | 東北 | 五五五 | 七一六 | 二五六 | 一八四 | 一七〇 | 一〇六 | 七一六 | 一七六 | 一〇七 | 一一三 | 六四 | 一一 | 三二 | 五〇三 |
| | 新潟 | 八〇 | 一〇八 | 六七(△六) | — | 四一 | — | 一〇八(△一〇) | 四八 | — | 三三 | — | — | — | 八一 |
| | 岡山 | 八〇 | 一三九 | 六三 | — | 七六 | — | 一三九 | 四一 | — | 四二 | — | — | — | 八三 |
| | 千葉 | 八〇 | 一六五 | 七七 | — | 七八 | — | 一五五 | 三四 | — | 四八 | — | — | — | 八二 |
| | 金澤 | 八〇 | 一四六 | 八一 | — | 六五 | — | 一四六 | 三九 | — | 四一 | — | — | — | 八〇 |
| | 長崎 | 八〇 | 一一六 | 五八 | — | 五八 | — | 一一六 | 三六 | — | 四四 | — | — | — | 八〇 |
| | 熊本 | 八〇 | 一二〇 | 七〇 | — | 六〇 | — | 一三〇 | 三八 | — | 四二 | — | — | — | 八〇 |
| | 東文理 | 一〇〇 | 一 | 一一八 | — | 八四 | — | 二〇二 | 一 | — | 三 | — | 二 | 九三 | 九九 |
| | 廣文理 | 一〇〇 | 四 | 四〇 | 三〇 | 三七 | 八四 | 一九一 | 八 | — | 五 | 二 | 四 | 八五 | 一〇四 |
| | 東工業 | 一五〇 | 二六九 | 六三 | — | 二八 | — | 九一 | 三九 | — | 二一 | — | — | 八二 | 一四二 |
| | 大工業 | 一二九 | 二六四 | 一三三 | — | 一三一 | — | 二六四 | 四八 | — | 四四 | — | — | 三三 | 一二五 |
| | 東京商 | 三〇〇 | 一七二 | 三〇八 | — | 六二 | — | 三七〇 | 一一〇 | — | — | — | — | 一九八 | 三〇八 |
| | 神戸商 | 二〇〇 | 三一四 | 二五五 | — | 五九 | — | 三一四 | 四四 | — | 五 | — | — | 一五一 | 二〇〇 |
| | 計 | 六、二九四 | 九、三五一 | 六、二八〇 | 五五六 | 二、九〇八 | 四九五 | 一〇、三三九 | 三、六〇〇 | 二七四 | 一、四九三 | 一四六 | 一二六 | 八七〇 | 六、五七八 |

備考
一、出願者合計中△印アルモノハ文科ヨリ理科ヘ又ハ理科ヨリ文科ヘ轉科セル者ニシテ內數ナリ。
二、入學志望者トハ毎年十一月末日文部省調查ノモノヲ言フ。
三、入學者中本年度以前卒業欄ニ空欄アルハ、文部省ニ於テ調查ナキモノナリ、便宜上本年卒業者欄中ヘ組入レタリ、尙入學者、出願者共ニ概數ハ合計ノ欄ニツイテ承知アリタシ。
四、東京帝國大學文學部ニ於テハ收容豫定數ハ全學科ニテ四〇〇名ニテ學科別收容豫定數ハ設ケズ。

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 金澤 | 八〇 | 一四六 | 八一 | — | 六五 | — | 一四六 | 三九 | — | 四一 | — | — | — | 八〇 |
| 長崎 | 八〇 | 一一六 | 五八 | — | 五八 | — | 一一六 | 三六 | — | 四四 | — | — | — | 八〇 |
| 熊本 | 八〇 | 一二〇 | 七〇 | — | 六〇 | — | 一三〇 | 三八 | — | 四二 | — | — | — | 八〇 |
| 東文理 | 一〇〇 | 一 | 一一八 | — | 八四 | — | 二〇二 | 一 | — | 三 | — | 二 | 九三 | 九九 |
| 廣文理 | 一〇〇 | 四 | 四〇 | 三〇 | 三七 | 八四 | 一九一 | 八 | — | 五 | 二 | 四 | 八五 | 一〇四 |
| 東工業 | 一五〇 | 二六九 | 六三 | — | 二八 | — | 九一 | 三九 | — | 二一 | — | — | 八二 | 一四二 |
| 大工業 | 一二九 | 二六四 | 一三三 | — | 一三一 | — | 二六四 | 四八 | — | 四四 | — | — | 三三 | 一二五 |
| 東京商 | 三〇〇 | 一七二 | 三〇八 | — | 六二 | — | 三七〇 | 一一〇 | — | — | — | — | 一九八 | 三〇八 |
| 神戸商 | 二〇〇 | 三一四 | 二五五 | — | 五九 | — | 三一四 | 四四 | — | 五 | — | — | 一五一 | 二〇〇 |
| 計 | 六、二九四 | 九、三五一 | 六、二八〇 | 五五六 | 二、九〇八 | 四九五 | 一〇、二三九 | 三、六六〇 | 二七四 | 一、四九二 | 一四六 | 一二六 | 八七〇 | 六、五七八 |

備考

一、出願者合計中△印アルモノハ文科ヨリ理科ヘ又ハ理科ヨリ文科ヘ轉科セル者ニシテ內數ナリ。

二、入學志望者トハ每年十一月末日文部省調査ノモノチ書フ。

三、入學者中本年度以前卒業欄ニ空欄アルハ、文部省ニ於テ調査ナキモノナリ、便宜上本年卒業者欄中ヘ組入レタリ、
尙入學者、出願者共ニ概數ハ合計ノ欄ニツイテ承知アリタシ。

四、東京帝國大學文學部ニ於テハ收容豫定數ハ全學科ニテ四〇〇名ニテ學科別收容豫定數ハ設ケズ。

【附錄】

帝國大學各學部入學試驗問題集

【昭和三年——昭和八年】

# 昭和三年度

## ◎東京帝國大學法學部

### 英文和譯

1. The problem why certain men and women come to eminence, and why others, with apparently as much ability, remain forever in obscurity, is an interesting one to solve. Most persons desire fame; most persons desire wealth; but, for one reason or another, thousands fail to achieve what they desire. They lack either singleness of aim or adequate perseverance, or determined will, or sound judgment, or, instead of mastering circumstances, they permit circumstances to master them.

It is so easy to be turned aside in life by trivial matters; to be interested in our neighbor's wedding, or our neighbor's profits and losses. Those who oversee the affairs of others rarely oversee their own. Men become very busy over clubs and pastimes; women, over social gatherings and appearance, and die with little accomplished.

2. Many travellers have said that the learned Hindu, even when he acknowledges our power and makes use of our railways, yet is so far from regarding us with reverence that he very sincerely despises us. This is only natural. We are not cleverer than the Hindu; our minds are not richer or larger than his. We cannot astonish him, as we astonish the barbarian, by putting before him ideas that he never dreamed of. He can match from his poetry our sublimest thoughts; even our science perhaps has few conceptions that are altogether novel to him. Our boast is not that we have more ideas or more brilliant ideas, but that our ideas are better tested and sounder. The greatness of modern, as compared with medieval or ancient, civilisation is that it possesses a larger stock of demonstrated truth, and therefore infinitely more of practical power. But the poetical or mystic philosopher is by no means disposed to regard demonstrated truth with reverence; he is rather apt to call it shallow, and to sneer at its

practical triumphs, while he revels for his part in reverie and the luxury of unbounded speculation.

### 和文英譯

3. 我國には古代中世を通じて我國家を表徵すべき國旗は法制上定まつて居なかつた。船には日本丸と名づけられたものがあつたが，旗には日本旗と稱せられたものはなかつた。現在の我國旗たる日章旗が制定されたのは明治維新前後である。英國聯合旗の千八百一年，米國星條旗の千八百拾八年，又佛國三色旗の大革命頃に出來たのに比べると，我國旗は遙かに後れ，僅に獨逸國旗が千八百六拾七年に制定されたのと相伯仲する。

### 獨文和譯

1. Die verbreitete Redensart „Wissen ist Macht" gilt durchaus nicht ohne Weiteres, sondern es kommt darauf an, wer der Wissende ist. Vom Wissen, mehr noch als vom Golde, könnte man sagen, dass es an und für sich gar nichts ist, rein gar nichts, und ebenso geeignet, dem Menschen zu schaden, ihn ganz und gar zu Grunde zu richten, wie ihn zu erheben und zu veredeln. Der unwissende chinesische Bauer ist einer der leistungsfähigsten und glücklichsten Menschen der Erde, der gelehrte Chinese ist eine Pest, er ist der Krebsschaden seines Volkes; darum hatte jener bewunderungswürdige Mann, Lâo-tze tausendmal Recht zu schreiben: „Ach, könnten wir (d. h. „wir", die Chinesen) nur das Vielwissen aufgeben und die Gelehrsamkeit abschaffen! unserem Volke ginge es hundertmal besser!"

2. Die Betätigung der Menschheit besteht in Arbeit und Genuss. Arbeit ist die zielbewusste Tätigkeit, welche eine Anspannung der Kräfte aufweist, um gegenüber den dem Individuum entgegentretenden Kulturhemmnissen zum Ziele zu gelangen; im Gegensatz zu dem Genuss, in welchem der Mensch die ihm angenehmen und seinem Wesen entsprechenden Eindrücke und Einwirkungen zu erhaschen sucht. Arbeit und Genuss müssen im Menschenleben abwechseln: der blosse Genuss stumpft ab und vertiert, und Arbeit ohne Genuss erschöpft den Menschen und lähmt seine Kraft. Dass allerdings Arbeit zum Genuss werden kann, ist eine höhere Stufe des Daseins, welche dem auf diese Weise begabten Menschen eine besondere Weihe gibt.

### 和文獨譯

3. 人間の生活に必要な條件は種々の方面に亙つて甚だ數多くあり，決して科學の發達，物質的文明の進步のみに限られて居ないことは改めて云ふに及ばぬことで，所謂精神的方面の發達も素より重要である。人間は日夜絕えず戰鬪にのみ從事して居られるものではない。其の間には無論相當の娛樂もなければならず，美術文藝の如きも人生に取つて缺くべからざるものである。

### 佛文和譯

1. Il est triste que souvent, pour être bon patriote, on soit l'ennemi du reste des hommes. L'ancien Caton, ce bon citoyen, disait toujours en opinant au Sénat: «Tel est mon avis, et qu'on ruine Carthage.» Être bon patriote, c'est souhaiter que sa ville s'enrichisse par le commerce et soit puissante par les armes. Il est clair qu'un pays ne peut gagner sans qu'un autre perde, et qu'il ne peut vaincre sans faire des malheureux.

2. Plus on a de peuples à gouverner, plus il faut de ministres pour faire par eux ce qu'on ne peut faire soi-même; et, plus on a besoin d'hommes à qui on confie l'autorité, plus on est exposé à se tromper dans de tels choix. Tel critique aujourd'hui impitoyablement les rois, qui gouvernerait demain beaucoup moins bien qu'eux, et qui ferait les mêmes fautes, avec d'autres infiniment plus grandes, si on lui confiait la même puissance.

### 和文佛譯

3. 和文獨譯ト同文。

(注意)
(1) 歐文和譯に付ては同時に國語漢文の學力をも試驗す(文體隨意)
(2) 答案には姓名を記入することなく各葉には必ず着席番號を明記すべし
(3) 答案は歐文和譯第一問，同第二問及和文歐譯を各別の紙に記載すべし
(歐文和譯，和文歐譯併せて三時間)

# ◎東京帝國大學醫學部

## 醫學科

### 外國語

(英, 獨, 佛文中任意ノ一文ヲ和譯スベシ)

#### 英文和譯

Education includes the acquisition of knowledge, of skill and of attitude. Of these the last is the most important. Thus in medical education we should keep in mind that the physician, to be effective, must be ready to assume personal responsibility and that these attitude is not developed by carrying out, under supervision, tasks assigned to the minutest detail.

#### 獨文和譯

Erst wenn wir auf Grund von Kenntnissen durch unsere Denktätigkeit zur Verknüpfung von Tatsachen und Vorgängen gelangen, entsteht etwas Wissenschaftliches. Durch unsere Denktätigkeit werden wir zu allgemeingültigen, denknotwendigen Urteilen über Tatsachen und Vorgänge geführt. Diese Urteile sind Erkenntnisse; Erkenntnisse allein bilden den Inhalt der Wissenschaft.



#### 佛文和譯

Les pionniers d'une science nouvelle s'élancent vers l'inconnu dans l'enthousiasme des premières découvertes, sans songer à coordonner leurs efforts, sans même se préoccuper des limites du domaine qu'ils ont à défricher; il en résulte que des régions entières sont à peine explorées, tandis qu'ailleurs on a empiété sur des sciences voisines.

#### 獨文飜譯

(英, 獨, 佛共通)

昔テハ人類ヲシテ他ノ動物ニ打チ勝タシメ, 文明人ヲシテ野蠻人ヲ征服シ得セシメタ其腦ト手トノ働キガ, ヤガテ却ツテ禍ヲナシテ, 人類ヲシテ滅亡ノ運命ニ向ツテ進マセテ居ル如キコトハ無イデアラウカ。

(注意) 答案ハ各問題ノ下ニ横書スベシ。

### 數學

1. $y=f(x)$ナルトキ$\frac{dy}{dx}$, $dy=\frac{dy}{dx}dx$, $\int f'(x)dx$, 及ビ$\int_a^b f'(x)dx$ノ意義ヲ述ベヨ。

2. $\lim_{x=0}\frac{\log(\tan 2x)}{\log(\tan x)}$ヲ求メヨ。

### 物理

1. 蒸汽船を漕ぐ時, 櫂先にて水を泡立たせると, 泡立たせざると, 孰れが船を進むるに有利なるか, 其の理由を說明せよ。
2. 生きたる人の眼の瞳孔の見かけの大きさを測らんとす, 如何なる方法を用うべきか。
3. 顯微鏡の原理。

### 化學

1. 加水分解 (Hydrolysis).
2. 接觸作用 (Catalysis).
3. 多糖類 (Polysaccharides).

### 生物學

次ノ語ニ簡單ナル說明ヲ附セ。

1. Parallelinduktion. Parallel Induction. (竝行感應)
2. Rheotaxis.
3. Biometrie. (生物測定學)
4. Autotomie.

## 藥學科

### 外國語

左の文を英, 佛, 獨語の一に飜譯すべし。

1. 智利硝石 (Chilisalpeter, Chili nitre, Salpêtre de Chili) は南米智利の北部に在る降雨なき荒野の土壤層を粉碎し水を以て溶出し其溶液を淸澄ならしめたる後蒸發し結晶せしめて之を製す。
2. 黃蠟 (gelbes Wachs, yellow wax, cire jaune) を採るには壓搾し, 又は遠心力器の助けによりて蜂蜜を分離したる蜂巢を熱湯中に溶融せしめて鑄型 (Gussform, mould, moule) に注入するなり。

### 化學

1. 銀イオン，鉛イオン，鐵イオン，バリウムイオンの各個に就き檢出法を記せ。
2. 炭酸ナトリウムの水溶液がアルカリ性を呈する理由を述べよ。
3. 糖類とは如何なるものぞ化學的に說明せよ。
4. (イ)サリチル酸 (ロ)アニリン (ハ)チオ硫酸ナトリウム (ニ)ヨードフォルム (ホ)水酸化ナトリウム の製法各一種を化學反應式にて示せ。

## ◎東京帝國大學工學部

### 數　學

1. 一剛體又は多くの剛體の集合あり。之に一平面上にある三力が働きて釣合の狀態にありとす。この時には此等三力の作用線が一點に會すべきことを證明せよ。三力の大さ及び方向に就いて何か關係ありや。
2. 方程式 $Ax+By+Cz+D=0$ は平面を表はすことを證明せよ。
3. $y=a^2+2a^2x+9a+3a^2+6$ の $x$ に就いての極大値を極小ならしむるには，$a$ を如何に取ればよきかを決定し，而して此曲線と $x$ 軸との二交點間の曲線の長さを求めよ。
4. $y=x+\mathrm{Cos}\,3x$, なる時 $y$, $\frac{dy}{dx}$ 及び $\int_0^x y\,dx$ の表はす圖の大體を畫け。　(二時間)

### 物　理

1. 下の各項を簡單に且つ明瞭に說明せよ。
   a. 力積 (Impulse)
   b. 角運動量 (Angular momentum)
   c. 衝撃の中心 (Centre of percussion)
   d. 體積の彈性率 (Bulk modulus)
   e. 等方物體 (Isotropic body)
      等質物體 (Homogeneous body)
   f. 流線 (Stream line)
   g. 完全氣體 (Perfect gas)
   h. エントロピー (Entropy)
   i. 分子の平均自由行路 (Mean free path)
   j. 熱電率 (Thermo-electric power)
2. 氣體の斷熱變化に於いては壓力 $p$ と體積 $v$ との關係は $pv^{\gamma}=$ 定數

にて表はさるゝことを示せ。但し $\gamma$ は定壓比熱と定積比熱との比とす。

3. 媒質中に於ける音波及光波に關する Doppler 効果を說明せよ。又媒質の變化は其等に如何なる影響を及ぼすか。
4. $9\times10^3$ 靜電單位の容量を有する蓄電器を 1·2 靜電單位の電位に充電し，それを大なる電氣抵抗を有する導線を通して斷熱的に放電したる場合導線の溫度上昇幾何か。但し導線の熱容量は 0·09 cal/degree とす。　(二時間)

### 化　學

1. 90°C に於て過酸化窒素 ($N_2O_4$) の蒸氣密度を測定せしに水素の 24.8 倍なりといふ。此の溫度に於ける $NO_2$ と $N_2O_4$ との容積比及び重量比を求めよ。
2. 水素の普通の製法五種を記せ。
3. 次の物質の分子式或は名稱を記せ。

| | |
|---|---|
| (a) Methanol | (b) Picric Acid |
| (c) Chloroform | (d) Glycerine |
| (e) Camphor | (f) $C_2H_2$ |
| (g) $COCl_2$ | (h) $CH_3C_6H_4\cdot OH$ |
| (i) $CH_3COCH_3$ | (j) $C_{12}H_{22}O_{11}$ |

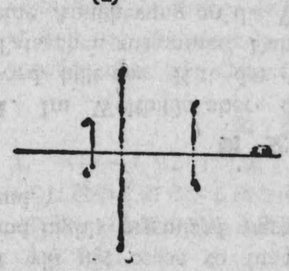
(二時間)

### 用　器　畫

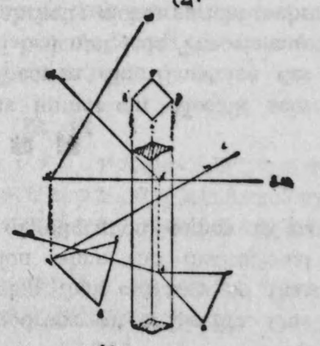
1. 別圖(1)ニ示セル三點 A. B. C. ヨリ等距離ニアル點ノ軌跡ノ水平投象及直立投象ヲ描ケ。
2. 別圖(2)ニ於テ正三角形 a. b. c. ハ am——a′m′ ヲ一稜トスル三角柱ノ水平跡ニシテ二等邊三角形 d. e. f. ハ dn——d′n′ ヲ一稜トスル三角柱ノ水平跡ナリ。又正四角形 g′ h′i′j′ ハ水平ナル正四角柱ノ直立跡ナリ。コレ等ノ三立體ノ交切線ノ水平投象及直立投象ヲ描ケ。(二時間)

(注意) 答案ハ別圖(1)及(2)ニ夫々記入スベシ。

(1)



(2)



# ◎東京帝國大學理學部

## 英文和譯

1. Laboratory is the fore-court of philosophy; and whosoever has not offered sacrifices and undergone purification there, has little chance of admission into the sanctuary.

2. A magnificient temple is a laudable monument of national taste and religion and the enthusiast who entered the dome of St. Sophia might be tempted to suppose that it was the residence, or even the workmanship of the Diety. Yet how dull is the artifice, how insignificant is the labor, if it be compared with the formation of the vilest insect that crawls upon the surface of the temple.

3. Very few persons are ever as intellectually active again as they are between the age of twenty and twenty-four. The average human being tends to a life of routine after this period, and what Plato called the "divine curiosity" frequently drops out of his life. One of our chief tasks is to develop that curiosity so that it will not cease to function when the institutional and highly organized part of education comes to an end.

## 獨文和譯

1. Im Weltbilde aber, das immer ein Mosaik sein wird, hält der Kitt der Theorien die Bausteine der Tatsachen zusammen. Dabei bedeutet jede Theorie nur eine Annäherung an die Wahrheit; nichts spricht mehr für ihren relativen Wert, als die zeitlich beschränkte Geltung, die den meisten Theorien beschieden gewesen ist. Doch auch auf Grund einer nur teilweise richtigen Theorie ist es nicht selten geglückt, neue Tatsachen zu entdecken.

2. Das Beispiel des Forschens erzieht Forscher. Das ist die Organisation der akademischen Laufbahn. In der Forschung kommen die grossen Leistungen selten von ungeschulten genialen Jünglingen. Es ist wenig Aussicht, dass der originelle und sogar der geniale Anfänger imstande sein wird, den Gipfel zu erklimmen, ohne dass der gereifte Führer ihm Stetigkeit und Ausdauer, Hingebung und Uneigennützigkeit als selbstverständliche Eigenschaften des Forschers und des Lehrers alltäglich vor Augen stellt.

## 佛文和譯

1. Nous entrâmes dans le Caire, vers une heure, le samedi. La chaleur du climat et plus encore l'éclat de la lumière nous éblouissaient; c'est à peine aujourd'hui si je commence à pouvoir regarder autour de moi hardiment et à jouir de l'étincelant coucher du soleil, s'épanouissant sur le miroir immobile du Nil, tour à tour bleu, rouge orange, jaune de soufre, puis couleur de plomb fondu sur une immense étendue; tandis qu'à l'opposé la chaîne arabique jaune d'or se détache sur un ciel d'un bleu sombre.

Au Caire, nous nous sommes trouvés en pleine vie musulmane. C'est au bazar qu'il faut le visiter. Une grande rue non pavée, où l'on circule à la fois à pied, à âne, à cheval, à chameau et dans les calèches à quatre places, au milieu d'une incroyable activité. C'est une vraie fourmilière.

2. Dans les sciences purement mathématiques, les conséquences les plus éloignées participent de la certitude du principe dont elles dérivent. Dans les applications de l'Analyse à la Physique, les conséquences ont toute la certitude des faits et des expériences. Mais dans les sciences morales, où chaque conséquence n'est déduite de ce qui la précède, que d'une manière vraisemblable; quelque probables que soient ces déductions, la chance de l'erreur croît avec leur nombre, et finit par surpasser la chance de la vérité, dans les conséquences très éloignées du principe.

## 和文歐譯

1. ニュートンが十九歳でケンブリッヂ大學へ入學したときには數學を硏究する確な考がなかつた。或日偶然Astrologyの書を一册買つてから數學に興味を起し四年間で大數學者となつた。

2. 古ギリシヤで幾何の定理を發見すると其人の住んでゐた市で多數の牛を屠つて神に捧げ市民擧つて喜んだ。

3. 大學の圖書館の建築も完成に近づいて來た。大學に附屬する圖書館であんなに大いのは世界にも稀である。
(外國語全部ニテ二時間半)

## 數　學

1. $x^3+ax^2+bx+c$ ガ極大値及ビ極小値ノ何レヲモ有セザル爲メニハ常數 $a, b, c$ ノ間ニ如何ナル關係アルコトヲ要スルカ。

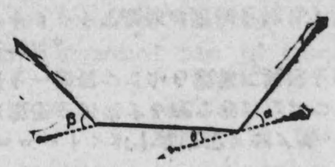
2. $\frac{x^2}{1+K}+\frac{y^2}{1-K}=1$ ハ K ニ種々ノ値ヲ與フルトキ如何ナル曲線ヲ表ハスカ，同一ノ直角座標軸ヲ用ヒテ之ヲ畫ケ。

3. 弓形ノ弧ノ長サガ一定ナルトキ其ノ面積ノ變動ヲ吟味セヨ。　(力學ト共ニ二時間半)

## 力　學

1. 一樣ナ眞直ナ棒ヲソレノ兩端ニツケタ糸デ支ヘテブラサゲテ置クトキ，糸ノ水平線ニ對スル傾キガ $\alpha$ 及ビ $\beta(\beta>\alpha)$ ナラバ，棒ノ水平ニ對スル傾キ $\theta$ ハ次ノ關係ヲナスコトヲ證明セヨ。

$$\tan\theta=\frac{1}{2}(\tan\beta-\tan\alpha).$$




2. 長サ $l$ 重サ $W$ ノ一樣ナ棒ガ上端ヲ支ヘラレテ垂レ，ソレノ下端ハ水平ナ固定シタ板ニ觸レテ居ル。今コレヲ放ツテ板ノ上ニ落ストキ，ソレノ落チツヽアル間，長サ $x(x<l)$ ダケガ板ノ上ニ横ハル時ニ，板ガ棒カラ受ケル力ハイクラカ。　(數學ト共ニ二時間半)

## 物　理　學

1. 光ノ波長ヲ測定スルーツノ方法ヲ擧ゲ，且ツ之ヲ說明セヨ。

2. 電磁感應ニ於ケル感應係數トハ何カ。之ヲ使用スル場合ヲ實例ニ就イテ示セ。

3. 高サ $h$ cm. 底邊 $a$ cm. ノ三角板ヲ，頂點ヲ下ニシ底邊ヲ水平ニシテ水ノ中ニ鉛直ニ入レ，底邊ガ水ノ表面ニ達スルマデ沈メタ時，板ノ一方ノ面ニ作用スル水ノ壓力ノ合力ノ大サ及ビ作用點ヲ定メヨ。

4. 正シイ水銀寒暖計(攝氏)ヲ，10.0° ノ目盛ノ處マデ液體ニ浸シタトコロ，水銀ノ上端ガ 93.3° ノ處ニ靜止シタ。寒暖計ノ液面以上ノ部分ハ空氣ノ温度 20.3° C. ニアルモノトシテソノ液體ノ正シイ温度ヲ計算セヨ。
但シ　水銀ノ體膨脹係數＝0.000182,
ガラスノ線膨脹係數＝0.000008.　(一時間半)

## 化　學

1. 下の物質を灼熱するとき生ずる變化を方程式にて示せ。

| | |
|---|---|
| $CO_3Na_2{\cdot}10H_2O$ | $Cl_2Mg{\cdot}6H_2O$ |
| $PO_4HNa_2$ | $PO_4H_2Na$ |
| $Cr_2O_7(NH_4)_2$ | $SO_3Ca$ |

2. 濃鹽酸及び稀鹽酸を蒸溜するとき各如何なる結果を生ずるか。

3. 下の物質につき知るところを記せ。
蓚酸，ニトロベンゼン，フルフラル(即ちフルフロル)

4. 水の電氣分解によりて水素を製し之を鋼筒 (Bomb) に充塡せむとす。20°C., 150 氣壓にて20立を得るには幾アムペア時の電氣量を要するか。(一時間半)



# ◎東京帝國大學文學部

## 英文和譯

1. Keep your view of men and things extensive and depend upon it that a mixed knowledge is not a superficial one. As far as it goes, the views that it gives are true: but he who reads deeply in one class of writers only, gets views which are almost sure to be perverted, and which are not only narrow but false. Adjust your proposed amount of reading to your time and inclination,——this is perfectly free to every man: but, whether that amount be large or small, let it be varied in its kind, and widely varied. If I have a confident opinion in any one point connected with the improvement of the human mind it is on this.

2. The whole of modern thought is steeped in science; the greatest intellectual revolution mankind has yet seen is now slowly taking place by her agency. She is teaching the world that the ultimate court of appeal is

observation and experiment, and not authority; she is teaching it to estimate the value of evidence; she is creating a firm and living faith in the existence of immutable moral and physical laws, perfect obedience to which is the highest possible aim of an intelligent being.

### 和文英譯

1. 世に偉人傑士と稱せらるゝ人は決して少くはない。けれども其人格なり思想なりが，事實に於て能く長く後世の人心に影響を及ぼす者に至つては割合に少いやうである。
2. 言語の不思議は早くから自分の頭の中にかなり深い疑問の種を植付けて居たもののやうである。六七歳の頃始めて從兄から英語の手ほどきを敎へられた時に最初に出逢つたセンテンスは，たしか「彼が手を持つ」といふのであつた。其時，先づ冠詞といふものゝ「存在理由」が甚しく不可解なものに思はれた。

### 獨文和譯

1. Wir sollten immer mehr beobachten, worin sich die Dinge, zu deren Erkenntnis wir gelangen mögen, voneinander unterscheiden, als wodurch sie einander gleichen. Das Unterscheiden ist schwerer, mühsamer als das Ähnlichfinden, und wenn man recht gut unterschieden hat, so vergleichen sich alsdann die Gegenstände von selbst.
2. Der junge Mann mit der Jagdflinte mochte etwa hundert Schritte weit gegangen sein, als er etwas keuchend hinter sich herkommen hörte und sich umdrehend, sah, dass sein alter Begleiter ihm folgte "Ich wollte Sie noch um eins gebeten und ersucht haben," rief dieser, "tun Sie, da Sie nun allein und sich selbst überlassen sind, das Schiessgewehr von sich, denn Sie treffen doch nichts und richten, weiss Gott, noch einmal ein Unglück an, wie neulich schon beinahe geschehen wäre, da Sie nach dem Hasen zielten und beinahe das Kind niedergeschossen hätten."

### 和文獨譯

3. 上野ト淺草トノ間ニ敷設サレタ地下鐵道ハ二三ヶ月此方旣ニ運轉ヲ開始シテ居ルガ，吾邦最初ノ試デアルニ拘ラズ是レト云フ大故障ノ起ラナカツタコトハ喜ベシイヿデアル。吾都市ノ交通機關ノ將來ノ發展ハ地下鐵道ニ待ツヨリ外仕方ガナイト思フト此喜ハ益々大キクナル。

### 佛文和譯

Et quand le traité d'Aix-la-Ghapelle, après quelques mois de campagne, couronnait l'Qeuvre des Pyrénées et de Westphalie, s'il n'y avait pas de cour plus brillante que celle de Louis XIV, il n'y avait pas non plus de prince mieux obéi de ses peuples, plus admiré, plus redouté ni plus envié de ses rivaux que ce souverain de vingt-neuf ans!

Nous étonnerons-nous qu'en de semblables conditions les "gens de lettres" l'aient admiré, comme les autres; et, comme les autres aussi, qu'ils se soient rangés tous ensemble à l'obéissance, ou encore, si l'on préférait une expression plus noble,-et plus juste peut-être,-qu'ils aient tous gravité, comme vers un centre naturel et inévitable d'attraction, vers ce soleil levant. Leurs intérêts les y engageaient, les intérêts mêmes de leur art, et le souci de leur dignité.

### 和文佛譯

私の猫は鼠を食はない。そんなものを食ふ氣にはならないらしい。つかまへても，それを玩具にするだけである。遊び飽きると命を助けてやる。それから，どこかへ行つて，尻尾の輪の中にすわると，罪のなささうな顔をして，空想に耽る。然し，爪傷がもとで，鼠は死んでしまう。

（歐文和譯，和文歐譯併セテ二時間）

### 國語

一、左の歌を解釋批評せよ。

幸ニ讃岐國安益郡ニ之時軍王見レ山作歌

霞立つ長き春日の暮れにけるわづきも知らずむらぎもの心を痛み鵼子鳥うら歎居れば玉襷懸けのよろしく遠つ神わが大王の行幸の山越風の獨居る吾が衣手に朝夕に還らひぬれば丈夫と思へる吾も草枕旅にしあれば思ひ遣るたづきを知らに網の浦のあま處女らが燒く鹽の念ひぞ燒くる吾が下ごころ。

反　歌

山越乃風乎時自見寢夜不落家在妹乎懸而小竹櫃

二、歷史物語を知れる限り擧げて各書に就いて簡明に解說せよ。

三、江戸時代にかける歌人俳人名五人の名を擧げよ、
四、左の語例によりて「清し」といふ話が如何に活用するかを推定し、且推定の理由を述べよ。

潮清ては野鳥が海の小百合葉に波とす風の吹かぬ日ぞなき。

古くを更にかけじと思へどもおやしく目にも清つ涙かな

年ごろの濁りの清つ心地して。

（二時間）

## 漢　文

一　孟子自范之齊見齊王之子嘆然歎曰居移氣養移體大哉居之門守者其居使之然也況居天下之廣居者乎非吉之子與孟子曰王子宮室車馬衣服多與人同而王子若彼者其居使之然也況居天下之廣居者乎非吉之子與孟子曰王子宮室車馬衣服多與人同而王子之門守者曰此非吉君也何居其廣之也我君也此無他居相似也。

右句讀、訓點、並ニ假名及ビ解釋

二　在下位不獲乎上民不可得而治矣獲乎上有道不信乎朋友不順乎親矣信乎朋友有道不順乎親不信乎朋友矣順乎親有道反諸身不誠不順乎親矣誠身有道不明乎善不誠乎身矣。

右句讀、訓點、並ニ假名及ビ大意

（二時間）



# ◎東京帝國大學農學部

## 第　一　次

### 農學科（農業土木學專修）
### 水産學科（理科出身者）

## 英文和譯

**1.** The two fundamental ideas of the Wealth of Nations are those of self-interest and natural liberty. It was by utilising and applying these doctrines to his analysis of economic institutions that Adam Smith achieved his great success. "It is not from the benevolence of the butcher, the brewer, or the baker," he tells us, "that we expect our dinner, but from their regard of their own interest. We address ourselves not to their humanity, but to their self-love, and never talk to them of our own necessities, but of their advantage."

**2.** Um von Kioto nach Tokio zu gelangen, benützte ich die Eisenbahn. Auf der langen Fahrt von Kioto nach Tokio hat man reichlich Gelegenheit, die Fruchtbarkeit und die Schönheit der Landschaft zu beobachten.

**3.** Tous les hommes possèdent une structure organique à peu près identique; les différences qui existent sous ce rapport entre les diverses races sont si petites qu'en général les naturalistes ne voient dans l'humanité qu'une scule espèce-bien que quelques savants préfèrent y voir un genre composé d'un petit nombre d'espèces.

（注意）　英獨又ハ英佛ノ內ノ一組ヲ選バシム。

## 數　學

**1.** 二ツノ圓ノ交點ヲ通ル直線ノ方程式ヲ求メヨ。

**2.** $\frac{1}{\sqrt{1+x}}$ ヲ $x$ ノ冪級數ニ展開セヨ。（但シ $|x|<1$ ナリ）

**3.** $xe^{-x}$ ノ極大又ハ極小値ヲ求メヨ。

**4.** Parabola $y^2=4ax$ ノ頂點ニ於ケル曲率半徑ヲ求メヨ。

**5.** 楕圓 $\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}=1$ ノ面積ハ $\pi ab$ ナルコトヲ證明セヨ。

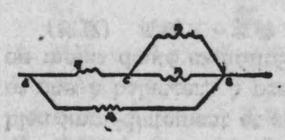
（二時間）

## 物　理

**1.** 三十度ノ傾斜ヲナス斜面ニ沿ヒテ一物體ヲ引キ上ゲ得ル力ヲ以テ六十度ノ傾斜ヲナス斜面ニ沿ヒテ物體ノ落ツルヲ防グニ要ストキハ其ノ物體ノ重サヲ前ノ二倍ニナシ得ト云フ。斜面ノ摩擦係數ヲ求ム。

**2.** 重量 5000 瓲ノ大砲ヨリ 20 瓲ノ彈丸ヲ每秒 450 米ノ初速ヲ以テ發射スルトキ大砲ノ反撥サルル速度ヲ求ム。

**3.** 圖ノ如キ導電體ニ於テ CB 間ノ抵抗ヲ $R_1$, ACB ノ抵抗ヲ $R_2$ トスルトキ AB 間ノ合成抵抗 R ヲ求ム。
但シ $r_1, r_2, r_3, r_4$ ハ夫々各導電體ノ抵抗ニシテ次ノ値ヲ有ス。




$r_1=125$ オーム
$r_2=120$ オーム
$r_3=200$ オーム
$r_4=50$ オーム

（二時間）

化　學

1. 水の硬度とは何ぞや。
2. 自然界に於ける窒素の循環に就て述べよ。
3. 左の物質の化學構造式を示せ。
（イ）アセチレン　（ロ）グリセリン　（ハ）尿素
（ニ）枸櫞酸　（ホ）ベンゾアルデハイド（二時間）

## 農業經濟學科

（文科出身者）

### 歐文和譯

1. It is obviously impossible for a community to become a center of industry and commerce without numerous means of communication with the outside world, and metropolitan cities must have not only facilities for the importation of food products and raw materials and the exportation of manufactured articles, but various methods of transpoatation within the city itself.

2. Das Suchen nach den Regelmässigkeiten, welche in der Vielheit der Erscheinungen hervortreten, oder



das Suchen nach den leitenden Ideen, die in der Mannigfaltigkeit der Tatsachen oder Dinge zur Erscheinung gelangen, bildet den Anfang der Wissenschaft.

3. Le plus haut degré de perfection morale qu'un homme puisse atteindre, nous dit-on, consiste à faire le bien immédiatement et spontanément, sans y réflechir, et non à balancer, à peser, à n'agir qu'après avoir plus ou moins douté et hésité.

（注意）英獨又ハ英佛ノ內一組ヲ選バシム。

### 經濟學

1. 價格決定の理論を問よ。
2. 左の二問に答へよ。
（イ）收穫遞減の法則（土地報酬漸減の法則）を說明せよ。
（ロ）本邦財貨の輸出入總額並に主要品目各々三種を擧げよ。（二時間）

## 第二次

## 農學科・農藝化學科・獸醫學科

（理科出身者）

### 英文和譯

1. Opportunities, as Ruskin said, are sensitive things which if you slight them at their first visit are not likely to return.

2. If the head of a department has high ideals, and shows by his enthusiasm for his subject, and by his example, that knowledge is worth gaining for its own sake and not merely for the sake of a degree, or for pecuniary personal gain, then that kind of influence, if it pervades the department as a whole, is good influence.

### 獨文和譯

1. Die Pflanze besteht aus einem oder vielen, mikroskopisch kleinen Kämmerchen, den Zellen, die sich durch Teilung vermehren.

2. Nun machte der Weg eine Biegung— und da blieb ich verwundert stehen. Mir war diese Stelle von früher her noch im Gedächtnis. Aber wie verändert fand ich sie.

### 佛文和譯

1. On a dit parfois que notre appréhension de la vérité n'est qu'un sentiment purement individuel et subjectif,—la vérité n'étant pour chaque homme que ce que chaque homme croit, et rien de plus.

（注意）英獨又ハ英佛ノ內一組ヲ選バシム。

### 數　學

1. 曲線 $y^2(x+a)=x^3$ ノ漸近線ヲ求メヨ。
2. 曲線 $y=e^{-ax}-e^{-bx}$ ニ彎曲點 (point of inflexion) アリヤ若シアリトスレバ其坐標ヲ求メヨ。
3. 曲線 $x^3-3axy+y^3=0$ ニ二重點アリヤ。
4. $\int \frac{1}{x(x^2+1)^2}dx$ ヲ求メヨ。
5. $\int_{-1}^{+2} \frac{dx}{x^2}$ ヲ求メヨ。（二時間）

## 化學

1. 錯鹽トハ何ゾヤ。
2. 脂油トハ何ゾヤ。
3. 次ノ化合物ノ製法各一種ヲ化學反應式ニテ示セ。
   - (イ) フオルムアルデハイド
   - (ロ) ニトロベンジン
   - (ハ) 漂白粉
   - (ニ) 炭酸曹達
   - (ホ) 明礬
4. 次ノ化合物ノ化學構造式ヲ記セ。
   - (イ) アクロレーン
   - (ロ) グルタミン酸
   - (ハ) サリチル酸
   - (ニ) ナフタリン
   - (ホ) 次亞硫酸曹達
   - (ヘ) 黄血鹽
   - (ト) 燐酸一石灰



# ◎東京帝國大學經濟學部

## 英文和譯（甲）

1. Whatever theory we adopt respecting the foundation of the social union, and under whatever political institutions we live, there is a circle around every individual human being which no government, be it that of one, of a few, or of the many, ought to be permitted to overstep: there is a part of the life of every person who has come to years of discretion, within which the individuality of that person ought to reign uncontrolled either by any other individual or by the public collectively. That there is, or ought to be, some space in human existence thus entrenched around, and sacred from authoritative intrusion, no one who professes the smallest regard to human freedom or dignity will call in question. （百點）

2. By the beginning of the sixteenth century the middle ages had come to an end in almost every line of civilization. Politically, economically, and intellectually the new forces and the new methods had possession of the field. The old were not yet beaten at every point. On many matters of det il much fighting had yet to be done. In some places, perhaps, the old succeeded in maintaining itself, or even in recovering ground. But on the main issues, everywhere, the victory had been won—with one most important exception. The church was unchanged. It had remained unaffected by the new forces which had transformed everything else. It was still thoroughly medieval. In government, in doctrine, and in life it still placed the greatest emphasis upon those additions which the peculiar conditions of the middle ages had built upon the foundation of the primitive Christianity, and it was determined to remain unchanged. （百點）

3. In respect to the House of Commons, as in respect to t e whole Parliamentary Constitution, Conservatism should be guided by the saying, "I would not exclude alteration neither; but even when I changed, it should be to preserve." So ancient and so splendid a fabric must be reverently touched even by restorers' hands, and it would ill become those who, under the protection of the Constitution, have long enjoyed liberty and far pursued civilisation, to spoil that to which they owe so much by careless, impatient or even unnecessary change. （百點）

## 英文和譯（乙）

1. The growth of demand is in fact gradual. People take some time to learn the uses of a thing which they had regarded as beyond their means. When the price comes within their reach, the more alert may begin to use it, and others in their own class may gradually follow. But there may be hindrances in the way: the thing itself may be of little service without subsidiary appliances that are not yet provided for general use. Thus a fall in the price of gas cannot produce its full effects on consumption till people have had time to experiment with gas-engines and gas-cooking stoves for an unaccustomed uses; and perhaps not even till a gradually increasing demand has improved and standardized, and thus cheapend the gas-engines and stoves:

and this growing familiarity may of course be checked by a further development of, say, electrical appliances. Again, a fall in the fares charged on a tram line or suburban railway will not have exhausted its effect on increasing the traffic, till new houses have been built near one end to accommodate people whose work lies near the other end. (百點)

**2.** After a devastating war it was futile to expect restoration as long as the nations were obsessed by feelings of racial and political hatred, but in the new atmosphere of goodwill complete recovery should become possible.

The change has come not a moment too soon. The war itself threw the business of the whole world into confusion, and the policies pursued since the war have greatly increased the disorganisation.

It is indeed difficult to realise that so much injury can have been caused to the wellbeing of the nations in so short a period, and it is abundantly evident that this injury cannot be repaired unless the nations are animated by feelings of goodwill one towards the other. Only by the most whole-hearted and loyal co-operation will it be possible to place the world in a condition of soundness and solvency, again upon the highway which leads to an ever increasing measure of prosperity. (百點)

**3.** Each generation takes a special pleasure in removing the household gods of its parents from their pedestals, and consigning them to the cupboard. The prophet or pioneer, after being at first declared to be unintelligible or absurd, has a brief spell of popularity, after which he is said to be conventional, and then antiquated. We may find more than one reason for this. A movement has more to fear from its disciples than from its critics. The great man is linked to his age by his weakest side; and his epigoni, who are not great men, caricature his message and make it ridiculous. Besides, every movement is a reaction, and generates counter-reactions. The pendulum swings backwards and forwards. Every institution not only carries within it the seeds of its own dissolution, but prepares the way for its most hated rival.

（注意）（甲）ハ經濟學科，（乙）ハ商業學科問題。

## 獨文和譯

**1.** Die Nationalökonomie ist die Lehre von demjenigen, was die Angehörigen eines Gemeinwesens (eines Volkes) tun, um den Gesamtbedarf dieses Gemeinwesens an materiellen und immateriellen Gütern zu decken. Ist dies einmal erkannt, so ist es überaus naheliegend, dass die leitenden Personen dieses Gemeinwesens irgendwelche Massregeln, ergreifen, welche auf die reichlichere Versorgung der Angehörigen des betreffenden Gemeinwesens (Volkes) hinwirken, d. h. also Massregeln, welche die Produktion von materiellen sowie immateriellen Gütern fördern sollen. Mit anderen Worten: es ist begreiflich, dass das nationalökonomische Denken, die nationalökonomische Wissenschaft nicht als theoretische, sondern als praktische Nationalökonomie, als Volkswirtschafts-Politik beginnt. (百點)

**2.** Wie es mit Hilfe immer intensiverer Arbeit, immer neuer Erfahrungen, Entdeckungen und Erfindungen gelungen ist, der Natur immer grössere Gütermengen abzugewinnen, wie immer neue Kraftquellen erschlossen wurden, um stets wachsende Menschenmassen zu ernähren, zu kleiden und mit Bequemlichkeiten aller Art auszustatten, ist zu bekannt, um hier des näheren ausgeführt zu werden. Wohl aber interessiert den Nationalökonomen ein anderes Problem, nämlich das, ob die Leistungsfähigkeit der menschlichen Technik so gross ist, um die Schranken der Natur zu überwinden so dass sie vermittelst der Arbeit und der erarbeiteten Arbeitsmittel schliesslich Herr über die Natur werden kann. Dann hängt es nur vom menschlichen Fleiss ab, beliebige Menschenmassen mit allen wirtschaftlichen Lebensnotwendigkeiten zu versehen. (百點)

**3.** Es hat im letzten Jahrzehnt die Uebung um sich gegriffen, dass jeder auf dem Gebiet der Nationalökonomie Arbeitende unbekümmert um das, was vor ihm geleistet wurde oder neben ihm geleistet wird, sein eigenes System errichtete. Mit dieser Uebung muss gebrochen werden. Ein dauerhaftes wissenschaftliches Gebäude ist noch nie auf die Weise zustande gekommen, dass ein Dutzend oder mehr Gelehrte ihr eigenes

System aufstellen. Nicht darauf kommt es an, dass ein dutzendmal Dasselbe und dabei doch immer etwas anderes gebaut wird, sondern, dass alle am selben Baue arbeiten. Das ist aber nicht anders möglich, als wenn jeder auf den Schultern derer steht, die vor ihm auf dem dem Gebiete gearbeitet haben und allen denjenigen die Hand reicht, die gleichzeitig an ihm arbeiten. Nur auf diese Weise wird auch auf unserem Gebiet einmal ein Bau zustande kommen, der haltbar und vollendet zugleich ist. (百點)

## 佛文和譯

1. Une foule hétérogène formée d'individus differents, réunis au hasard, n'a qu'une âme transitoire. Une foule homogène : comités politiques, groupements professionnels, congrégations, etc., possède une âme collective que la communauté des intérêts rend assez fixe. Certains meneurs violents et possédant du prestige, parviennent quelquefois à fondre tous les groupes d'une réunion, en une seule foule soumise à leur volonté. Les grandes assemblées révolutionnaires fournirent plusieurs exemples de ce Phénomène. (百點)

2. Vous connaissez les lois principales suivant lesquelles la richesse produite se répartit entre les trois facteurs de la production. Si la somme de richesse demeure stationnaire, il est évident que la part de l'un ne peut pas s'accroître sans que celle de l'autre diminue. Pour que la portion de chacun des trois facteurs pût augmenter proportionnellement, il faudrait qu'il y eût accroissement total de la richesse produite. Encore, dans ce cas, pourrait-il se faire que l'accroissement profitât inégalement aux trois éléments, que l'un demeurât stationnaire tandis que l'autre profiterait exclusivement de l'augmentation: il ne serait même pas impossible que, au milieu de l'accroissement général, l'un des facteurs diminuât tandis que l'autre serait en progression. Toutes ces combinaisons n'offrent rien que de naturel, et il n'y a pas besoin d'employer la statistique pour démontrer que ces variétés existent dans la réalité. (百點)

3. La civilisation occidentale a commencé en Egypte, parce que le Nil lui apportait une richesse pour ainsi dire toute formée, et ce pays, favorisé du ciel, a vu sa prospérité résister à toutes les vicissitudes, parce qu'elle était l'oeuvre de la nature, non de l'homme.

Les répudliques grecques ont toutes sucombé par suite des difficultés sociales qui troublent et menacent aujourd'hui les sociétés modernes. A l'origine, dans la médiocrité générale, tous les citoyens avaient quelque bien, et les législateurs se sont efforcés, par une grande variété de moyens, qu'Aristote esquisse, de maintenir l'égalité des conditions.

En présence de l'esclavage, l'homme libre ne pouvait pas ou ne voulait pas vivre de son travail, et ainsi, quand il ne lui restait plus que ses bras, il devenait un danger pour l'ordre établi. A mesure que les puissants accapara ent une plus large part de la fortune nationale, le nombre des prolétaires augmentait. De là la lutte des pauvres et des riches qui éclaté, non en même temps, mais successivement partout. (百點)

(注意)
(1) 試驗時間ハ二時間トス。
(2) 問題毎ニ答案用紙ヲ別ニシ且問題ノ番號ヲ記ヲスヘシ。
(3) 受驗者ノ番號及姓名ハ所定ノ用紙ニ記入スベシ答案用紙ニ姓名ヲ記入スヘカラス。
(4) 上記譯文ニヨリ國語ノ學力ヲモ考査ス。

# ◎京都帝國大學醫學部

## 英文和譯

**1.** Through valleys most of this long route lies, valleys always open to higher valleys, while the road ascends, valleys between mountains with rice-fields ascending their slopes by successions of diked terraces which look like enormous green flights of steps. Above them are shadowing sombre forests of cedar and pine; and above these wooded summits loom indigo shapes of farther hills overtopped by peaked silhouettes of vapory grey. The air is lukewarm and windless; and distances are gauzed by delicate mists: and in this tenderest of blue skies, this Japanase sky which always seems to me loftier than any other sky which I ever saw, there are only, day after day, some few filmy, spectral, diaphanous white wandering things: like ghosts of cloulds, riding on the wind. But sometimes, as the road ascends, the rice-fields disappier awhile: fields of barley and of indigo, and of rye and of cotton, fringe the route for a little space; and then it plunges into forest shadows. Above all else, the forests of cedar sometimes bordering the way are astonishments; never outside of the tropics did I see any growths comparable for density and perpendicularity with these. Every trunk is straight and bare as a pillar: the whole front presents the spectacle of an immeasurable massing of pallid columns towering up into a cloud of sombre foliage so dense that one can distinguish nothing overhead but branchings lost in shadow.

**2.** It is a duty to maintain one's life, and, in addition, every one has a direct inclination to do so. But on this account the often anxious care which most men take for it has no intrinsic worth, and their maxim has no moral import. They preserve their life as duty requires, but not because duty requires. On the other hand, if adversity and hopeless sorrow have completely taken away the relish for life; if the unfortunate one, strong in mind, indignant at his fate rather than desponding or dejcected, wishes for death, and yet preserves his life without loving it—not from inclinaiton or fear, but from duty—then his maxim has a moral worth.



## 獨文和譯

**1.** Sein Leben zu erhalten, ist Pflicht, und überdem hat jedermann dazu noch eine unmittelbare Neigung. Aber um deswillen hat die oft ängstliche Sorgfalt, die der grösste Teil der Menschen dafür trägt, doch keinen inneren Wert und die Maxime derselben keinen moralischen Gehalt. Sie bewahren ihr Leben zwar pflichtmässig, aber nicht aus Pflicht. Dagegen wenn Widerwärtigkeiten und hoffnungsloser Gram den Geschmack am Leben gänzlich weggenommen haben, wenn der Unglückliche, stark an Seele, über sein Schicksal mehr entrüstet als kleinmütig oder niedergeschlagen, den Tod wünscht und sein Leben doch erhält, ohne es zu lieben, nicht aus Neigung oder Furcht, sondern aus Pflicht: alsdann hat seine Maxime einen moralischen Gehalt.

**2.** Der grösste Teil dieser Reise führt durch Täler, die sich zu immer höheren Tälern öffnen, während der Weg ansteigt,—Täler zwischen Bergen von Reisfeldern, deren Hänge sich in eingefriedeten Terrassen aufbauen, die wie ungeheuere grüne Treppenstufen aussehen. Ueber ihnen liegt der Schatten dunkler Zedern-uud Fichtenwälder, und über diesen bewaldeten Gipfeln sieht man dunkelblaue ferne Hügel, überragt von zackigen nebelgrauen Silhouetten. Die Luft ist lind und windstill und die Entfernungen sind von zarten Nebeln verschleiert. Und an diesem duftigsten aller blauen Himmel, diesem japanischen Himmel, der mir immer höher erscheint als irgend ein anderer Himmel, den ich je gesehen, schweben Tag um Tag nur vereinzelte durchsichtige, weisse, wallende Gebilde umher, wie Geister von Wolken, die auf dem Winde reiten. Aber manchmal, wenn der Weg emporsteigt, verschwinden die Reisfelder für eine Weile: Gerste-, Indigo-, Roggen- und Baumwoll- felder besäumen eine Strecke weit den Weg, der dann wieder in Waldesschatten versinkt. Das allerüberraschendste aber sind die Zedernwälder, die ab und zu die Strasse begrenzen. Niemals habe ich ausserhalb der Tropen eine Baumvegetation so dichter und und kerz-

engerade aufstrebender Stämme gesehen-jeder Stamm steht kahl und aufrecht wie eine Säule. Diese Baumwand bietet das Schauspiel einer bleichen Säulenmasse, die sich zu einer Wolke dunklen Laubwerks emportürmt, von solcher Dichtheit, dass man über sich nichts sehen kann als in Schatten verlorenes Gezweig.

## 數　學

(問題ノ意味ニ關スル質問ヲ許サズ)

1. $\cos x$ ヲ $x$ ノ無限冪級數 infinite power series ニ展開セヨ。(評點30

2. 曲線 $y=\log_e \frac{Ax}{1-x}$ ($A$ハ常數) ニ就イテ

(i) 其曲彎點 point of inflection, 並ニ此點ニ於ケル曲線ノ $x$ 軸ニ對スル傾斜角ヲ求メヨ。(評點20)

(ii) 此曲線ノ形ヲ求メヨ。(評點20)

3. 圓錐ノ體積ハ其底面ト高サトノ積ノ三分ノ一ナルコトヲ證明セヨ。(評點30)

## 物　理　學

1. Doppler ノ原理ヲ記セ。(評點30)

2. 同一直線上ニテ同一方向又ハ反對セル方向ニ運動セル二個ノ完全非彈性體ガ衝突セル場合ニ失フ運動ノ「エネルギー」ヲ問フ。(各質量ヲ $m_1, m_2$, 各速サヲ $v_1, v_2$ トス)(評點30)

3. 動物體ノ或二點 A, B 間ニ E volt ナル電動力アリ, 且該二點間ノ內抵抗ハ Rohm ナリトス。今 A, B ニ抵抗ヲ r ohm ヲ有スル輸道ヲ結ビタリトス。

(i) 此際其輸道ニ於テ得ラルヽ工率ヲ求メ,

(ii) 其工率ヲシテ最大ナラシムル爲メノ r ノ値ヲ求メヨ。

(評點40)

## 化　學

1. 次ノ化學方程式ヲ完成シ, 右側ニ其生產物ヲ化學記號ヲ以テ記シ, 且ツ其名稱ヲ記ス可シ。

(1) $Zn+H_2SO_4=$

(2) $Cu+2H_2SO_4=$
(熱ス)

(3) $FeS+H_2SO_4=$

(4) $Au+H_2SO_4=$
(熱ス)

2. Tyndall 現象トハ何ゾヤ。

3. Ketoform, Enolform トハ何ゾヤ。

4. 次ノモノノ名稱ヲ記シ, 其モノガ常溫ニ於テハ氣體ナリヤ。液體ナリヤ。固體ナルヤヲ記セ。

(1) $CHJ_3$　(2) $CHCl_3$

(3) $C_2H_5 \cdot O \cdot C_2H_5$　(4) $H \cdot COH$

(5) $CH_3 \cdot CO \cdot CH_3$　(6) $CH : CH$

(7) $CH_3 \cdot COCl$　(8) $C_6H_5OH$

(9) $CH_3COO \cdot C_2H_5$　(10) $\begin{matrix} COOH \\ | \\ COOH \end{matrix}$

## 動物學及ビ植物學

1. 青漿ニ就テ知ル所ヲ記セ。

2. 單性生殖 Parthenogenesis ヲ說明セヨ。

3. 維管束系ニ現ルル各種ノ細胞ニ就テ述ベヨ。

# ◎京都帝國大學文學部

## 英文和譯

1. It had been intended to celebrate in spring the eleven hundred anniversary of the foundation of Kyôto; but the outbreak of pestilence caused postponement of the festival to the autumn, and the celebration began on the 15th of the tenth month. Little festival medals of nickel, made to be pinned to the breast, like military decorations, were for sale at half a yen each. These medals entitled the wearers to special cheap fares on all the Japanese on all the Japanese railroad and steamship lines, and to other desirable privileges, such as free entrance to wonderful palaces, gardens, and temples. (L. Hearn)

2. The long isolation of Japan from the rest of the world, so conducive to introspection, has been highly favourable to the development of Teaism (茶道). Our

home and habits, costume and cuisine,(1) porcelain, lacquer, painting … our very literature … all have been subject to its influence. No student of Japanese culture could ever ignore its presence. Our peasants have learned to arrange flowers, our meanest labourer to offer his salutation to the rocks anp waters. (K.Okakura)

(1) cuisine = style of cooking.

## 獨文和譯

1. In diesem Lichte betrachtet, ist Japan das merkwürdigste Land der Welt. Und das Wunderbarste in der ganzen Episode seiner Okzidentalisierung ist, dass das Hirn der Rasse einer solchen Erschütterung standhalten konnte. Ein solches Faktum steht in der Geschichte der Menschheit einzig da.…Was hat es zu bedeuten? Nichts Geringeres als eine Neuorganisierung eines Teils des vorhandenen Denk-apparats…und schon dies bedeutete den Tod für viele kühne junge Geister. Die Adoptierung westlicher Zivilisation war keineswegs eine so leichte Sache, wie gedankenlose Leute annahmen, und es ist offenbar, dass diese geistige Reorganisation, die mit hohen Kosten erkauft wurde, nur auf jenen Gebieten gute Resultate erzielte, in denen die eigenartige Begabung der Nation schon früher zutage getreten war.

2. Was ist überhaupt die Moral? Ein relativer Begriff, ein blankes Ding, welches eben nur deshalb stets so blank aussieht, weil es in der Welt von jeher sehr wenig gebraucht wurde.

## 佛文和譯

1. Vous croirez peut-être, mon cher ami, d'après cette description, qu'il n'y a rien de plus affreux que les campagnes romaines? Vous vous tromperiez beaucoup; elles ont une inconcevable grandeur: on est toujours prêt, en les regardant, à s'écrier avec Virgile:

Salut, terre féconde, terre de Saturne, mère des grands hommes! (Chateaubriand)

2. Le caractère du centre de la France est de ne présenter aucune des originalités provinciales, de participer à toutes et de rester, d'emprunter à chacune tout oc qui n'exclut pas les autres, de former le lien, l'intermédiafre entre toutes, au point que chacune puisse à volonté reconnaître en lui sa parenté avec tout le reste. C'est là la supériorité de la France centrale sur les provinces, de la France entière sur l'Europe. (Michelet)

3. Au contour des ravins, sur les hauteurs sauvages,
Une molle vapeur efface les chemins;
La lune tristement baigne les noirs feuillages;
L'oreille n'entend plus les murmures humains.
(Leconte de Lisle)

## 國語

かくてたえたるほど我が家はうちより參りまかづる道にしもあれば夜なか曉とうちしはぶきてうち渡るも聞かじとおもへどうちとけたるいもねられず夜長うしてねぶることなければさながらと見聞く心ちは何にかは似たる今はいかで見きかずだにありにしがなと思ふに昔すきごとせし人も今はおはせずとかなど人につきて聞えとつを聞くをものしうのみ覺ゆれば日くれはかなしうのみ覺ゆ子供あまたあらを聞くところもむげにたえぬと聞くあはれましていかばかりと思ひてとぶらふ九月ばかりの事なりけりあはれなどしげく書きて

吹く風につけてもとはむさゝがにの
通ひしみちは空にたゆとも

右解釋

## 漢文

一、今人生而有嚴父愛母之心聖人因其性之欲而爲之制焉故其制雖有以强人而乃以順其性之欲也聖人苟不爲之禮則天下蓋將有慢其父而疾其母者矣此亦可謂失其性也得性者以爲僞則失其性者乃可以爲眞乎(王安石禮論)

(注)　荀子曰人之性惡其善者僞也又曰禮義者是生於聖人之僞非故生於人之性也又曰聖人化性而起僞僞起於性而生禮義禮義生而制法度然則禮義法度者是聖人之所生也｜楊倞注僞爲也凡非天性而人作爲之者皆謂之僞王安石之論爲荀子而發

二、夫接於人無窮而使人善惡者事也推移無常而不可以拘者時也其應無方而不可以易者理也知時之變而因之見必然之理而循之則事者雖無窮而易應也雖善惡而易治也故所與由之必人之所安也所與違之必人之所厭也如此者未有不始於思然後得於己得於己故謂之德正己而治人故謂之政夫政者豈止於治文書督賦斂斷獄訟而已乎(曾鞏思政堂記)

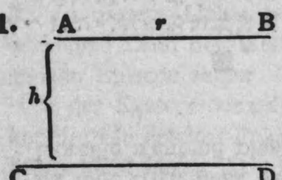
右本文ニ返點兼假名ヲ附シ別ニ解釋スベシ。

# ◎京都帝國大學理學部

## 第二次

## 物理學科

### 物理

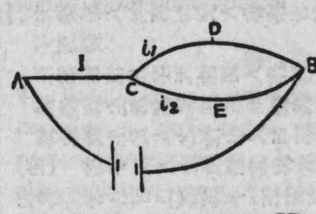
1. 

一ツノ重錘Bガ長サ r cm. ノ輕キ細キ糸ニテ水平面 CD ヨリ h cm ノ高サニアル一ツノ固定點Aニ吊下ゲラレテ居ル。但シ h ハ r ヨリ大ナリトスル。今重錘Bヲ糸デ引張ツタ狀態デ圖ノ如キ水平ノ位置ニ持チ上ゲ之ヲ少シモ初速ヲ與フルコトナク，單ニ重力ノ作用ノ下ニ落下サシタ時ニ AB ガ丁度垂直ノ位置ニ來タ時ニ糸ガ切レタトスル。然ラバ重錘ハ幾何ノ運動ノエネルギーデ水平面上何處ニ落下スルカ。Bヲ質點ト看ナシ，糸ハ少シモ延ビナイ質量ナキモノトシ，空氣ノ抵抗無視シテ計算セヨ。

2. 大氣中ニテ液體ノ水ヲ熱スルトキ，水ノ溫度ガ沸騰點ニ達スレバ最早水ノ溫度ノ上昇シナイノハ何故カ。簡單ニ之ヲ說明セヨ。

3. 稀薄ナル瓦斯體ノ光リト熱セラレタル固體ノ光リトハ如何ニ異ルカ。

4. 圖ノ如キ電路ガアル。AC, CEB, CD, DB ハ同ジ物質ノ金屬導體ニシテ，ソノ比抵抗ヲ α トスル。AC, CD, CEB ハ同ジ半徑 r ノ針金デ AC, CD ハソノ長サ各々 l ニ等シク，CEB ノ長サハ AC ノ二倍 2l ニ等シイ，DB ハ CD ト同ジ長サデアルガ，ソノ半徑ガ CD ノ二倍 2r デアルトスル。今 AB 兩端ニ V ナル一定ノ電壓ヲ與ヘテ，定常狀態ニナツタトキ，電線各部ニ於テ單位時間內ニ發生スル熱量ノ比ヲ求メヨ。但シ上ノ計算ニ於テ針金ノ抵抗ハ溫度ト共ニ變化シナイモノトセヨ。




5. 電子(Electron)，プロトン(Proton)，原子番數(atomic number.)，放射能物質(radio-active Substances.)ヨリ生ズル α 放射線，β 放射線 γ 線トハ如何ナルモノカ。



## 化學科

### 英文和譯

Unfortunately this way was not easy, for the advance from pure mathematics to physics, from a study of the nature of pure mathematical conceptions to an inquiry into the laws of falling bodies, implied a change whose nature was not clear to the men who had themselves made the advance. A conflict arose between those who thought more of the fact that knowledge, to be certain, must be capable of mathematical expression, and those who thought more of the basis of experiment and observation on which the new sciences depend, who remembered that those sciences began, when Galileo, instead of thinking in the abstract how bodies ought to fall, dropped bodies of different weights from the top of the leaning tower of Pisa observed what actually happened.

### 獨文和譯

Die instinktive unwillkürliche Kenntnis der Naturvorgänge wird wohl stets der wissenschaftlichen willkürlichen Erkenntnis, der Erforschung der Erscheinungen, vorausgehen. Erstere wird erworben durch die Beziehung der Naturvorgänge zur Befriedigung unserer Bedürfnisse. Die Erwerbung der elmentarsten Kenntnisse fällt sogar sicherlich nicht dem Individuum allein anheim, sondern wird durch die Entwicklung der Art vorbereitet.

### 化學

1. 黃血鹽ノ結晶(受驗者ニハソノ何物タルカヲ示サズ)ヲ與ヘ，ソノ諸性質ヲ觀察列記セシム。

2. 或ル化學組成不明ナル液體ヲガラスビーカーニ入レ，ブンゼン燈ニテ熱スル時，ビーカー中ニ起ル現象ヲ組織的ニ記述セヨ。

## 動物學科

### 英文和譯

In the development of this principle of artificial se-

lection Darwin started with the limited and hence easily comprehended subject, the artificial breeding of domesticated animals. Whether these be the descendants of a single species or have arisen from crosses of two or more species (authorities are not in agreement in all cases) they behave like representatives of a single species. How have the various races and subrace of pigeons, horses, cattle, dogs, etc. arisen? Darwin finds the causes of these great differences in artificial selection, practised by man for thousands of years. The method is to choose from the stock individuals showing the tendency toward the desired ideal in even the slightest degree more than their fellows, and then pairing these. By repetitions of this selection and breeding, the desired goal is slowly reached.

### 獨文和譯

Mit Recht is die Zelle auf Grund der Lebenseigenschaften, die an ihr beobachtet werden können, als ein "Elementarorganismus" (Brücke) bezeichnet worden. Sie ist auch in den Fällen, wo sie mit unseren unvollkommenen Hilfsmitteln der Beobachtung einfach zu sein scheint, kein einfaches Gebilde, welches sich etwa mit einem Kristalle vergleichen liesse, wie es von Th. Schwann versucnt wurde. Die Zelle ist vielmehr selbst noch aus vielen, ve.schiedenartigen, elementaren Teilen aufgebaut zu denken, aus Teilen welche einfacher als die Zelle, aber zusammengesetzter als das chemische Molekül sind, und welche, wie die Organe, in einem höheren Organismus beim Lebensprozess zusammenwerken. Die wahre Natur dieser elementaren Lebenseinheiten, welche sich augenblicklich noch grösstenteils unserer Kenntnis entziehen, genauer festzustellen, wird noch für lange Zeit eine Aufgabe biologischer Forschungen bleiben.

### 和文獨譯

最近二十年間ニ寄生蟲ニ就テ各方面デ色々ノ新シイ發見ガアリ，從ツテ寄生蟲學ハ非常ニ進歩シタノデアリマス。就中コレハ日本ニ於テ色々ノ新事實ノ發見ガアリマシテ，寄生蟲學ニ於テハ西洋各國ニ比ベテ劣ラヌノミナラズ，或一部分ハ却ツテ進ンデ居ルト思ハレル點ガアルノデアリマス。是ハ學界ノ光榮デアツテ，誇稱シナケレバナラヌノデアリマスガ，ソノ原因ノ一ツハ東洋各地即チ日本內地朝鮮臺灣支那等ニ寄生蟲ガ非常ニ多ク，特殊ノ病氣ノ源トナツテ居ルノガ澤山アルタメニ，必要上研究サレルコトガ多ク又研究ニ便宜ガ多カツタタメデアリマス。(演說ノ一節)

### 動物學

1. 左記ノ標本ヲ示シテソノ何ナルカヲ鑑定セシメ，且ツソノ所屬特徵等ニツキ答ヘシム。
(1) おうむかひ
(2) うみとさか
(3) おほとかげ頭骨
(4) かぶとかに
2. 染色體トハ如何ナルモノナルカヲ說明セシム。
(注意) 口頭試問

## 地質鑛物學科

### 英文和譯

The enormous folds of the Himalaya mountain system, formed essentially in the Tertiary, denote a compression of a considerable portion of the earths crust, by the reconstruction of which the outlines of Asia become very much altered. The whole of Eastern Asia from Tibet and Mongolia to Lake Baikal, and possibly even to the Bering Straits, probably took part in the compression. Recent work has shown that the processes of folding were by no means confined only to the Himalayas, but for example, Eocene beds have been folded up to an altitude of 5600 m. above sea-level in Peter the Great Mountains and great overthrusts have been produced in the Tienshan System. But even where such folding phenomena are absent, the recent elevation of undisturbed country is in just as close connection with this process of folding.

### 獨文和譯

Die riesigen, wesentlich im Terthär gebildeten Falten des Himalajagebirges bedeuten den Zusammenschub eines erheblichen Stückes der Erdrinde, asiatischen Kontinents ganz andere werden. Wahrscheinlich nahm

das ganze östliche Asien über Tibet und die Mongolei hinweg bis zum Baikalsee und vielleicht sogar bis zur Beringstrasse an dem Zusammenschub teil. Die neueren Untersuchungen haben gezeigt, dass die jungen Faltungsvorgänge keineswegs nur auf den Himalaja selbst beschränk sind, sondern z. B. noch im Gebirge Peters des Grossen eozäne Schichten bis 5600 m. Seehöhe emporgefaltet und im Tienschan System grosse Ueberschiebungen erzeugt haben. Aber auch da, wo solche Faltungserscheinungen fehlen, steht die junge Erhebung umgefalten Landes gleichfalls in enger Verbindung mit diesem Faltungsprozess.

### 物　　理

1. 彈性變形ニツイテ述ベヨ。
2. 熱力學ノ第一法則及ビ第二法則トハ何ゾヤ。
3. 放射能ノ特性ニツイテ述ベヨ。

# ◎京都帝國大學農學部

## 第　一　次

### 佛文和譯

1. On a dit avec raison, que l'homme ne pouvait pas créer et qu'il se bornait à transformer des matériaux. Il suffit de réfléchir un instant et de regarder autour de soi pour se convaincre de la justesse de cette observation.

L'industrie a pour rôle et pour but de modifier les formes, les qualités ou propriétés d' une matière première. L' outil, la machine, permettent d' accroître la puissanco de l'homme et de diminuer la somme d'efforts nécessaires pour accomplir les transformations industielles. Le rôle de ces utiles auxiliaires est du reste trop connu, leur influence heureuse a été trop souvent signalée, pour que nous ayons à les rappeier. Mais, il importe de préciser ici le champ d' action de la machine, soit dans l' indnstrie agricole, soit dans les autres industries.

2. Laissons donc faire et laissons passer. Toute intervention d'une puissance collective pour régler le conflit des intérêts individuels est à la fois arbitraire et vaine. L' Etat a bien une fonction: il doit veiller à ce que la mêlée sociale ne soit pas violente et sanglante comme celle des espéces, il doit maintenir la paix matérielle, "l' ordre public", entre les hommes. Mais cette fonction remplie, son rôle cesse. "Le devoir de l' Etat est, avant tout, une fonction de sécurité envers tout le monde. Quant aux personnes auxquelles l' Etat garantit cette sécurité, elles peuvent faire de leurs propriétés (ou pour mieux dire de leurs activités) ce que bon leur semble. L'Etat n'a pas à s'immiscer dans les combinaisons privées: c'est aux particuliers à gérer leurs affaires au mieux de leurs intérêts".

3. L'astronomie n'est pas la science morte que bien des gens se figurent. Elle se développe sans cesse, avec une rapidité et une continuité que d'autres sciences bien plus jeuee qu'elle, lui envient. Il y a quarante ou cinquante ans, on pouvait avoir des illusions sur son état d'achèvement. La mécanique céleste venait de faire un pas décisif, en portant la théorie des mouvements planétaires à un haut degré de perfection. L'explication du monde entier semblait contenue dans la loi de la gravitation universelle; du moins, qnelques-uns le pensaient, et l'écrivaient. "On aurait pu raisonner ainsi du temps de Ptolémée, dit Henri Poincaré; alors aussi on croyait tout savoir et l'on avait presque tout à apprendre." L'astronomie classique qui constitue d'ailleurs un corps de doctrine incomparablement harmonieux et logique, est en effet restreinte dans son étendue et son objet.

### 數　　學

1. $x=a\cos\phi,\ y=b\sin\phi$ ニ依リテ $\rho=\dfrac{(dx^2+dy^2)^{\frac{3}{2}}}{dxd^2y-dyd^2x}$ ヲ計算セヨ。
2. 次ノ積分ヲ求ム。
   (i) $\int\theta\sin\theta\cos\theta\,d\theta$

(ii) $\int \frac{dx}{x^2-x-6}$

**3.** 拋物線 $y^2=4dx$ ノ焦點ヨリ法線ヘ引ケル垂線ノ足ノ軌跡ハ $y^2=d(x-d)$ ナルコトヲ證明セヨ。

## 物理

**1.** Describe one form of Wheatstone's bridge, and prove the formula employed when using the bridge to measure a resistance.

**2.** In a horizontal tube there are two sections of diameters 1.0 and 1.5 feet. The velocity in the first section is 6.32 feet per second, and the pressure-head is 21.57 feet. Find the pressure-head for the second section if no energy is lost between the sections.

**3.** When a particle is moving along a circular path with a constant speed, find the magnitude of its acceleration.

# 第二次

## 英文和譯

**1.** We may say the same of improvements in education. The intelligence of the workman is a most important element in the productivenss of labour. So low, in some of the most civilized countries, is the present 1848 standard of intelligence, that there is hardly any source from which a more indefinite amount of improvement may be looked for in productive power, that by endowing with brains those who now have only hands.

**2.** Allotment gardening has its own science and its own difficulties, and every man and woman sohuld study it, particularly those who realise how profoundly important it is that England should from now onwards be more self-supporting in the matter of her home-grown food. As a matter of fact, the country has witnessed a tremendous revival of allotment gardening within the last few months, and we owe it to ourselves, no less than to our country, to produce just as many bought food substitutes as we can…rabbits, pigs, poultry, eggs, fruit, honey, and particularly vegetables.

## 獨文和譯

**1.** Es gibt Augenblicke in unserm Leben, wo wir der Natur in Pflanzen, Mineralien, Tieren, Landschaften, sowie der menschlichen Natur in Kindern, in den Sitten des Landvolkes, nicht weil sie unsern Sinnen wohltut, auch nicht, weil sie unsern Verstand oder Geschmack befriedigt, sondern bloss weil sie Natur ist, eine Art von Liebe und von rührender Achtung widmen. Jeder feinere Mensch, dem es nicht ganz und gar an Empfindung fehlt, erfährt dieses, wenn er im Freien wandelt, wenn er auf dem Lande lebt oder bei den Denkmälern der alten Zeit verweilt.

**2.** Kurz vor meiner Abreise ging ich noch einmal auf altvertrauten Wegen in die Schwazwaldberge. Auf hochgelegener Weide machte ich Halt. Hinter mir erhob sich dunkel und ernst der Wald, vor mir senkten sich schwellende grüne Wiesen hinab, auf denen wie schlanke Pyramiden hie und da die alten Tannen standen, deren unterste Zweige fast auf dem Boden ruhten. Unten dehnte sich weithin das Land, einziger Garten bis zum fernen Rheinesstrom, und zur Seite, über einem in leuchtenden Herbstesfarben strahlenden Laubwald erhob sich erhaben.

## 佛文和譯

**1.** Liberté primitive, je te retrouve enfin ! Je passe comme cet oiseau qui vole devant moi, qui se dirige au hasard, et n'est embarrassé que du choix des ombrages. Me voilà tel que le Tout-Puissant m'a créé, souverain de la nature, porté triomphant sur les eaux, tandis que les habitants des fleuves accompagnent ma course, que les peuples de l'air me chantent leurs hymnes, que les bêtes de la terre me saluent, que les forêts courbent leur cime sur mon passage.

**2.** J'estime donc que, tout compte fait, le siècle, que nous venone d'étudier avec impartialité, a droit à une très belle page dans l'histoire de la civilisation: nul ne songera, je crois, à me démentir si je dis, en manière de conclusion, qu'il n'y avait pas en jusque-là en France.

qu'il n'y avait nulle part alors en Europe, et même qu'il n'y a jamais eu depuis dans le monde, une société aussi polie, aussi spirituelle et aussi aimable que la société française du dix-huitième siècle.

(注意) 以上ノ三ケ國語中二ケ國語ヲ選擇セシム。

### 動物學

1. 動物學ノ林業的意義ヲ問フ。
2. 實物檢鏡鑑定
   (a)
   (b)

### 植物學

1. 葉の變態。
2. 次の術語を簡單に說明せよ。
   a. 花式圖 Floral diagram (Blütendiagramme)
   b. 異葉性 Heteraphylly (Hetellophyllie)
   c. 中 葉 Middle lamella (Mittellamelle)
   d. 原形質分離 Plasmolysis (Plasmolyse)
   e. 前葉體 Prothallium
3. 樹木の年輪は如何にして出來るか。
4. 次の遺傳學の主として貢獻せる植物學分科を記せ。
   a. Mendel; b. Strasburger;
   c. Pfeffer; d. Engler;
   e. 池 野。

## ◎九州帝國大學醫學部

### 外國語

1. 次ノ獨,英,佛三ケ國語ノ中任意ノ一ケ國語ヲ日本語ニ飜譯セヨ。(四十點)

(獨) Dieses Jahrhundert ist das der stehenden Riesenheere und der allgemeinen Wehrpflicht. Seit Napoleon stehen beständig Hunderttausende, zuletzt Millionen marschbereit, liegen gewaltige Flotten, die alle zehn Jahre erneuert werden, in den Häfen. Es ist ein Krieg ohne Krieg, ein Krieg des Ueberbietens mit Rüstungen und Schlagfertigkeit, ein Krieg der Zahlen, des Tempo der Technik, und die Diplomaten verhandeln nicht von Hof zu Hof, sondern von Hauptquartier zu Hauptquartier. Je länger die Entladung verzögert wird, desto ungeheuerlicher werden die Mittel, desto unerträglicher wächst die Spannung. Das ist die dynamische Form der kämpfenden Staaten in ihrem ersten Jahrhundert, aber sie ist mit der Entladung des Weltkriegs zu Ende.

(英) It may be repeated that it has ever been the ambition of the Japanese people to take rank with the Great Powers of the world, and to have a voice in the council of nations; they demand that they shall not be discriminated against because of the colour of their skin, but that they shall rather judged by their deeds. With this aim, they have made great efforts: where charges brought against them have any foundation in fact, they have endeavoured to make reforms; where they are false or due to misunderstandings they have tried to live them down, trusting to time for their vindication. They are willing to be judged by the intelligent and impartial world: a fair field and no favour is what they claim, and think they have a right to claim, from the world.

(佛) Vous aussi, vous avez, à le'gal de nos morts, des droits imprescribles à la gratitude du pays; vous aussi, vous avez contribué à hausser la patrie dans l'estime universelle. Vieux parents, qui aviez concentré dans l'amour de votre fils vos meilleures raisons de vivre, jeunes femmes, qui appuyiez votre faiblesse gracieuse au bras d'un mari que vous ne reverrez plus, adolescents, qui vous plaisiez à confier vos rêves d'avenir à un père qui ne reviendra point, tous, vous avez sacrifié à l'inexorable devoir les plus chers objets de votre affection. Vous avez supporté ces déchirements intimes, sans bruit, sans ostentation, sans amertume, non pas dans un esprit de renoncement fataliste, mais avec la volonté calme et réfléchie de payer une dette à la patrie menacée.

2. 次ノ獨,英,佛三ケ國語ノ中獨逸語及ビ任意ノ他ノ一ケ國語ヲ日本語ニ飜譯セヨ。(三十點)

(獨) Tiere und Pflanzen sind aufgebaut aus gleichartigen meist nur mit Hilfe des Mikroskops wahrnehmbaren Elementareinheiten, welche mit einem aus früherer Zeit stammenden und auf irrtümlichen Vorstellungen beruhenden Namen als Zelle bezeichnet werden.

(英) Before Darwin it was recognized that all the individuals of a species are not alike, and that more or less pronounced variability occurs, so that it was possible to distinguish races and varieties within the species, but it was believed that the variations never transcended specific bounds.

(佛) Un organisme vivant est un être nettement limité vis-à-vis du monde extérieur, ayant une individualité propre, une forme typique, constituant un ensemble formé de parties hétérogènes, à structure compliquée, à composition chimique tout à fait caractéristique.

3. 次ノ日本語ヲ獨, 英, 佛三ケ國語ノ中任意ノ一ケ國語ニ飜譯セヨ。(三十點)

(1) 國際聯盟ハ世界大戰後將來ノ平和ノ爲メニ創立サレマシタ。

(2) 私ハ九州帝國大學ニ入學シテ立派ナ御書者サンニナロウト思ヒマス。 (時間五十分)

## 物 理 學

1. 複屈折に就て述べよ。
2. 眞空管内の放電及放射物質に就て述べよ。 (五十分)



## 化 學

1. 膠質(Kolloid)トハ何ゾヤ。
2. 次ノ物質ノ化學式ヲ問フ。
   (1) チオ硫酸ソーダ (Natrium-thiosulfat)
   (2) ロダン加里 (Rhodankalium)
   (3) クロロホルム (Chloroform)
   (4) グリココール (Glykokol, Glycin)
   (5) 乳 酸 (Milchsäure)
   (6) メチルーグリオキサール (Methylglyoxal)
   (7) フタール酸 (Phthalsäure)
   (8) グリセリン (Glycerin)
   (9) ピロール (Pyrrol)
   (10) キシロール (Xylol) (五十分)

## 動 植 物 學

1. 「なめくじうを」Branchiostoma (Amphioxus) ノ形態的特徴及ビ動物學上ノ地位。
2. 葉ノ組織的構造ノ概要。
3. 適例ヲ擧ゲテ次ノ學術語ヲ說明セヨ。

| | |
|---|---|
| 動物 | 器官ノ相似及ビ相同 Analogie und Homologie |
| | 纖毛細胞 Flimmerzellen |
| | 單爲(處女)生殖 Parthenogenesis |
| | 「ホルモーン」 Hormone |
| | 「ヘモグロビーン」 Haemoglobin |
| 植物 | 向日性ト背日性 Positiver und negativer Heliotropismus |
| | 地下莖(根莖) Rhizom |
| | 花 粉 Pollen |

(注意) 答案ハ簡明ナルヲ要ス。時間ハ五十分

# ◎東北帝國大學醫學部

## 英 文 和 譯

1. My eyes were naturally weak, and I was subject to frequent head-ackes; which, however, could not chill the ardor of my curiosity, or retard the progress of my improvement.

2. The structures and functions of our men al life present the greatest difficulties to scientific investigation, greater even than those presented by the phenomena, in many respects similar, of the bodily life of the higher organisms.

3. Benevolence is the virtuous habit which leads a man to seek the good of others, even to the postponement of his private or particular interests, and to find his own in other's good.

4. We are apt to think of imagination as if it belonged chiefly to artists and poets, forgetting that each of us is in his special sphere a creator and possessed of the poetic gift of imagination.

## 獨 文 和 譯

1. Meine Augen waren von Natur schwach und ich war häufigem Kopfschmerze unterworfen, was jedoch das Feuer meiner Wissbegier nicht abkühlen, oder den Fortschritt meiner Ausbildung nicht verzögern konnte.

2. Die Bildungen und Vorgänge unseres Seelenlebens bieten der wissenschaftlichen Erkenntnis die grössten

Schwierigkeiten, grössere noch als die ihnen in mancher Hinsicht verwandten körperlichen Lebenserscheinungen der höheren Organismen.

3. Dass Ernst und Ehrfurcht keine Gedrücktheit zu erzeugen brauchen, vielmehr mit innerer Frische und Fröhlichkeit ganz wohl vereinbar sind, das zeigt zum Beispiel die Gestalt eines Luther.

4. Die Mutter Goethes, Katharina Elisabeth, die Frau "Aja," wie sie im Freundeskreise ihres Sohnes hiess, war ebenso sehr Poesie wie ihr Eheherr Prosa.

## 物　　理

1. 質量1「キログラム」の球を100米の高さより落したるとき：
(A) 球は地面より跳ね反りたる後幾何の高さに達するか？
(B) 球が地面との衝突により失ふ運動の「エネルギー」が全部熱に變るものとすれば此熱にて零度の氷幾瓦をとかし得るか？
但し球の初速度は零，$g$ は毎秒秒980糎，球と地面との戻りの係數(衝突後の速度と衝突前の速度との比)は0.6. 熱の仕事當量は1「カロリー」につき $4.2\times10^{7}$「エルグ」，氷の融解熱は80「カロリー」なりとし空氣の抵抗は少なるものと考へこれを省略す。
2. 正切電流計の原理を問ふ。
3. 光の屈折を波動說によりて說明せよ。

## 化　　學

1. 左の術語を說明せよ。
(イ) 分配係數(Partition Coefficient, Teilungskoeffizient)
(ロ) 觸　媒　(Catalyser, Katalysator)
(ハ) 自觸作用(Autocatalysis, Autokatalyse)
2. 左記の場合に起る反應を詳細に述べよ。
(イ) 明礬の水溶液に苛性加里の水溶液を加ふる時
(ロ) 硝酸銀の水溶液にシヤン化加里の水溶液を加ふる時
(ハ) 塩化第二水銀の水溶液に塩化第一錫の水溶液を加ふる時
3. 次に併記せる化合物の差異を簡單に述べよ。
(イ) 脂肪と肪脂酸　(Fats and Fatty Acids, Fette und Fettsäuren)
(ロ) アルデヒドとケント　(Aldehydes and Ketones, Aldehyde und Ketone)
(ハ) アルコールとフエノル　(Alcohols and Phenols, Alkohole und Phnole)
(ニ) アミノ酸と酸アミド(Amino-acids and Acidamides Aminosäuren und Säureamide)
(化學ト併セテ三時間)。

## 動　物　學

1. 動物ハ如何ニシテ繁殖スルカ。
2. 節足動物ノ複眼ノ構造ヲ示シ併セテ其ノ機能ニツキテ述ベヨ。
3. 寄生ノ當該動物(宿主動物ニアラズ)ノ體制上ニ及ボス影響如何。
4. 腔皮類，頭足類，節足類，兩棲類ニ於ケル卵ノ分割ノ模様ヲ圖解セヨ。
5. 次ノ事項ニツキ知ル所ヲ記セ。
(1) 種　(Species, Art)
(2) 化石　(Fossil, Fossilien)
(3) 水肺　(Water-lung, Wasserlungen)
(4) 舌紐　(Radula)
(5) 細胞器官　(Cell-organ, Organell)
(6) 襟細胞　(Choanocyte, Kragengeisselzelle)
(7) 自割　(Autotomy, Autotomie)
(8) 後頭髁突起　(Occipital Condyle, Condylus occipitalis)
(9) 雌雄異態　(Sexual dimorphism, Geschlechtsdimorphismus)
(10) 原腎管　(Protonephridium, Protonephridien)

## 植　物　學

1. 單子葉植物中吾人ノ食用トナル植物ノ例五ツヲ擧ゲヨ。
2. 褐色藻類，紅色藻類各三種ノ名ヲ記セ。
3. 根毛ニツキテ知ルトコロヲ記セ。
4. 根ト莖ハ其ノ內部構造ニ於テ如何ニ異ナルカ最モ重要ナル相違ノ點一ツヲ簡明ニ述ベヨ。
5. 澱粉ハ植物細胞ノ如何ナル部分ニ如何樣ニシテ生ズルカ
6. 原形質分離ト云フコトヲ說明セヨ。
7. 減數核分裂ハ通常ノ核分裂ト如何ナル點ニ於テ相違スルカ。
(動物ト併セテ三時間)

## ◎東北帝國大學工學部

### 數　學

1. 次ノ各項ヲ算出セヨ。

(イ) $\int \frac{dx}{x(a+bx^n)}$　　(ロ) $\int \frac{dx}{1+\cos x}$

(ハ) $\int \log x dx$　　(ニ) $\int \frac{dx}{\sqrt{x^2-a^2}}$

(ホ) $y=x^{x^{x^x}}$ ナルトキ $\frac{dy}{dx}$ ヲ求ム。

2. $\sqrt[5]{30}$ ヲ小數第三位迄求メヨ。

3. 等角螺線上ノ任意ノ點P＝於ケル切線ト動徑OPトノナス角ハ一定ナルコトヲ證セヨ。

但シ Oハ原點＝シテ

等角螺線ノ方程式ハ極座標ヲ用ヒタルトキ

$r=a\theta^{\frac{\theta}{n}}$　　a, n＝常數

ニテ與ヘラル。

### 物　理

1. 雨滴ノ落下速度ハ地表＝於テ一定ト見做シ得。其速度ノ大サヲ求メヨ。

2. 完全氣體ノ容積彈性率(Fulk modulas) ヲ等溫變化，斷熱變化ノ場合ニツキ求メヨ。

3. 屈折率ヲ異ニスル二枚ノガラス製レンズヲ用ヒテ三色ノ色消シノ不可能ナル事ヲ證セヨ。

4. 半徑rニシテ無限＝長キ圓筒形コイルアリ。單位長サノ捲キ數Nトス。今之ニ强サiナル電流ガ通ズル時コイルノ軸上ノ一點＝於ケル磁場ノ强サ如何。

玆ニ必要ナル者ノ爲ニ次ノ積分ノ値ヲ揭グ。

$$\int \frac{dx}{(a^2+x^2)^{\frac{3}{2}}}=\frac{x}{a^2(a^2+x^2)^{\frac{1}{2}}}$$　　a ハ常數

### 化　學

1. 次の物質を純粹に得る方法に就き知る所を記せ。(25點)
(イ) 酸素瓦斯　(ロ) 水素瓦斯　(ハ) 窒素瓦斯

2. 次の化學反應 $N_2O_4 \rightleftarrows 2NO_2$ に就き質量作用の定律を說明し且つ恒溫恒壓(Constant temperature and pressure)に於ける解離恒數を求めよ。但し $N_2O_4$ のみの比重を D, 解離氣體の其れを d, またその全壓を p とす。(25點)

3. 定性分析に於ては金屬元素を如何なる屬に分つか(25點)

4. 次の五種の物質の間に相關連して存在する化學的關係を簡單に記述せよ。

ベンゼン　　ニトロベンゼン　　アニリン
ベンゼンダイアゾニウムクローライド
フエニールヒドラジン

## ◎東北帝國大學法文學部

### 獨文和譯

1. Dreimal hat Rom der Welt Gesetze diktiert, dreimal die Völker zur Einheit verbunden, das erstemal, als das römische Volk noch in der Fülle seiner Kraft stand, zur Einheit des Staats, das zweitemal, nachdem dasselbe bereits untergegangen, zur Einheit der Kirche, das drittemal, infolge der Rezeption des römischen Rechts, im Mittelalter zur Einheit des Rechts; das erstemal mit äusserm Zwange durch die Macht der Waffen, die beiden andern Male durch die Macht des Geistes. Die welthistorische Bedeutung und Mission Roms in ein Wort zusammengefasst ist die Ueberwindung des Nationalitätsprinzips durch den Gedanken der Universalität.

2. Als Wilhelm seine Mutter des andern Morgens begrüsste, eröffnete sie ihm, dass der Vater sehr verdriesslich sei und ihm den täglichen Besuch des Schauspiels nächstens untersagen werde, „Wenn ich gleich selbst," fuhr sie fort, „manchmal gern ins Theater gehe, so möchte ich es doch oft verwünschen, da meine häusliche Ruhe durch deine un mässige Leidenschaft zu diesem Vergnügen gestört wird. Der Vater wiederholt immer, wozu es nur nütze sei? Wie man seine Zeit nur so verderben könne?"

3. (a) Wir Menschen beklagen uns oft, dass der guten Tage so wenig sind und der schlimmen so viel, und wie mich dünkt, meist mit Unrecht. Wenn wir immer ein offenes Herz hätten, das Gute zu geniessen, das uns Gott für jeden Tag bereitet, wir würden alsdann auch Kraft genug haben, das Uebel zu tragen, wenn es kommt.

(b) Der Irrtum ist viel leichter zu erkennen, als die Wahrheit zu finden: jener liegt auf der Oberfläche, damit lässt sich wohl fertig werden; diese ruht in der Tiefe, danach zu forschen, ist nicht jedermanns Sache.

## 國語

左の二問につき字義を解き、文意を明めよ。特に第一問に於いては漢字によみ方を附せよ。

一、野分のまたのひこそいみじうあはれにおほゆれ立蔀透垣などのふしなみたるに前栽ともこゝろくるしけなり大きなる木とも倒れ枝なと吹き折られたるたに惜しきに萩女郎花なとのうへによろほひ這ひふせるいと思はすなり格子のつほなとにさときはを殊更にしたらむやうにこま〳〵と吹き入りたるこそあかりつる風のしわさともおほえね

二、愚なる人は一番を讀みてこれを解せす凡なる人は悉く解したりと思ふ善く讀むものは時として悉くは解し得ぬことあり晦きを晦く見明きを明しと見るなり批評家は晦からぬ處に晦きものを見解し易きことを解せさらむとす

## 漢文

一、次ノ文ニ句讀訓點送リ假名ヲ施セ

晏子名嬰謚平仲萊人博聞彊記通于古今事齊靈公莊公景公以節儉力行盡忠極諫道齊國君得以正行百姓得以附親不用則退耕于野用則必不屈義不可脅以邪白刃雖交胸終不受崔杼之劫諫齊君懸而至順而刻及使諸侯莫能屈其辭其博通如此

次ノ句ヲ説明セヨ

一、不受崔杼之刧

二、縣而至順而刻

二、夫接於人無窮而使人善悉者事也推移無常而不可以拘者時也其應無方而不可以易者理也知時之變而因之見必然之理而循之則事者雖無窮而易應也雖善悉而易治也

右ノ文ニ直チニ句讀訓點送假名ヲ附ケ、左ニ摘出セル部分ノ意義ヲ餘白ニ解釋セヨ。

○接於人無窮而使人善悉者事也

○其應無方而不可以易者理也

## 英文和譯

In considering the Origin of Species, it is quite conceivable that a naturalist, reflecting on the mutual affinities of organic beings, on their embryological relations, their geographical distribution, geological succession, and other such facts, might come to the conclusion that each species had not been independently created, but had descended, like varieties, from other species. Nevertheless, such a conclusion, even if well founded, would be unsatisfactory, until it could be shown how the innumerable species inhabiting this world have been modified, so as to acquire that perfection of structure and coadaptation which most justly excites our admiration. Naturalists continually refer to external conditions, such as climate, food, etc., as the only possible cause of variation. In one very limited sense as we shall hereafter see, this may be true; but it is preposterous to attribute to mere external conditions the structure, for instance, of the woodpecker, with its feet, tail, beak, and toungue, so admirably adapted to catch insects under the bark of trees. In the case of the mistletoe, which draws its nourishment from certain trees, which has seeds that must be transported by certain birds, and which has flowers with separate sexes absolutely requiring the agency of certain insects to bring pollen from one flower to the other, it is equally preposterous to account for the structure of this parasite, with its relations to several distinct organic beings, by the effects of external conditions, or of habit, or of the volition of the plant itself.



## 獨文和譯

1. Das Leben selbst tritt uns in zweierlei Gestalt entgegen, einmal als Quelle unserer gesamten Gemütstätigkeit und zweitens als Erscheinungen der äusseren Welt. Um diese aus der äusseren Erfahrung geschöpfte Kenntnis handelt es sich in erster Linie, wenn wir als Naturforscher das Leben zu definieren versuchen.

Wir wollen wissen, welche Rolle das Leben in der wirklichen Welt spielt, in der wir selbst leben. Da zeigt sich bereits, bevor wir überhaupt an das Leben selbst herantreten können, ein Hindernis, das nur sehr schwer zu beseitigen sein wird.

Die Naturforscher sind sich nämlich durchaus nicht darüber einig, was unter der "wirklichen Welt" zu verstehen sei. Daher wird man auch nicht erwarten dürfen, eine allgemein gültige Definition des Lebens zu erhalten, sondern muss darauf gefasst sein, die abweichende Weltauffassung in der Definition des Lebens wiederzu-

finden.

2. Neuerdings ist es nun gelungen, besonders Glassorten zu erzeugen, die das sichtbare Licht, die ultraroten Strahlen und das kurzwellige Ultraviolett fast ganz eliminieren und nur einen schmalen Bezirk langwelligen Ultravioletts durchlassen. Derartige "Dunkelfilter", fanden zur Untersuchungszwecken Eingang.

Da sie das sichtbare Licht absorbieren und nur Ultraviolett durchlassen, so eignen sie sich zur Beobachtung von Fluoreszenzerscheinungen. Diesem Zweck dient der sogenannte "Diagnose-Ansatz" der Quarzlampe.

---

Gemüt : Seelenstimmung.
schöpfen : etwas in sich aufnehmen.
eliminieren : verweisen ; tilgen, entfernen ; ausstreichen.

### 物　　理

1. 放射性元素ヨリ發スル放射線ノ種類ヲ擧ゲテ其ノ特性ヲ記セ。
2. ぽてんしおめーとる法ニ依ル電池ノ動電力ノ測定法

### 化　　學

1. Alkohole 及ビ Phenole ノ化學的性質ヲ比較セヨ。
2. (a) optisch aktiv ナル炭素化合物ハ分子構造ニ於テ如何ナル特徴アリヤ。
(b) 弱酸ノ鹽類ニ强酸ヲ作用セシメ弱鹽基ノ鹽類ニ强鹽基ヲ作用セシムル時ハ如何ナル變化オコルカ。

### 動　植　物　學

1. 植物ト水。
2. 靈長類。
(Primates)

右二項ニツキ要所ヲ述ベヨ。

## ◎金澤醫科大學

### 英　文　和　譯

1. "I have felt no pain". So spoke a young man in the Massachusetts General Hospital on October 16, 1846 after having undergone what would formaly have been a painful surgical operaton. A miracle seemed to have been wrought. Under the influence of ether, administered by a young doctor, William T. G. Morton, the patient had gone to sleep, and had awakened to the pleasant comprehension that the ordeal was over. The open skepticism of the medical students and physicians who had gathered to witness the "fiasco" quickly changed to wondering admiration. It was the greatest triumph in the history of Surgery.

2. Until the close of the eighteenth century small-pox was the most dreaded scourge of the human race. Again and again this pestilence, sweeping over the earth, claimed by death one tenth of the population of Christendom. According to an old saying, "From small-pox and love but few remain free". The unpitted face had come to be almost an exception. But Edward Jenner, an English physician, in common with many others had noticed that those who had suffered from the similar but milder form of disease known as cow-pox were thereby renderd immune to small-pox. Realizing what a boon to his fellowmen a preventive or cure would be, Jenner determined to make a searching investigation of the whole matter. It was the first important medical research ever undertaken, and the keenness of vision displayed and the enlightened methods employed would do credit even to the scientific investigators of our own day.

3. The name of the distinguished French mathematician Pierre Simon de Laplace will forever be associated with the Nebular Hypothesis, which he put forth to explain the origin of our solar system. His last words were, "What we know is but little, what we do not know is immense". It was to satisfy in some small degree mankind's insatiable thirst for knowledge of our universe that he devoted his life. (二時間)

### 獨　文　和　譯

1. Zwei Dinge muss der Arzt besitzen : Wissen und Gewissen. ……Nussbaum……
2. Ist wohl der ein würdiger Mann, der, im Glück und Uuglück,
Sich nur allein bedenkt, und Leben und Freuden

zu teilen
Nicht versteht, und nicht dazu von Herzen bewegt wird? Lieber möcht' ich, als je, mich heute zur Heirat entschliessen;
Denn manch gutes Mädchen bedarf des schützenden Mannes,
Und der Mann des erheternden Weibs, wenn ihm Unglück bevorsteht. ……Goethe……

3. Die wissenschaftliche Physiologie hat die Aufgabe, die Leistungen des Tierleibes festzustellen und sie aus den elmentaren Bedingungen desselben mit Notwendigkeit herzuleiten. ……Ludwig……

## ◎千葉醫科大學

### 英文和譯

1. The sun is, so far as human knowledge goes, an inexhaustible source of physical energy. The stream of this energy which pours forth upon our earth is the everlasting spring which maintains the activity of everything which moves upon the globe. The surface of the earth would in a short time be covered by the ice of death if the great quantity of energy which is continually dissipated into space, in the form of undulatory movement, were not continually restored to it by the sun.

2. In no science is the advance at any time general. Some sections of the line are pushed forward while other parts may remain for years with little movement, until in their turn they are enabled to progress in consequence of the support afforded by the advance of the adjacent sections. The increasing number of series of monographs in different sciences is a recognition of this fact, as well as of the concentration of interes which characterizes this age of specialzation.

### 獨文和譯

1. Ich habe stets das Empfinden, dass nur das, was man selbst geprüft und selbst erlebt hat, ganz fester Boden für die kritische Beurteilung schafft.

### 和文獨譯

2. 身體と精神との間に密接の關係があるが必しも健康なる身體に健康なる精神が宿るとは云へぬ。古來身體虚弱にして，精神的方面に活動し名を後世に殘した學者も尠くない。

### 化學

1. ベンツオール (Benzol, Benzene), ノ構造ニ就イテ記セ。
2. 空氣ノ組成ニ就イテ記セ。

(二時間)

### 動物學

1. 第二次性徴。
2. 遺傳ノ意義及ビ法則ヲ略記セヨ。

## ◎長崎醫科大學

### 英文和譯

The League of Nations has many activities. It has done great work which without it could not have been done in the economic reconstruction of Europe after the Great War. It has done, and is doing, great work for the advancement of the health of nations, for the advancement of social services, and the improvement of social condition where that advancement and improvement require for their success international effort and international cooperation. But the first object of its foundation and the first purpose of its existence is to maintain the peace of the world. To that all activities must be subordinate and all other activities should be conductive.

### 和文英譯

世界は恰も鏡の如くであつて，人笑へば笑ひ，人怒れば怒る。之と同じく宇宙萬有の美は吾人の目を喜ばし，最も興味ある觀念を朝に夕に與へつゝあるのである。故に吾人は決して不滿の念を懷くことなく總て圓滿に自己の負ふ所の義務を完ふせねばならぬ。

### 獨文和譯

**1.** Was es uns oft so schwer macht, uns in unseren Gefühlen zurechtzufinden, das ist, dass wir grosse Gefühle kleinen Pflichten opfern müssen. Es ist wohl leicht, einen Wunsch, eine Hoffnung zu unterdrücken, wenn neuere, tiefere Leidenschaften in uns emporsteigen. Aber reine, edle Gefühle bekämpfen, die unsere ganze Seele erfüllen, nur weil die Erbärmlichkeit des Alltagslebens ihre Ansprüche stellt, das wird auch dem Stärksten oft zu viel. Und doch kann gerade hier das Gemüt sich bewähren und an Reichtum gewinnen; denn je schwerer der Kampf, desto herrlicher der Sieg.

**2.** Und er wird ein um so grösserer Dichter sein, je reicheren Stoff sein zartfühlendes Herz, sein heller Kopf der Phantasie zuführen; d. h., um wieder mit Schiller zu sprechen: ein je vollkommeneres Individuum er ist. Denn, streng genommen, hat der Dichter nichts anderes zu geben, als sich selbst.

### 和文獨譯

**1.** 希臘史に於ては Sparta と Athen との兩共和國が主役を演じて居たのだから此兩者の相違せる國家制度を互ひに對照して其長所と缺點とを互ひに評價して見るのは一個の興味ある事である。

**2.** 何事によらず事物を深く觀察する事は哲學者のみならず一般科學者のとるべき方法である。

### 數　學

1. $\sqrt{\dfrac{cx+d}{ax+b}}$ ヲ微分スベシ。
2. 定面積 $K^2$ ヲ有スル矩形中, 周ノ最小ナルモノヲ求ム。
3. $\dfrac{1}{x^2-(a+b)x+ab}$ ヲ積分セヨ。

### 物　理

1. ホキートストン橋ノ原理ヲ説明セヨ。
2. 0° ニ於テ 200 立方糎ヲ容レル「アルミニユーム」製ノ水瓶ヲ 100° ニ熱スル時ハ其容量ノ變化如何。
   但シ「アルミニユーム」ノ線膨脹係數ハ 0.000023.
3. 次ノ語ヲ簡單ニ説明セヨ。
   (イ) 光ノ屈折。
   (ロ) 電池ノ分極。
   (ハ) 半透膜。

# 昭和四年度

## ◎大阪工業大學

### 外國語（二時間）

### 英文和譯

**1.** In every country, there are certain forms of conduct and speech, by which men regulate their intercourse, and which, by the authority of long custom, are rendered, in a great measure, incapable of change. These are widely different, indifferent nations and regions, because they have taken their rise, in all cases, from fancy rather than reason, and have all been modified by a hundred accidental circumstances in their progress of refinement. Hence, too, the manners of one people have always some appearance of ridiculous folly, in the eyes of another, so far as they are found to be different. (20點)

**2.** As we know, cold water sinks and warm water rises. In accordance with that principle great volumes of cold water sink from the melting ice in the Polar regions and stream along the floor of the oceans toward the Equator. The deeper we plumb the colder the sea becomes, and at 2000 fathoms it is almost ice cold. Even in tropical seas, whose surface temperature may reach from 80 to 90 degrees Fahrenheit, the water in the depths is icy cold. (20點)

**3.** Marvels crowd thick upon one another in our day, but the mind is still arrested and the imagination kindled by a feat so remarkable as that of the American Army aeroplane which has remained in continuous flight for 150 hours, refuelled constantly in mid-air by other aeroplanes. It has even been possible to mitigate the rigours of the crew's celestial existence by delivering the latest newspapers, with accounts of their exploit. (20點)

### 物　理（二時間）

1. 質量 5gr. の物體が單一弦振動 (simple harmonic vibration) をなす。今振動の中心より 3cm の距離に於て 60dyne の力が作用せるものとすれば其週期如何。
2. 攝氏千度以上の高溫度測定に普通使用せらるる方法の

一を擧げ其原理を述べよ。
3. 副尺 (vernier) の理を說明せよ。
4. 次の術語の意義を記るせ。
$\alpha$ 粒子 ($\alpha$ particle)。電子。イオン。
スペクトル。光電效果 (photoelectric effect)。

化　學（二時間）

1. 接觸作用 (Catalytic action, Katalytische Wirkung) に就て知る所を記せ。
2. 次に列記したる語に就きその相違を例を擧げて說明せよ。
(1) 複鹽 (Double Salt, Doppelsalz) と錯鹽 (Complex salt, Komplex salz)
(2) 電離 (Electrolytic dissociation, Elektrolytische dissoziation) と解離 (Dissociation, Dissoziation)
(3) 酸度 (Acidity, Azidität) と鹽基度 (Basicity, Basizität)
(4) 炭化水素 (Hydrocarbon, Kohlenwasserstoff) と炭水化物 (Carbohydrate, Kohlenhydrat)
(5) 酸アミド (Acid amide, Säoreamide) とアミノ酸 (Amino acid, Aminosäure)
(6) 脂肪 (Fat, Fett) と脂肪酸 (Fatty acid, Fettsäure)
(7) エステル (E ster, E ster) と鹽 (Salt, Salz)
(8) 重合 (Polymerisation, Polymerisation) と縮合 (Condensation, Kondensation)
3. 次の根を有する脂肪族並に芳香族炭化水素各々一例を擧げて其名稱並に構造式を記せ。

$-OH,\ -NH_2,\ -CO-,\ -NH,\ NH_3,\ -C{=O \atop -OH}$

4. 燐酸鹽, Amine 並に Alcohol に Primary, Secondary, Tertiary の區別ある理由を記せ。
5. $Ag^{\cdot}$, $Hg^{\cdot\cdot}$, $As^{\cdot\cdot\cdot}$ の三種の陽イオンを含む水溶液あり之より各々の分離, 檢出, 確認するには如何なる方法を用ふるや。

數　學

1. 任意ノ三角形ノ面積 (A) ヲソノ三邊ノ長サ a, b, c ニテ表ハス。
公式 : $A=\sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$ ヲ導キ出セ, 玆ニ $s=\frac{1}{2}(a+b+c)$
2. 相交ル二定直線 OX, OY ニ夫々 A, B ニ於テ交ル動直線 $l$ アリ, 若シ $\frac{1}{OA}+\frac{1}{OB}=k$ (定數) ナラバ, $l$ ハ常ニ或定點ヲ過ルコトヲ證明シ, 且コノ定點ノ位置ヲ決定セヨ。
3. (i) 次ノ二ツノ函數ノ微分係數ヲ求メヨ。

$$\frac{x}{x+\sqrt{x^2+a^2}} : \sin^2 2x+\frac{1}{3}\tan^3 x$$

(ii) $f(x)=x^2e^{3x}$ ナルトキ, コノ函數ノ $x=0$ ニ於ケル微分係數ノ値 : $f'(0)$ ト定積分 : $\int_0^1 f(x)dx$ トヲ求メヨ。又直交軸ニ關シ, 方程式 : $y=f(x)$ ノ表ハス曲線ニ對シテ, 上ノ二ツノ値ハ幾何學的ニ何ヲ表ハスカヲ述ベヨ。
4. 直交軸ニ關シ, 方程式 : $x^2y=(x-a)(b-x)$ (但シ $a>b>0$) ノ表ハス曲線ヲ描ケ。
5. 半徑=1 ナル球ヲ二ツノ平行ナル平面 p, q ニテ三ツノ部分ニ切リ, 各部ノ容積ヲ相等シカラシメントス。球ノ中心 O ヨリリカクノ如キ平面 p, q ノイヅレカニ到ル距離 $x$ ハ一ツノ三次方程式ノ根ナルコトヲ證明セヨ。

# ◎神戸商業大學

論　文（三時間）

（注意）左記の中任意の二題に付き論文を作るべし。
1. 現代經濟生活に於ける企業の地位。
2. 商業の職能。
3. 最近に於ける會計學の發達。
4. 過失と民事責任との關係。

英　語（二時間半）

1. (a) 下記の論說の大意を邦文にて記せ。
(b) 同文章中橫線を施せる部分を全譯せよ。

FINANCIAL IMPERIALISM

A French economist, M. Lucien Romier, writing in the Revue des Deux Mondes for July 15, discusses the kind of "imperialism" with which the United States has become associated in the minds of foreigners since the war. He accepts without demur the protests o American statesmen that, this country has not the sil-

ghtest inclination to militarism, and is without even a secret desire to annex territory by conquest, or to impose upon others its own form of government. M. Romier declares that he regards the United States as "sincerly pacific." But he adds that "no imperialism is more denounced today than the imperialism of the United States." What he means he at once explains by the fact that American has, with amazing suddenness and almost unconsciously, become the great creditor nation of the world. It is the imperialism based on American capital invested abroad that is disliked and even dreaded.

With the great amounts of American capital loaned to Europe and South America there has gone a certain demand, often only tacit, for financial control of the borrowers. Their applications for credit in this country are severaly scrutinized by the Government. The lenders wish to know what the borrowers are going to do with the funds placed at their disposal. Even with the best intentoins on the part of the creditors, they inevitably have an air of superiority and supervision face to face with the debtors. This is the kind of thing which makes present-day American financial imperialism offensive to many. But M. Romier takes pains to point out that it cannot last. Inherent in it is a self-limitation. In Europe today, thanks to the credit obtained from America, factories are more thoroughly equipped than ever before, methods of production have been improved and industrial efforts have been coordinated. It is true that the sap for reinvigorating European finance and industry has come from the United States, but "even if the first fruits are gathered by the overseas creditor, the tree remains in Europe yielding what will soon enrich its owner." Dropping this figure of speech, the author asserts that after financial imperialism of the kind he describes has been in effect for a fairly long period there will come a reversal of power, because "forces will have been roused which will one day result in competition with the creditor and restore the balance to his own detriment." The beginings of this process have already been remarked by more than one skilled sbserver returning from Europe.

2. 下の事例の要點を千字以內の邦文にて記せ

Because its small customers apparently were not receiving adequate personal attention, the Excelsior Company, which manufactured writing papers, proposed to change the administrative organization as a means of improving the situation.

In 1919 the Excelsior Company was marketing its products in practically all parts of the United States. It sold directly to retailers and also to wholesalers; the sales to wholesalers were incidental, for the company intended to develop its market primarily among retailers. About 40% of the sales were made to customers who bought in large quantities. Most of those curtomers were regular patrons of the company, but among the large number of firms which bought in small quantities there was frequent charge. Many small firms which previously had been customers no longer were purchasing from the company.

The company had sought to emphasize a policy of fair treatment to all its customers. Nevertheless, in the sales department and also in the credit and shipping department more personal attenion had been given to large customers than to small customers.

When the rapid turnover among customers buying in small quantities came to the attention of the ex cutives, the sales, credit, claims and grievances and shipping departments all were organized functionally. The claims and grievances for all customers, for example, were handled directly and exclusively by a single department. The company had planned to carry this specialization of functions further as the organization expanded.

In order to improve the service given small customers, however, the company decided that the sales office should be reorganized with territorial rather than functional specialization. According to this plan, the hiring and control of all salesmen for all territories was centralized under one head. Advertising also was to be centrali zed, and there was to be a single credit department. The country was to be divided into territories, and each territory was to be assigned to one man in

the sales department. For his territory he was to have charge of the routine supervision of salesmen, of claims and grievances, and of all correspondence with customers. In dealing with matters such as credit, he, of course, was to be guided by the decisions of the credit department, but no department other than the territorial sales department was to be permitted to communicate directly with individual customers except in the case of delinquent accounts to which severe collection methods were to be applied.

## ◎東京文理科大學

### 英 文 和 譯 (二時間)

(〔 〕内の部分は答案を要せず)

**1.** 〔Party-spirit gives a pretext for the exercise of such scorn and malice, as could not be tolerated if they did not claim to have their origin in fervent wishes for the public welfare.〕 〔It consumes in idle cotests that energy which the State has need of. By the perpetual interchange of hard names it tends to make a people suspicious and uncharitable; or it inclines them to think lightly of the kind of offences which they hear so often charged against their most eminent public men; 〔or it 'gives them a habit of using epithets and affecting sensations of moral indignation which bear no proportion to the thing itself, or to their ownreal feelings about the thing; of taking the names of Truth and Virtue in vain.'〕

**2.** 〔But, about this time in 1666, the death-rate had sunk to nearly its ordinary amount; a case of plague occurred only here and there, and the richer citizens who had flown from the pest had returned to their dwellings. The remnant of the people began to toil at the accustomed round of duty or of pleasure; and the stream of city life bid fair to flow back along its old bed, with renewed and uninterrupted vigour.〕 The newly kindled hope was deceitful. The great plague, indeed, returned no more; but what it had done for the Londoners, the great fire, which broke out in the autumn of 1666, did for London; and, in September of that year, a heap of ashes and the indestructible energy of the people were all that remained of the glory of five sixths of the city whithin the walls.

**3.** 〔The future of the English-speaking races depends largely on a problem which has not yet been decided.〕 Will supremacy ultimately fall to those nations, which, like the Anglo-Saxons above all others, have established a high standard of living, with varied and abundant food, comparatively short hours of work, many amusements and comfo ts of every kind, or to the cheaper races, who are accustomed to a simpler manner of life, and make fewer demans upon their environment?

次ノ三題ノ中一題ダケ解釋スルコト(C)ハ〔〕内ノ部分ハ答案ヲ要セズ

**4.** (a) Desire and curiosity are the two eyes through which a man sees the world in the most enchanted colours: it is they that make women beautiful or fossils interesting: and the man may squander his estate and come to beggary, but if he keeps these two amulets *he is still rich in the possibilites of pleasure.

**amulet*=thing worn as a charm against evil.

(b) Litertaure makes us partakersi n a life larger, richer, and more varied than we ourselves can ever know of our own individual knowledge; and it does this, not only because it opens up new fields of experience and new lines of thoght and speculation. but also, and even more notably, because it carries us beyond the pinched and meagre humanity of our everyday round of existence into contact with those fresh, strong, and magnetic personalities who have embodied themselves in the world's great books.

(c) 〔We know the commoner animals as they come before us, but do not trouble about the relationship of one beast to another. As regards man, he seems to us so very different from all the common animal forms that we can not believe him to be related to them at all, but prefer to regard him as standing isolated and alone, as a being of a peculiar order.〕 When, however, we begin to study his body and compare it, organ by organ, with that of other animals, we see that his isolation disappears, and that it is the thick veil of civilization in which he has so completely hidden him-

self that misleads us regarding his true position in the animal kingdom.

### 獨文和譯（二時間）

1. Suchen wir nach einer Erziehung im Mittelalter, dann finden wir, wenn wir vom Rittertum absehen, nur einen gelehrten Unterricht, und der war durchgängig in den Händen der Geistlichkeit. Der Gedanke einer allgemeinmenschlichen Bildung geht dem Mittelalter ab. Das ist längst bekannt und braucht darum nicht besonders betont zu werden. Wir fragen gleich, wenn auch nur ganz Kurz, nach dem tieferen Grunde, nach der leitenden Idee. Der gesamte Unterricht wird im Mittelalter von der bestimmten Idee beherrscht: alles was in Erziehung und Unterricht zu bieten ist, das ist fertig gegeben.

2. Der philosophische Unterricht auf der Universität soll die akademische Jugend dazu anleiten, die letzten grossen Prinzipienfragen, auf die das Denken jederzeit geführt worden ist, zu erfassen, in ihrer Bedeutung zu verstehen und zu ihnen mit eigenem Urteil Stellung zu nehmen. Er hat sein Ziel erreicht, wenn es ihm gelingt, die Hörer über den öden, gedankenlosen Skeptzismus und die schmähliche Gleichgültigkeit gegen die höchsten Angelegenheiten der Menschheit, wie sie unter den sogenannten Gebildeten lange Zeit geherrscht haben und auch heute noch weit verbreitet herrschen, zu erheben und zu verständnisvoller Teilnahme für die grossen Gedanken zu führen, mit denen die geistigen Führer der Menschheit sich über Welt und Leben Rechenschaft zu geben versucht haben. Nicht fertigen Gedanken mitzuteilen, ist die Aufgabe, sondern zum Nachdenken zu erregen und ihm die Wege zu weisen. Das wird freilich niemand können, der nicht eigene Gedanken hat. öde＝荒れ果てたる　Schmählich＝恥づべき　Angelegenheit＝事件　Rechenschaft geben＝理由を說明する



### 國語學國文學

#### 解釋

（注意）——線を施したる部分のみ解釋せよ。

このたびあつめえらばれて山した水のたえずはまのまさごのかずおほくつもりぬればいまはあすかがはのせになるうらみもきこえずさざれいしのいはほとなるよろこびのみぞあるべきそれまくらことばはるの花にほひすくなくしてむなしきなのみ秋のよのながきをかこてればかつは人のみみにおそりかつはうたの心にはぢおもへどたなびく雲のたちゐなくしかのおきふしはつらゆきらがこの世におなじくむまれてこの事の時にあへるをなむよろこびぬる人まろなくなりにたれどうたのこととどまれるかなたとひ時うつりことさりたのしびかなしびゆきかふともこのうたのもじあるをやあをやぎのいとたえずまつの葉のちりうせずしてまさきのかづらながくつたはりとりのあとひさしくとどまればうたのさまをしりことの心をえたらむ人はおほ空の月をみるがごとくにいにしへをあふぎていまをこひざらめかも

（古今和歌集序）

#### 文　法

一、中古文法と現代文法との間における重なる差異に就いて略述せよ。

二、日本帝國の領土内に存する各種の言語を列擧せよ。

#### 作　文

平家物語を讀む。

（注意）　解釋・文法・作文を通じて二時間半とす。

### 漢文學科（二時間）

一、左の文に反點送假名を附し餘白に解釋せよ。

子路好勇蓋有强其所不知以爲知者故夫子告之曰我敎女以知之之道乎但所知者則以爲知所不知者則以爲不知如此則雖或不能盡知而無自欺之蔽亦不害其爲知矣況由此而求之又有可知之理乎

二、左の文に反點送假名を附し餘白に解釋せよ。

（イ）晉侯復假道於虞以伐虢宮之奇諫曰虢虞之表也虢亡虞必從之晉不可啓寇不可翫一之爲甚其可再乎諺所謂輔車相依脣亡齒寒者其虞虢之謂也

（ロ）宋有富人天雨牆壞其子曰不築必將有盜其鄰人之父亦云暮而果大亡其財其家甚智其子而疑鄰人之父

### 物理學科（二時間）

1. 彈性に關する恆數の種類を列擧し各種につきて說明を與へよ。

2. 弦の振動を論ぜよ。

3. 橫斷面が正方形なる眞鍮棒に正三角形の橫斷面の鋼製刄を貫通したる複振子あり。次の條件に從ひ此の振子の

慣性の能率を計算せよ。

(イ) 棒は長さ $l$, 横斷面(正方形)の一邊 $a$.

(ロ) 刃は長さ $b$, 横斷面(正三角形)の一邊 $a$.

(ハ) 棒の上端より刃の下へり(支點)までの距離 $\frac{1}{4}l$.

(ニ) 密度は眞鍮(棒)が $s$, 鋼(刃)が $d$.

(ホ) 棒及び刃の兩端は共に橫斷面とす

4. Carnot's Cycle を說明せよ。

5. 下記二つの場合の磁場の强さを算出すべき式を證明し且つ實量を與へよ。

(a) 半徑 20cm の圓形輪道に 5 アンペアの電流を通す時其の中心に於ける磁場。

(b) 無限に延びたる直線の針金に 5 アンペアの電流を通す時其の針金より 20cm の距離に於ける磁場。

## 數　學　科 (三時間)

1. 二次方程式

$$x^2+px+q=0$$

ガ相異ナレル實根ヲ有スルトキハ零ナラザル實數 $h$ ノ如何ニ關セズ

$$x^2+px+q+h(2x+p)=0$$

モ亦相異ナレル實根ヲ有シ且ツ其ノ唯一根ノミガ初メノ方程式ノ二根ノ間ニアリ，之ヲ證明セヨ。

2. 正數 $x$ ガ $\frac{1}{100}$ ヨリモ大ナラザルトキ。

$$(1+x)^{\frac{1}{5}}=1+\frac{1}{5}x$$

ト置キタル場合ノ誤差ハ小數第何位ノ1ヨリモ小ナルカ。

3. 直交軸ニ關シ，方程式

$$y^2+ax+by+c=0$$

ノ表ハス拋物線ノ頂點ノ位置ヲ求ム。

4. $x=r\cos\theta$, $y=r\sin\theta$

ナルトキ

$$\frac{\left\{1+\left(\frac{dy}{dx}\right)^2\right\}^{\frac{3}{2}}}{\frac{d^2y}{dx^2}}$$

ヲ $\theta$, $r$, $\frac{dr}{d\theta}$, $\frac{d^2r}{d\theta^2}$ ノミノ式ニテ表ハセ。

5. 楕圓ニ內接スル矩形ノ邊ハ何レモ其ノ楕圓ノ主軸ニ平行ナルコトヲ證明シ且ツ $a$, $b$ ヲ夫々半長徑，半短徑トスル楕圓ニ內接スル矩形ノ面積ノ最大値ヲ求メヨ。

6. 直交軸ニ關シ

$$y=\log x$$

ノぐらふヲ畫キ且ツ此ノ曲線ト $x$ 軸トヅ軸トノ負ノ部分トノ囘ニアル平面ノ部分ノ面積ヲ求メヨ。

## 化　學　科 (三時間)

1. アムモニアの水溶液は，遊離アムモニア・アムモニアの水化物・水酸化アムモニウム・$NH_4$' イオン及び OH' イオンを含むと考へらる。如何なる根據ありて然るか。

2. 沃素は水によりも沃化カリウムの水溶液に，遙によく溶解す。此の事實は如何樣に解說し得べきか。又沃化カリウムの代りに他のアルカリ金屬の沃化物を用ひた場合にも同樣であるか。

3. 有機化合物に於ける各種の異性體に就て論ぜよ。

4. 次ぎの各語の意義を說明せよ。

(一) Leucobase　(二) Biuret reaction

(三) Grignard's reagent　(四) Diazotation

5. 一次反應に於ける速度恒數を求むる式を導け。

6. 廻折グレーティング (Diffraction Grating) を用ひて光の波長を測る方法を說明せよ。

7. 償殺法 (Cmpensation Method) に由りて或る電池の電動力を測定する方法を說述せよ。

## 倫　理　學　科 (二時間)

一、道德と經濟との關係を論ぜよ。

二、左の諸項につき知るところを述べよ。

(イ) 良心　(ロ) 行爲

(ハ) 功利主義　(ニ) 克己主義

(ホ) カント　(ヘ) アリストートル

(注意) 第一問と第二問とは各別紙に認むべし。

## 植　物　學　科 (二時間)

一、褐藻類は如何にして蕃殖するか，例作書きにしてこれを記せ。

二、蒸騰作用を測定する方法に就て知る所を記せ。

三、被子植物と裸子植物との胚嚢の構造を比較せよ。

## 動　物　學　科 (二時間)

一、現時生存する哺乳類の屬名及び產地を記せ。

二、一例を選みて昆蟲類の消化器及び呼吸器を圖解せよ。

三、肝ヂストマ及び肺ヂストマの中間宿主は何か。

四、ヒトデ及びクモヒトデの腕の横斷面を畫け。

**地理學科**（二時間）

1. 四國島の地形の特色を說述せよ。
2. Europe に於ける農作物の分布狀態を說述し、且つ之れ等と自然との關係を說け。

**哲學哲學史科**（二時間）

一、先驗的(transcendental)と超越的(transcendent)との區別。
二、論理學と認識論とは同一なりや。

**國史學科**（二時間）

一、繼體天皇の皇位を繼承し給ふに至りし事情及び其の御系統を記せ。
二、大覺寺、持明院兩統迭立の起因及び其の事實を記せ。
三、左の人々の中より五人を選び各人に就き其の主要なる事蹟を記せ。

葛城襲津彦　大伴金村　石上宅嗣
清原夏野　源隆國　花山院師賢
細川高國　小早川秀秋　堀田正俊
阿部正弘

**敎育學科**（二時間）

一、一般的陶冶と職業的陶冶との意味を明かにし、其關係を述べよ。
二、左について知れる所を述べよ。
潛在意識　演繹推理　プラグマチズム

**東洋史學科**（二時間）

（甲）
一、張騫の事蹟及び西域より漢代の支那に傳はりたる西方の物產につきて記せ。
二、佛敎東流に關する諸說につきて記せ。
三、元代の東西（亞歐）交通につきて記せ。

四、王陽明の人物學風につきて記せ。
右四題の中隨意にいづれか二題を選擇すること。

（乙）
五、元といふ國號につきて記し併せて其他諸代の國號に言及せよ。
六、元末明初の支那と朝鮮との關係につきて記せ。
右二題中の中隨意にいづれか一題を選擇すること。

以上(甲)(乙)二種合せて三題の答案を記すべきこと。

**心理學科**（二時間）

一、『己ノ欲スル所ニ從ツテ矩ヲ踰エズ』と云ふ境涯の心理學的意義如何。
二、エーベル Weber 氏の法則とは何か。
三、調和感情 Feelings of harmony とは何か。
四、民族心理學 Völkerpsychologie とは何か。
五、反應時間 Reaction time とは何か。
六、情緖に伴ふ生理的身體的變化を略述せよ。
七、聽運動型とは何か。
八、概念とは何か。
九、ヴント Wundt の心理學の特徵如何。
一〇、次の人々について知れる所を記せ。
(a) W. James　(b) A. Binet　(c) F. Galton
(d) Stanley Hall　(e) W. Köhler

## ◎岡山醫科大學

**英文和譯**（一時間半）

1. It is said to be difficult to supply the demand for temporary clerks and typists to take the places of the invalids. City restaurants where the same customers crowd in for lunch day after day are now often half full. The normal noise of town is diversified by a chorus of coughs and sneezes. Everybody, or at least every other body, seems to be or to have been suffening from influenza. Some of them have had only a bad cold, but they call it influenza all the same.
2. Harvey may be truly described as the founder of modern physiology and scientific medicine: he refused to be bound by tradition, yet, whilst discarding traditional teaching for which he could find no basis in fact, he paid honour to the earlier workers; above

all, he always insisted on testing the truth of inferences and on seeking the explanation of observed facts by means of animal experiments, not excluding observations on man himself.

### 獨文和譯（一時間半）

1. Glück ist nur, wenn man also feststeht und auf diese weise hell und gescheit wird. Es ist ja nur aus Blindheit und Gleichgewichtsmangel und Lossprung vom Mittelpunkt, dass die Menschen Toren werden und wilde Narren, und lügen, betrügen, stehlen, ehebrechen, rauben und morden, im Rausch, im Taumel leben, nach Glück haschen und das Elend erhaschen.

2. Sind nun die Naturgesetze als blosse subjektive Vorschriften für die Erwartung des Beobachters, an welche die Wirklichkeit nicht gebunden ist, wertlos? Keineswegs! Denn, wenn auch der Erwartung nur innerhalb gewisser Grenzen von der sinnlichen wirklichkeit entsprochen wird, so hat sich erstere doch vielfach als richtig bewährt, und bewährt sich täglich mehr.

### 動物學及植物學（一時間）

世代交番（Generationswecksel）を動物及植物の各一種を擧げて——但し動物にありては「ペテロゴニー」（Heterogonie）を含むものを撰びて——詳に說明すべし。

## ◎新潟醫科大學

### 物理學（二時間）

1. d' Arsonval の電流計を說明せよ。
(moving coil galvanometer Drehspulengalvanometer)
2. 電磁波を波長の順に列記しその各々に付て特性を記せ。

### 數學

一次ノ化學反應ニ於テ，濃度ガ單位時間ニ減ル割合ハ濃度ニ比例スル，即チ $\frac{dc}{dt} = -kc$ c 濃度 t 時間 k 常數 最初ノ濃度ヲ C。トシタ場合ノ濃度ノ變化ヲ「グラフ」デ示セ。



### 物理學（一時間）

1. 電流。磁力線及電線の運動に關する所謂フレミング氏三指法則を記載せよ。
2. 抛物鏡を以て光線を正しく焦點に集合せしめ得る理を數學的に說明せよ。

### 化學（一時間）

1. Kohlenoxyd (Carbonic oxyde) の存在。性質。實驗室內製法及其際起る化學反應を式にて記せよ。
2. Aliphatische Aldehyde (Aliphatic aldehydes) 及 Aromatische Aldehyde (Aromatic aldehydes) につき互に異なる性質を記せよ。
3. 下記物質の化學式並に常温，常壓に於ける外觀を記せよ。
   a. Kaliumnichromat (Potassium bichromate).
   b. Ferricyankalium (Potassium ferricyanide).
   c. Pyrrol (Pyrrhol).
   d. Malonsäure (Malonic acid).
   e. Chinolin (Quinoline).
   f. Naphthalin (Naphthalene).

### 化學（一時間半）

1. 酸性度に就いて。
2. アミン類の性質に就いて。
3. 水溶液中の左記諸イオンの除去法を記せ。
(イ) $SO_4''$　(ロ) $Cl'$　(ハ) $Ca''$　(ニ) $PO_4'''$

### 動植物學（一時間半）

1. メンデルの法則を述べよ。
2. 次の現象の差異を說明せよ。
(a) 無性生殖と單爲生殖。
(b) 共生と寄生。

### 英文和譯（一時間半）

1. The apple is the commonest and yet the most varied and beautiful of fruits. A dish of them is as becoming to the center-table in winter as was the vase of flowers in the summer —a bouquet of spitzenbergs and greenings and northern spies. A rose when it blooms, the apple is a rose when it ripens. It pleases every sense to which it can be addressed, the touch,

the smell, the sight, the taste; and when it falls in the still October day it pleases the ear. It is a call to a banquet; it is a signal that the feast is ready. The bough would fain hold it, but it can now assert its independence; it can now live a life of its own.

From "Winter Sunshine." John Burroughs.

2. With malice toward none; with charity for all; with firmness in the right, as God gives us to see the right, let us strive on to finish the work we are in; to bind up the nation's wounds; to care for him who shall have borne the battle, and for his widow, and his orphan—to do all which may achieve and cherish a just and lasting peace among ourselves, and with all nations.

From the Second Inaugural Address of Abraham Lincoln.

### 獨文和譯 (一時間半)

1. Wenn überhaupt ein Beruf, so erfordert derjenige des Arztes Vollmenschen. Nicht die wissenschaftliche Ausbildung allein macht den Arzt, nicht das medzinische Können und die technischen Fertigkeiten, deren Beherrschung damit Hand in Hand geht, genügen dazu; in ebenmässiger Weise verlangt gerade dieser Beruf eine harmonische Durchbidung des Charakters, sittliche Selbstzucht im Leben, besondere Gaben des Gemütes und des Verstandes, Menschenliebe und Menschenkenntnis, Selbstvertrauen, einen starken Willen, Pflichttreue, Wahrhaftigkeit gegen sich selbst und gegen andere.

2. Unter dem Namen der Kohlenhydrate fasst man eine Gruppe sehr wichtiger Stoffe zusammen, von denen ein Teil, wie Stärke und Rohrzucker, zu den Nahrungsstoffen des Menschen gehört. Die alte Bezeichnung „Kohlenhydrate" rührt davon her, dass die Verbindungen ausser Kohlenstoff die Elemente Wasserstoff und Sauerstoff im gleichen Verhältnis wie im Wasser enthalten, nämlich zwei Verbindungsgewichte Wasserstoff auf ein Verbindungsgewicht Sauerstoff.

### 和文歐譯

新學期の始まるまでに宿を極めて置きたいのだが僕はまだ新潟の勝手もよくわからないしするから御面倒でも君ひとつお世話を願へないだらうか。

小人數の素人家でうちのもの同樣に面倒を見て呉れる處があれば無論それに越した事はないけれども，風儀がよくて小ざつぱりして靜かなら普通の下宿屋 (Pension) でも差支へがない。

## ◎長崎醫科大學

### 英文和譯

The student becomes a student in all subjects and a scholar in some. Choosing his vocation at an earlier age than did his father, he elects studies that specially fit him to take up his professional preparation. For medicine he takes chemistry, biology, and physics: for law, history and economics; for theology, phylosophy and psychology. Through such concentration he gains in power as well as in special Knowledge. Knowing that all studies aid in every professional equipment, and knowing, too, that he is a citizen and an individual person, he appreciates the value of studies that seem unrelated to his future. He thus realizes that no opportunity should be neglected, no advantage wasted. He thus becomes an academic miser, or a scholastic power house.

### 和文英譯

吾人が現社會に立つて最も大切とする所のものは何ぞ，曰く吾人の精神の基礎を定むることである精神の基礎がなかつたならば吾人の精神は決して安立することは出來ぬ安立することが出來ねば活動することは無論不可能である。果して然らば其安立する所の基礎は何であるか，其れは財產でもない權勢でもない地位でもない。學識でもない唯一箇の至誠の心である。

### 獨文和譯

Wegen des Mangels an Vernunft, also an Allgemeinbegriffen, ist das Tier, wie der Sprache, so auch des Lachens unfähig. Dieses ist daher ein Vorrecht und charakteristisches Merkmal des Menschen. Jedoch

hat, beiläufig gesagt, auch sein einziger Freund; der Hund, einen analogen, ihm allein eigenen und charakteristischen Akt vor allen andern Tieren voraus, nämlich das so ausdrucksvolle, wohlwollende und grundehrliche Wedeln.

**和文獨譯**

吾々の時代では法律が道德と正反對になつてゐるのは珍らしい事でもないが古代では法律と道德とは固る美しい調和を保て居たものだ。

**數學**

1. $2x^2+2y^2+2x-2y-5=0$ ハ如何ナル圓ヲ表スカ。(半徑ノ長サ及中心ノ位置如何)
2. $y=(1+x^2)^n\log(1+\sin^2x)$ ノ $\frac{dy}{dx}$ ヲ求ム。
3. 積分ノ近似値ヲ求ムルニ當リテ使用サルヽしむぷそんノ法則ヲ簡單ニ說明スベシ。

**物理**

1. 內部抵抗各 1.5 オームの電池 18 個を用ひて抵抗 3.5 オームの external circuitに最大の電流を通すには如何に配列すべきか。
2. 次の事項につきて簡單に述べよ。

(1) 三極眞空管　(2) 原子番號
(3) ヤング率　(4) 定常波
(5) 理想氣體(完全なる氣體)

**化學**

1. 石炭タールの分溜によりて生ずる物質及此等より製出し得る主要なる物質を列擧せよ。
2. 空中窒素の固定法とその應用を問ふ。
3. 鹼化及加水分解とは如何なる事か。例を擧げて說明せよ。

# ◎千葉醫科大學

**化學**

1. 窒素を得る方法を列記せよ。
2. 次の化合物の化學構造式を記入せよ。

| | |
|---|---|
| エチールアルコール | エチールエーテル |
| 醋酸 | 石炭酸(フエノール) |
| サリチール酸 | グリセリン |
| クロロフオルム | アセトン |
| フオルムアルデヒード | 尿素 |

**動物學**

1. 變態 (Metanorphose, Metamorphosis) とは何か。四つの例を擧げて說明せよ。
2. 動物發生に於ける三胚葉 (Drei Keimblätter, Three Germlayers) の名稱をあげ，各胚葉より分化する器官又は組織の名稱を各胚葉に就き二つ宛擧げよ。

**和文獨譯**

一般に機械類は使へば使ふ程其能率が低下して終には使用に耐へなくなる。反之體の臟器や組織は適當に働かすと形態上發達するのみならず其機能も旺盛になる。夫れ故に吾々は安逸と過勞とを避け休養しつゝ，働き身心の發達を計らねばならぬ。

**獨文和譯**

1. Das Reiten würe hübsch nur dass man leicht Hals und Beine bricht.
2. In Not und Tod werden auch Feinde zu Freunden wenn sie anders Menschen sind.
3. Wenn in früheren Zeiten wrissenschaftlicheu Qualifikationen der Militärärzt im grossen Publikum als eine niederwertige angesehen wurde, so ist heute mit hoher Befriedigung festzustellen.

**英文和譯**

1. These investigators are all only known to us through references in the works of that great physician who absorbed all the knowlege and art of his contemporaries and predecessors and placed medicine upon a firm foundation ——in the works of Galen.
2. A fact of greatest significance, however, was that in learned circles of Bagdad not only were theology and philosophy, philology and literature studied, but a deep and lasting enthusiasm was aroused for the different branches of mathematics and natural science and in thees subjects in particular, despite the fact that in-

spiration was constantly sought from the achievements of the ancients, new ideas, fresh observations and wider experience were added to the sum of inherited knowledge.

### 佛文和譯

**1.** De toutes, les branches de l'entendement humain, la médicine est, sans conteste, celle dont le domaine est le plus étendu ; ses frontiëres sont necessairement imprécises, car elle doit empiéter à chaque moment sur le terrain des autres sciences.

**2.** Il faut m'oublier ! Il faut ! Il ne faut plus m'aimer, Challange ! …… J'ai beaucoup d'amitié pour vous. Prouvez-moi que vous la méritez ; …… Vous m'oublierez …… Ce sera bien facile pour vous …… Répondez ! …… N'est-ce pas ? Vous ne vous obstinez plus ? Vous renoncez à vos folies ? … Dites ? … Dites ? Vous allez partir ? …… Ah ! Vous êtes effrayant ! Ecoutez ! Ecoutez ! …… Vous vous trompez sur moi …… Vous me connaissez mal. Ce n'est pas tout à fait votre faute …… Ecoutez …… Je vais essayez de vous dire …… Mettez-vous là…… Vous comprendrez, jén suis certaine …… Pourquoi vivre toujours dans une espèce de lutte ? Est-ce que nous ne pourrions pas enfin nous parler doucement, calmement, sans cette obsession de vos regards sur moi ? …… Je ne suis pas combative, moi. Je náime pas, je ne sais pas lutter. Cela m'épuise d'avoir toujours à vous opposer cette attitude armée et hostile …… Jáimerais tellement mieux vous expliquer doucement ce que je suis, ce qu'est ma vie …… J'aurais tant de choses à vous dire ! Je vous assure que vous ne me connaissez pas.



## ◎京都帝國大學醫學部

### 英文和譯

**1.** If an animal dies on dry land, where its bones lie exposed to the summer's sun and rain and the winter's frost and snow, it does not take these destructive agencies long to reduce the bones to powder; in the rare event of a climate devoid of rain, mere changes of temperature, by producing expansion and contraction, will sooner or later cause a bone to crack and crumble. (20點)

**2.** In a general way it may be said that much of what at the first glance we might term extinction of animals is really the replacement of one set of them by another better adapted to surrounding conditions. There are many cases of animals, and particularly of large animals, so very obviously adapted to their own special surroundings that it requires little imagination to seet that it would have been a dffiicult matter for them to have responded to even a slight chang: in the world about them. (30點)

**3.** The beauty of nature can never be given by description. Words place themselves in array indeed, like loose pieces of mosaic, one after another, but one understands not the whole picture put together piecemeal. Thus it is in nature; of the entire greatness there must be always something wanting. One gives the single pieces, and thus lets the stranger put them together himself; but if hundreds saw the complete picture, each would represent it very differently. It is with nature, as with a beautiful face; no idea can be formed of it by the mere details of it; we must go to a well-known object, and only when we can say, with mathematical precision, that this resembles that, with the exception of this or that particular, can we have, in any degree, a satisfactory idea.

(50點) mosaic 寄木細工 (剪嵌細工)

### 獨文和譯

**1.** An den Ufern des Nil begegnen uns in Zeiten, in denen die Geschichte Europas noch im tiefsten Dunkel liegt, bereits die Spuren einer künstlerischen Tätigkeit, von der wir ein geschichtlich begründetes Bild zu gewinnen vermögen. Wie sich überhaupt höheres Kulturleben zuerst in den Stromtälern entfaltete, so war dies besonders hier der Fall. Ohne den Nil wäre Aegypten eine ebenso unwirthare Wüste wie die angrenzenden Teile von Afrika. (20點)

**2.** Der wichtigste Schritt in dem Fortschritt einer

jeden Wissenschaft ist das Messen von Grössen. Diejenigen, welche sich mit der Beobachtung der Tatsachen begnügten, haben gelegentliche Dienste geleistet, indem sie die Aufmerksamkeit anderer auf Erscheinungen richteten, die sie gesehen hatten; die grossen Fortschritte der Wissenschaft verdanken wir aber denjenigen, die sich bemühen, aufzufinden, wieviel von jedem vorhanden ist. (30點)

3. Naturschönheiten lassen sich durch eine blosse Erzählung niemals wiedergeben. Die Worte folgen ja, wie lose Mosaikstücke, hintereinander, das ganze Bild wird stückweise zusammengesetzt, man wird nicht, wie in der Natur, von dem grossen Ganzen ergriffen, und immer bleibt es mangelhaft und unvollkommen. Man giebt die einzelnen Teile und lässt den Fremden sich das Bild selbst zusammensetzen; könnte man aber bei einer grösseren Anzahl von Personen sehen, was für ein Bild sie sich nach ihrer Auffassung daraus gemacht haben, wie grosse Verschiedenheiten würden sich zeigen. Es geht mit der Natur wie mit einem schönen Antlitz; durch Aufzählung der Einzelheiten bei beiden wird der Gesamteindruck doch nicht begreiflich; man muss einen bekannten Gegenstand zu Hilfe nehmen, und nur, wenn man mit mathematischer Gewissheit sagen kann, sie ähneln einander bis auf diese oder jene Einzelheit, entsteht ein einigermassen befriedigender Begriff. (50點) Mosaik 寄木細工(剪嵌細工)

## 植物學

1. 細胞含有物Inclusion of the protoplasm Einschlüsse des Protoplasma の種類を列擧せよ。(說明を要せず)
2. 分子間呼吸 Intramolecular respiration, Intramolekulare Atmung の意義。
3. 重複受精 Double fertilization, Doppelte Befruchtung とは如何なる現象なるか。

## 動物學

1. 次の事項に就きて簡單に記述す可し。
   (1) 體細胞 (Somatische Zellen, Somatic cells) とは何ぞや。
   (2) 分化 (Differenzierung, Differentiation) の意義。
   (3) 相稱 (Symmetrie, Symmetry) の種類を列擧せよ。
   (4) 總排泄腔 (Cloaca) とは何ぞや。
2. 次の動物の所屬を問ふ。
   (1) ヒドラ (Hydra) (2) 肝蛭 (Fasciola hepatica)
   (3) イヒダコ (Polypus membranaceus)
   (4) ダニ (Ixodes röcinus)

## 物理學

1. 電氣容量 K Farad なる蓄電器を V volt の電源にて荷電せり。此際電源は蓄電器に對して幾何の仕事をなしたりや。
2. 一定の音が種々の異りたる氣體に波及する場合に(イ)其波長(ロ)其振動數(ハ)其速度に變化ありや。あらば其關係式を記せ。
   (イ) 波長　　(ロ) 振動數
   (ハ) 速度
3. 二つの半球より成立せる半徑 r なる球狀剛體あり，其外面のみに p の壓力が作用するものとす。これを其二つの半球に引き離す爲めには幾何の力を要するか。

## 數學

1. 一ノ曲線ガアル，直角坐標ニ於テ曲線上ノ點ノ坐標 $x, y$ ガ $-\frac{dy}{dx}=(1-x^2)^{\frac{1}{2}}$ ノ如キ關係ニアル。コノ曲線ノ全長求ム。
2. $a\cos x+b\sin x$ ノ極大値又ハ極小値ヲ求ム。但シ a, b ハ共ニ正數トスル。
3. 直線 $y=3x-2$ ガ曲線 $y=x^3$ ノ切線デアルコトヲ證セヨ。

## 化學

1. 玆ニ精製セル食鹽及ビ砂糖(甘蔗糖)アリ，何レガ食鹽ニシテ何レガ砂糖ナルカ，之ヲ短時間ニ區別スル方法六ツヲ記セ，但シ裝置，器械及ビ試藥等凡テ完備セル場處トス。
2. 次ノ化學方程式ヲ完成シ其主要產物ノ名稱ヲ記セ。
   A. $2NaCl+MnO_2+2H_2SO_4=$
   (熱ス)
   B. $C_6H_6+C_2H_5Cl+AlCl_3=$
3. 次ノ構造式ノ名稱ヲ記セ
   A. $NH_2\cdot CO\cdot NH_2$　　B. $CH_3\cdot CH(OH)\cdot COOH$
   C. $C_6H_5\cdot NH\cdot COCH_3$　　D. $CH_2\cdot (COOH)_2$

E. $C_6H_4(OH)_2$ (1:3)

# ◎京都帝國大學文學部

## 史學科

### 國語

一、世の中になほいと心うきものは人ににくまれむことこそあるべけれ誰てふものぐるひかわれ人にさおもはれむとはおもはむされどしぜんに宮づかへ所にも親はらからの中にても思はるゝおもはれぬがあるぞいとわびしきやよき人の御事は更なりげすなどのほどども親などのかなしうする子は目だち見たてられていたはしうこそおぼゆれ見るかひあるはことわりいかゞ思はざらむとおぼゆことなることなきは又これをかなしと思ふらむは親なればぞかしとあはれなり。

二、冬ごもり春の大野を燒く人はやきたらねかもわが心やく。

三、(イ)佐野の馬かんろのやうな豆をくひ。
(ロ)歌一首あるではなしにけつまづき。

### 獨文和譯

1. Der Weggang der Jesuiten aus Japan hat auch alle ihre Bestrebungen beendet, und die Druckerei nach europäischer Art hat gar keinen Einfluss auf die Technik Japans ausgeübt. Die vorhandenen Bücher wurden von der Regierung in Japan vernichtet und auch der Import von Büchern zeitweilig ganz verboten. Im 18. Jahrhundert bestand zwar noch dieses Verbot, es wurde aber hauptsächlich auf Bücher mit religiösem Inhalt angewendet, während andre, wie z. B. Wörterbücher, geduldet waren.

2. Weltpolitik als eine innerlich verbundene Einheit, als Gesamtheit der Verhälthnisse in einem Weltstaatensystem konnte erst ihren Anfang nehmen, als sich gleichberechtigte Kulturstaaten ausserhalb des abendländischen Kulturkreises zum europäischen Staatensystem hinzugesellten. ......Erst als die ostasiatischen Mächte in den Kreis der politischen Interessen des Abendlandes eintraten und auf diesen zurückwirkten, entstand das Weltstaatensystem.

3. Die überraschende Wehrlosigkeit des chinesischen Kolosses und der leichte Erfolg des japanischen Vorstosses, durch den auf dem Festlande plötzlich ein neuer, schwer zu wägender Machtfaktor entstanden ist, bringt in die bisherige scheinbare Stille an den Gestanden des Grossen Ozeans eine rasch anwachsende, zunächst noch unsichere Bewegung. Diese Stille im Zentrum der ostasiatischen Welt war die Folgeerscheinung nach einer Sturmperiode, die genau sechzig Jahre vorher, 1834, eingesetzt hatte und dreissig Jahre später zum Abschluss gekommen war.

### 英文和譯

1. I have remarked that the stories of treasure buried by the Moors, so popular throughout Spain, are most current among the poorest people. Kind nature consoles with shadows for the lack of substantials. The thirsty man dreams of fountains and running streams; the hungry man of banquets; and the poor man of heaps of hidden gold: nothing certainly more opulent than the imagination of a beggar.

2. China at this time of the Han dynasty, was the greatest, best organized and most civilized political system in the world. It was superior in area and population to the Roman empire at its zenith. It was possible then for these two vast systems to flourish in the same world at the same time in almost complete ignorance of each other. The means of communication both by sea and land was not yet sufficiently developed and organized for them to come to a direct clash. Yet they reacted upon each other in a very remarkable way, and their influence upon the fate of the regions that lay between them, upon Central Asia and India, was profound.

### 佛文和譯

1. Considérée sous cet aspect, la grande oeuvre de Mahomet, l'Islam, est une religion qui s'est donnée pour but de remonter le cours des âges, afin de retrouver l'unitarisme absolu des ancêtres arabes, c'est-à-dire des ancêtres assyriens. Epurer l'arabisme de son temps, voilà donc ce que le Prophète se propose; pour

instruments, il emploie les notions chrétiennes et juives, et il les choisit de préférence parce que ces religions lui présentent une forme de l'unitarisme plus exacte que les production contemporaines de la même idée.

2. En plus de la lutte entre le désert et les régions cultivées, le pays a été le théâtre d'une autre lutte, celle des races, les peuples et des civilisations.

Dans l'antiquité, la population de l'Asie centrale se composait d'Aryens au sud, et au nord, de nomades. Les premiers habitaient les vallées des grands fleuves et peuplaient en partie les vallées plus étroites des montagnes; les seconds erraient dans les steppes et dans les pâturages des montagnes. Le bien—être relat:f des sédentaires excitait naturellement les convoitises des nomades.

## 漢　　文

一、左の本文に句讀返り點を附し、別紙にその意味を解釋すべし。

士窮不失義達不離道窮不失義故士得己焉達不離道故民不失望焉古之人得志澤加於民不得志脩身見於世窮則獨善其身達則兼善天下

二、左の本文に返り點を附し、横線を施せる文句のみを別紙に解釋すべし。

夫毀譽者愛惡之原。而禍福之機也。孔子曰。吾之於人誰毀誰譽。以聖人之德猶尙如此。況庸庸之徒而輕毀譽哉。人或毀己當退而求之於身。若己有可毀之行。則彼言當矣。若己無可毀之行。則彼言妄矣。當則無怨於彼。妄則無害於身。又何反報焉。諺曰救寒莫如重裘。止謗莫如自脩。斯言信矣。

三、左の文章の横線を施せる文句のみを別紙に解釋すべし。

鄧捌秦人也。身長七尺。能以力雄人。一日獨飲娼樓。蕭馮兩書生過其下。急牽入共飲。兩生素賤其人力拒之。捌怒曰。捌亦粗知書。君何輕視。今日非速君飲。欲少吐胸中不平氣耳。四庫書從君問。卽不能答。當血是刀。兩生曰有是哉。遂摘七經數十義叩之。捌歷舉傳疏。不遺一言。

# 獨文學科

## 國　　語

一、わかき人三四人ばかり色々のすゞしのきぬねりぬきなどなえばみたるをきて椽にいでたりところのさま神さびふるめかしかりつるよりはめやすきさまなめるかなと見るむかしの身のありさまいかなりし人のはてぞなとなつかしくとひ尋ねあへり。

二、長の日をかわく間もなし誕生佛五月雨もしまひのはらり〳〵かな露にまかり出でたよひきおへる、

三、老ゆ手に鏡もすてゝ久しければ我面影は我忘れにたり今は此繪よりも劣りぬらんものをとあさましく且つなつかしく暫見とれぬる内に傍の童の口さがなくてよみける

金岡が馬にならばゞ夜は出でゝ
萩の戸棚の餅やさがさむ

いとにくけれどいかゞはせん。

## 獨文和譯

1. Was ist Gehalt? Was ist Gestalt? Gehstalt ist das Gedankliche, ist —um sich altgewohnter Ausdrücke zu bedienen —alles, was aus dem Umkreis des Erkennens, Wollens und Fühlens in einem Kunstwerk enthalten ist. Denselben Umkreis beschreitet die issenW schaft. Ihre Aufgabe und ihr Wesen ist, all dies Gedankliche in begriffliche Worte umzuwandeln. Die Kunst geht über die Wissenschaft hinaus, indem sie den gleichen Gehalt in Gestalt umsetzt, in etwas, das auf unsere Sinne, auf die äusseren wie auf die inneren, wirkt. Ganz unbedingt und uneingeschränkt tun dies bildende Kunst und reine Musik.

2: Erdgeboren

Über mir in wolkigen Lüften
Wogen Lerchen traumverloren.
Tief im Heidekraute lieg ich,
Fühle mich so erdgeboren:

Ganza, ls ob ich aus der Scholle
Wildentwachsen wär, wie Bäume,
Leicht vom Heidewind geschaukelt,
Erde halb .— und halb auch Träume.

Ganz, als ob ich aus der Scholle
Aufgeflogen wär mit Schwingen,
Hoch im Sommerwind aufsteigend,
Erde halb — und halb doch Klingen.

1. 私は或る「獨逸文學史」を讀んでゐるが，有名な詩人があんまり多すぎて，誰から始めていゝのか，まるでわからない。

2. 老ゲエテがある日のことエッケルマンに云つた，「世間ではいつも私のことを特に幸福に依て惠まれた人間のやうに云ひはやしてきたが，私は恐らくかう云へるだらうこの七十五年間に本當に快かつた日は四週間も無い位だつたと。それは，一つの石を絶えず新らたに轉がしては，また轉がしてゆくやうなものであつた。」

### 漢　　文

君子之道莫大乎以忠誠爲天下倡世之亂也上下縱於亡等之欲姦僞相吞變詐相角自圖其安而予人以至危畏難避害曾不肯捐絲粟之力以拯天下得忠誠者起而矯之克己而愛人去僞而崇拙躬履諸艱而不責人以同患浩然捐生如遠游之還鄉而無所顧悸由是衆人效其所爲亦皆以苟活爲羞以避事爲恥嗚呼吾鄉數君子所以鼓舞群倫歷九州而戡大亂非拙且誠者之效歟亦豈始事時所及料哉。

曾國藩湘鄉昭忠祠記

右本紙に返點送假名を附し別紙に解釋をなすべし。

# ◎京都帝國大學農學部

## 農林化學科

### 物　理　學

1. 20 秒間の速度にて運動する質量 50 瓦の物體を $\frac{1}{100}$ 秒間に靜止せしむるに要する力は幾ダインなるか。

2. 光が水の中を進む速度は空氣の中を進む速度より小であることを說明せよ。

### 化　　學

1. 複鹽，錯鹽，酸性鹽，鹽基性鹽につき例を舉げて說明せよ。

2. 旋光體の性質を簡單に說明せよ。

### 動　物　學

1. 次の學者は如何なる分科に於て如何なる貢獻をなしたるか。

(範例．ドフリース，遺傳學，突然變異)

リンネ (Carl von Linne)

ダーウキン (Charles Darwin)

メンデル (J. G. Mendel)

フアーブル (J. H. Fabre)

2. 有用物質を生產する昆蟲二例を舉げ，其の物質を形成する器官を記せ。

(範例．ラック介殼蟲，塗料シエラック，皮下腺)

### 植　物　學

1. 分子間呼吸 (Intramolecular respiration) 及醱酵作用 (Fermentation) を說明しその異同を比較せよ。

2. 顯花植物及羊齒植物の世代交番 (Alternation of generations) を比較對照せよ。(成るべく表示せよ)

## 農林工學科

### 物　理　學

1. 水平面と 45° をなす傾斜面上を滑り落つる物體あり，摩擦係數を 0.2 とすれば加速度は幾何なりや。

2. 次の語を簡單に說明せよ。

(イ) 凝染力：粘着力 (Cohesion Adhesion)

(ロ) 粘性係數 (Coefficient of viscosity)

(ハ) 比熱 (Specific heat)

(ニ) ヤング率 (Young's modulus)

### 數　　學

1. In the curve represented by the equation

$$y=4x^3-33x^2+72x+10,$$

find two points, at which the tangent to the curve is parallel to the axis of $x$.

2. Calculate the area bounded by the four lines, whose equations are

$$xy=75,\quad x=4,\quad x=24,\quad \text{and } y=0.$$

### 英 文 和 譯

1. At the present moment in scientific history, as a result of a rapid and brilliant series of experimental discoveries which have taken place during the last fifteen years, we stand face to face with necessary changes in our scientific theories, concerning the nature

of two things, matter and energy, regarded by our predecessors as definitely settled foundations of all science. It is not perhaps too much to say that twenty years ago there had developed a cast-iron belief that matter and energy, and these alone, were the two fundamental entities of the physical world, and that each was eternal, unalterable, and had existed in fixed amount from the beginning of days, uncreatable and indestructible.

**2.** Fellows and other visitors to the Zoo who dislike its crowding in summer should take advantage of its winter emptiness, for the changes in recent years have been to the advantage not only of the animals, but of those who wish to see them in comfort. Let them begin with the new Monkey House. It is roomy, well-ventilated, and not oppressively warm, and the electric light, installed for the direct benefit of the monkeys, makes them not only gay and active but also visible. The Aquarium is also reasonably cool for visitors, and the tanks are lighted so as to make the coloration and fantastic shapes and movements of the aquatic creatures even more delightful than when daylight filters through the double glass roofs.

## 獨 文 和 譯

**1.** Die nördlichen Völker sind also stärkere Teetrinker als die südlichen, England dürfte heute Russland wohl schon überholt haben. Die Schweiz mit ihrem Teeverbrauch von 0,75 kg pro Kopf ist wegen der vielen Touristen nicht mitzurechnen, die hier am Teekonsum hervorragend mitbeteiligt sind. Von den englischen Frauen hat ein Autor gesagt: "Es gibt etwas, was ihnen mehr gilt als Sie und ich-das sind sie selbst; etwas, was ihnen mehr gilt als ihr eigenes Ich—das ist ihr Ruf; und mehr noch als Ruf gilt ihnen—Ihr Tee."

**2.** Der Tag ging zur Neige. Das Antlitz der Sonne begann sich zu röten, und bald tauchte der feurige Ball mit seinem unteren Rande in die Fluten ein. Lange purpurne Strahlen streiften die Wellenkämme und schienen sie in ihrem Innern zu entzünden. Die Ortschaften längs der Küste standen in ihrem Wiederschein wie in Flammen, und über ihenen hüllte der Apennin sich in sein abendliches Festgewand. Immer tiefer sank die Sonne in das blaue Meer hinab, dann verschwand sie und damit war ein weiterer Liebenstag zu Ende.

## 佛 文 和 譯

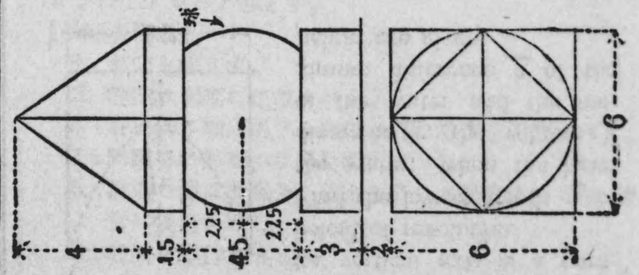
**1.** Le soleil se couvre, les premiers roulements du tonnerre se font entendre; les crocodiles y répondent par un sourd rugissement, comme un tonnerre répond à un autre tonnerre. Une immense colonne de nuages s'étend au nord-est et au sud-est le reste du ciel est d'un cuivre sale, demi-transparent, et teint de la foudre. Le désert éclairé d'un jour faux, l'orage suspendu sur nos tes et près d'éclater, offrent un tableau plein de grandeur.

**2.** On voit quelle est l'extraordinaire difficulté du rôle de l'agriculteur en présence de tous les phénomènes capables de favoriser ses intérêts, ou de leur nuire, de la façon la plus imprévue. la fertilité du sol est la résultante d'actions combinées d'une variété presque infiuie, et la connaissance de la biologie des terres explique la lentur des progrès de l'art agricole, le plus difficile de tous si l'on songe que l'action de l'homme s'exerce sur des transformations dont les condition —— à peine connues aujourd'hui —peuvent varier sans cesse.

# ◎京都帝國大學工學部

## 圖 畫

**1.** 水平面と 30° をなす直線と垂直なる他の一直線あり，この二直線の水平投象は 105° をなして相交はる。この他の一直線の水平面となす角を求む。



2. 上圖の立體の陰影を畫け。
(圖中の數字はすべて糎を單位とす)

【注　意】

1. 答案用紙第一葉には第一問題を解答すべし。
2. 答案用紙第二葉には第二問題を解答すべし。
3. 答案用紙の裏面を使用すべからず。
4. 答案用紙の最小方眼は一粍角なり。
5. 定規及兩脚器は本學部より貸與せるものを使用し，退場の際答案用紙の上に整頓し置くべし。
6. 問題に就いては質問を許さず。但し不明なる文字に關する質問は此の限りに非ず。

1. Find the inflexion point of a curve,
$$y = L^3(x/L - 3x^3/L^3 + 2x^4/L^4)$$
where x is positive and smaller than L.

2. Determine the ratio of the depth h to the inner diameter d of an open cylindrical vessel, to make the necessary material minimum, for a given capacity A when the base and the side are of equal thickness t.

3. The surface of water in a rotating cylinder about its vertical axis is a paraboloid of revolution.

Find the lowest depth a of the water, when the inner diameter 2r, the volume V of the water and the maximum difference h of the height are given.



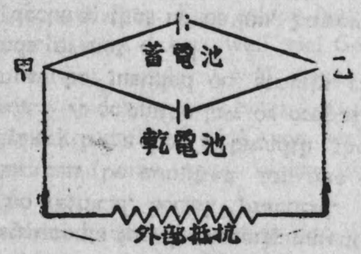
## 物　　理

1. 次の各量の單位を定義せよ。
仕事(work)，
工率(power)，
照度(intensity of illumination or illumination)，
靜電電荷(electrostatic charge)。

2. 一樣なる圓板が斜面上を滑らずして轉がり落つる時圓板の中心が最初靜止の位置より高さ h 糎だけ降下したる時の圓板の速度を求めよ。

3. 100° c. の水蒸氣を以て飽和されたる一定量の空氣あり，今この混合氣體の容積を一定に保ちて200° c. に加熱したるに壓力2氣壓となれりと云ふ。
上記と同容積同量の空氣のみの場合其の溫度 0° c. なる時の壓力を計算せよ。

4. 蓄電池(起電力 2.0 ヴォルト，內部抵抗 0.1 オーム)，乾電池(起電力 1.5 ヴォルト，內部抵抗 0.2 オーム)及外部抵抗(10 オーム)を圖の如く接續したる時甲乙二點間の電位差を求めよ。




## 化　　學

1. 次の言葉の意義を簡單に記せ。
(イ) 原子(Atom)，(ロ) 原子番號(Atomic number)，
(ハ) 同位元素(Isotope)，(ニ) 理想氣體(Ideal gas)，
(ホ) イオン(Ion)。

2. 炭素水素及び酸素より成れる有機化合物に於て酸素の結合狀態の差異を辨別して說明せよ。

3. 下の化合物の用途の1つを擧げ其應用さるゝ所以を明にせよ。
二硫化炭素，過酸化水素，臭化銀，炭化石炭，
メチルアルコール(Methylalcohol)，ピネン(Pinene)，
グリセリン(Glycerin)。

4. 稀硫酸の溶液を電解して水素瓦斯を造らんとす，今電極は何れも白金を用ひ，電流は5アンペア(Ampere)を通じたり。攝氏27度1氣壓の下に於て容積1立(Litre)の水素を得んには幾何の時間を要するや。但し1ファラデイ(Fara day)は96500クーロン(Coulonb)，1クーロンは1アンペア秒とす。

【受驗者注意】

1. 質問を許さず。
2. 答案は明晰に記載すべし。
3. 各用紙に和洋兩字を以て各自の番號を明記すべし。
4. 問題毎に答案の用紙を新にすべし。
5. 退場の節は答案を一括とし各自の座席に於て監督官に提出す可し。
6. 時間を勵行すべし。

## 英文和譯

**1.** In sciences which are concerned only with physical forces and phenomena, rules of evidence are used solely as instruments for the ascertainment of absolute truth, and no ethical, social, practical, or personal considerations can be admitted for one moment to divert or deflect by a hair's breadth the processes of pure reason. A scientific law or proposition of this character must be justified on strictly rational and logical graunds, or not at all.

**2.** History declares that no nation, however great, is entitled to try to impose its type of civilization on others. No race, not even the Teutonic or the Anglo-Saxon, is entitled to claim the leadership of humanity. Each people has in its time contributed something that was distinctively its own, and the world is far richer thereby than any one race, however gifted, had established a Permanent ascendancy.

**3.** Has any one of us ever seen a Tree? I certainly do not think that I have—exept most superficially. I sometimes ask myself what else there is in the woods beyond what I see with my eyes. I see sunlight falling upon the leaves and shining through. I see that each live branch has a manner and signifisance according to its species. I see that one tree is different from another, but I do not rightly know them. Once or twice I have thought that I have perceived more deeply, but remain uncertain. What at any moment do we behold? An image ever-transient, liquid in mutubility.

## 獨文和譯

**1.** Durch das Erdbeben wurde die Gemütsrühe des Knaben im tiefsten erschüttert. Gott, der Schöpfer und Erhalter des Himmels und der Erde, den ihm die Erklärung des Glaubensartikels so weise und gnädig vorstllte, hatte sich, indem er die Gerechten mit den Ungerechten gleichem Verderben preisgab, keineswegs väterlich bewiesen. Vergebens suchte das junge Gemüt sich gegen diese Eindrücke herzustllen, welches über haupt um so weniger möglich war, als die Weisen und Schriftgelehrten selbst sich über die Art, wie man ein solches Phänomen anzusehen habe, nicht vereiniger konnten.

**2.** Daß die Weltgeschichte von Zeit zŭ zeit umgechrieben werden müsse, darüber ist in unsern Tagen wohl kein, zweifelübrig geblieben. Eine solche Notwendigkeit entsteht aber nicht etwa daher, weil viel Geschehenes nachentdeckt worden, sondern weil neue Ansichten gegeben werden, weil der Genosse einer fortschreitenden Zeit auf Standpunkte geführt wird, von welchen sich das Vergangene auf eine neue Weise überschauen und beurteilen läßt.

**3.** Was der Mensch ist, verdankt er der Veréinigung von Mensch und Mensch. Die Möglichkeit. Assoziationen hervorzubringen, die nicht nur die Kraft der gleichzeitig Lebenden erhóhen, sondern von allem dunch thren die Persönlichkeit des Einzelnen überdauernden Bestand die vergange-nen Geschlechter mit den kommenden verbinden, gab uns die Möglichkeit der Entwicklung, der Geschichte.

## 佛文和譯

**1.** Sans doute il faut partir de la réalité, puisqu elle est le fond même des choses, l'étoffe, pour ainsi dire, des oeuvres de l'art et de l'imagination. Mais, si quiconque affecterait de la mépriser ne pourrait aboutir, dans le roman et dans la poésie, qu'à la niaiserie sentimentale ou à l'abstraction symbolique, elle n'est toutefois qu une matière confuse, à qui le propre de l'art est de donner une forme. Il ne suffit pas de voir; il faut sentir; il faudrait aussi penser! Certes, c'est une faculté rare, et qui caractérise, qui signale déjà l'artiste que le don de saisir sous forme d'image ce que le Vulgaire des hommes n'entrevoit que sous forme d'expression abstraite des choses;—et cependant c'est encore peu. Il reste à dégager ce que la réalité enferme de beauté secrète.

**2.** L· principe de la souveraineté nationale est non seul[illegible]t indémontré et indémontrable, mais il est encor[illegible] [illegible]utile. Plus que personne je crois qu'il est